



令和2年度 日本財団支援事業

新型コロナウイルス感染防護対策支援事業 報告書

令和4（2022）年3月

公益財団法人 日本訪問看護財団

内容

はじめに	- 1 -
第1章 事業の概要	- 2 -
1. 事業の目的	- 2 -
2. 事業目標	- 2 -
3. 事業の実施経過と方法	- 2 -
1) 打ち合わせ会議の設置	- 2 -
2) 感染防護具の封入内容の決定	- 2 -
3) 感染防護具の購入	- 3 -
4. 配送拠点設置	- 3 -
5. 広報活動	- 4 -
6. 申し込み対象の決定	- 4 -
7. 申し込み方法の決定	- 4 -
8. 月別申し込み状況と県別申し込み状況	- 4 -
9. 打ち合わせ会議の開催経過	- 6 -
10. 事業の実施経過	- 9 -
第2章 事業の詳細	- 11 -
1. 申し込み状況と全国への発送・備蓄数	- 11 -
2. 協力団体の活動状況	- 12 -
3. 県別月別申し込み状況	- 13 -
第3章 アンケート結果	- 15 -
第1節 概要	- 15 -
1. 目的	- 15 -
2. 研究計画・方法	- 15 -
1) 研究対象者	- 15 -
2) 研究デザイン	- 15 -
3) 研究方法	- 15 -
第2節 結果	- 17 -
1. 事前アンケート結果	- 17 -
1) 申し込み事業所・療養者などの状況	- 17 -
2. 事後アンケート結果	- 36 -
1) 療養者、家族の状況	- 36 -
2) 事業所の体制	- 40 -
3) 本プロジェクトの体制	- 47 -
4) 本プロジェクトの受益者	- 49 -
5) PPEの量	- 55 -

6) スタッフの安心感	- 68 -
7) プロジェクトの改善点などの自由コメント	- 69 -
第4章 本プロジェクトの状況と今後の活動	- 70 -
1. 本事業への写真提供と感謝メールの文面	- 70 -
2. 今後の実施状況	- 74 -
参考巻末資料	

はじめに

2019年12月に中国武漢で最初の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が発生したことが報告されてから、瞬く間にパンデミックと呼ばれる世界的な流行となりました。

日本でも2020年1月15日に感染者が確認されて以来大都市を中心に感染が拡大してきており、2022年4月現在でも第6波が高止まりで終息の気配も見せず、新たな変異株の侵入も心配されている状況です。

発症当初は医療機関を中心に感染症対策が進められていたものの、医療現場の逼迫を避けるために宿泊施設や自宅での療養者も増えてくる流れの中で、地域の健康の護り手である訪問看護師たちの活躍する場も当然のことながら大きく広がってきました。しかし小規模事業所が多く対応できないところ、感染症に対して経験不足のところ、また多くのところで感染防護具が不足などいろいろな問題が明らかになりました。

日本訪問看護財団としても訪問看護師や訪問介護員の皆さんが安心安全な体制のもとで COVID-19 感染者に対応できるよう、支援したいと願っていましたが、幸い日本財団からの財政支援を受けて感染防護具を用意することができ、介護現場支援プロジェクト吉江代表とともに全国の現場に送付する事業を立ち上げることができました。

全国に112の協力団体がおかれ、準備した4000組の感染防護具を必要とする事業所に素早く配布できるようにご協力いただきました。

一時感染者が減少し、現場からの要請が少なくなった時期もありましたが、第6波の現在はまた逆戻りの状況が続いています。感染防護具を装着した姿をみるにつけ、現場の訪問看護師たちにとっても大変な経験だったと思いますが、COVID-19の様子をうかがいながらもうしばらくしっかりと頑張っていたいただきたいと思います。

何よりも素早く対応して感染防護具に対する財政支援をしてくださった日本財団笹川会長に心から御礼申し上げます。



2022年3月31日

公益財団法人 日本訪問看護財団
理事長 清水 嘉与子

第1章 事業の概要

1. 事業の目的

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から、必要最適な感染防護具を購入し、陽性者または濃厚接触要介護者等の住まいに訪問して療養生活を支える訪問看護ステーション等にタイムリーに配布することとした。

2. 事業目標

必要適切な感染防護具を購入し必要な時に必要な訪問看護師や訪問介護員等に届けられる仕組みを全国的に構築する。さらに、訪問看護師などが感染防護具を着用し訪問する新型コロナウイルス感染症の陽性者や濃厚接触者が安心・安全な在宅療養生活を継続できるように整える。また、訪問看護師や訪問介護員等ケアチームが感染させない、感染しない、安心してケアを実施できるように体制整備を行う。

3. 事業の実施経過と方法

2020年3月、新型コロナウイルス感染症の拡大により訪問看護ステーションの訪問看護師が事業運営に不安を抱えてる状況があった。同時に、COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクトの代表、吉江悟氏も同様に訪問看護現場で必要な支援は何か検討していた。そこで、日本財団、吉江悟氏、日本訪問看護財団の3者で話し合いを行い、全国の訪問看護ステーションに感染防護具を必要な時に適切に届けられる仕組みづくりが必要だと検討され、日本財団・メットライフ生命保険より助成を受け、事業運営を実施することになった。以下、本事業の実施手順である。

1) 打ち合わせ会議の設置

COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクトの代表、吉江悟氏に参加いただき、感染防護具の内容、準備方法、仕組みづくりなど打ち合わせ会議を開催し検討した。さらに、2020年7月からは全国への配送整備の目的もかねて協力団体を募り検討を行った。

2) 感染防護具の封入内容の決定

始めに、打ち合わせ会議の中で、感染防護具の内容をガウン、手袋、マスク、キャップ、エプロン、フェイスシールド等に決定した（巻末資料1）。さらに、どのような対象にどのように準備すると効果的で訪問看護師が安心して療養者宅に訪問できるか検討した。その結果、1人の療養者に訪問している在宅ケアチーム（訪問看護師、訪問介護員、医師など）が1週間利用者に訪問した際に使用する物資を段ボールに入れる事を決定した。さらに、段ボールに入れると中身がわからなくなるため、段ボールの外側に封入物資の内容がわかるように図示した（巻末資料2）。

3) 感染防護具の購入

① 第1回購入（4000箱のPPEの準備）

株式会社ウェルファンに委託し、感染防護具等の購入・梱包・全国発送を依頼し運営。本財団のホームページにプロジェクトの申し込みフォーム(巻末資料3)を作成し、2020年7月26日より申込を開始し、全国発送を行った。PPEの準備は随時行われ、最終的に2020年9月7日には4,000箱(巻末資料2,3参照)の準備が整い継続して発送を行った。

② 第2回追加物資購入

2022年2月18日追加物資を購入し、協力団体112箇所へ発送した(巻末資料9)。

③ 第3回追加物資購入

2022年3月追加物資購入(N95マスク、指手消毒剤アルコール、アルコールホルダー)し、東京都2カ所、大阪府1カ所、愛媛県1カ所にKF94マスク、ナーシングマスクを非感染者へ訪問するために配布した。

配布地域	KF94	ナーシングマスク
東京都	3ケース	11箱
東京都	2ケース	7箱
大阪府	2ケース	7箱
愛媛県	2ケース	7箱
合計	9ケース	32箱

4. 配送拠点設置

当初全国9ブロックの活動拠点をおき、機能強化型訪問看護ステーション500箇所に活動拠点を設置し、備蓄をおこない、全国発送の予定であった。しかし、全国規模で発送業務を行っているウェルファンに業務委託をおこなう事で500箇所の拠点は不要となった。その為、有志(日本訪問看護認定看護師協議会会員含む)で集まった北海道から沖縄までの113カ所(2021/9/30現在)協力団体(巻末資料7参照)に備蓄を行い対応した。

年/月	協力団体数(延べ数)
2020年8月	25 (25)
2020年9月	5 (30)
2020年10月	2 (32)
2021年1月	2 (34)
2021年2月	2 (36)
2021年3月	22 (58)
2021年4月	27 (85)
2021年5月	12 (97)

年/月	協力団体数(延べ数)
2021年6月	7 (104)
2021年7月	2 (106)
2021年8月	4 (110)
2021年9月	3 (113)
2021年11月	-1 (112) (閉所のため)
2021年12月	(112)
2022年3月	(112)

5. 広報活動

本プロジェクトの周知をおこなう為、2020年7月リーフレット(巻末資料5)を作成し、日本看護協会、全国訪問看護事業協会などの協力を得て全国への周知をおこない、さら本財団ホームページ掲載した。都道府県看護協会(48団体)・都道府県訪問看護ステーション協議会(49団体)・都道府県介護支援専門員協議会(47団体)・都道府県ヘルパー団体(42団体)等にリーフレット(巻末資料5)を配布した。

さらに2021年4月までに申し込み者数が増えなかった為、協力団体と協議し新リーフレット(巻末資料6)を再作成し全国に広報活動をおこなった。

6. 申し込み対象の決定

申し込み事業所の条件として、訪問看護ステーション、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、看護多機能型居宅介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、療養通所介護(2021年8月6日、対象拡大)を対象とした。

さらに、申し込み療養者の条件を以下とした

- ・療養者(またはその同居家族)が新型コロナウイルスに感染した場合
 - ・療養者(またはその同居家族)が新型コロナウイルスに感染した疑いのある場合
 - ・療養者(またはその同居家族)が新型コロナウイルス感染症による入院から退院してきた場合
- また、特例として、施設などでクラスターが発生した特別養護老人施設などへも配布した。

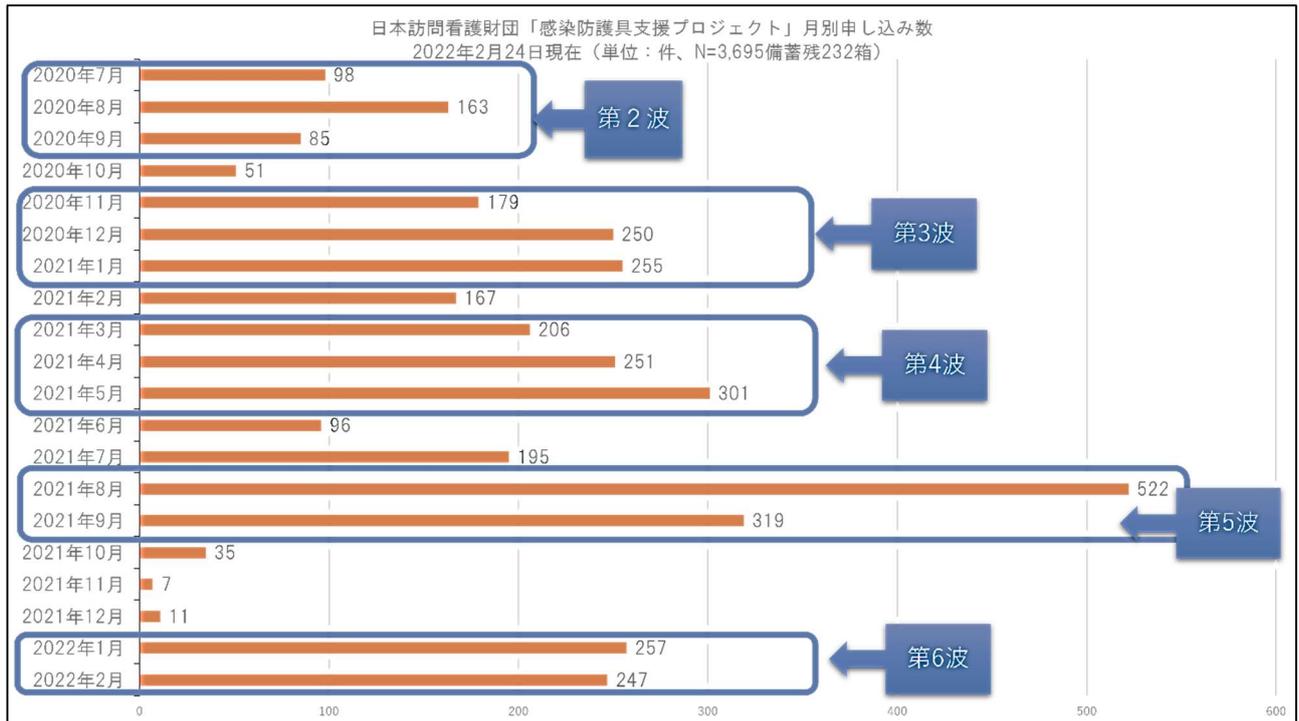
7. 申し込み方法の決定

申し込み方法(巻末資料5-2)は、当財団ホームページに申し込みフォームをGoogleフォームで作成しオンラインにて受け付けた。

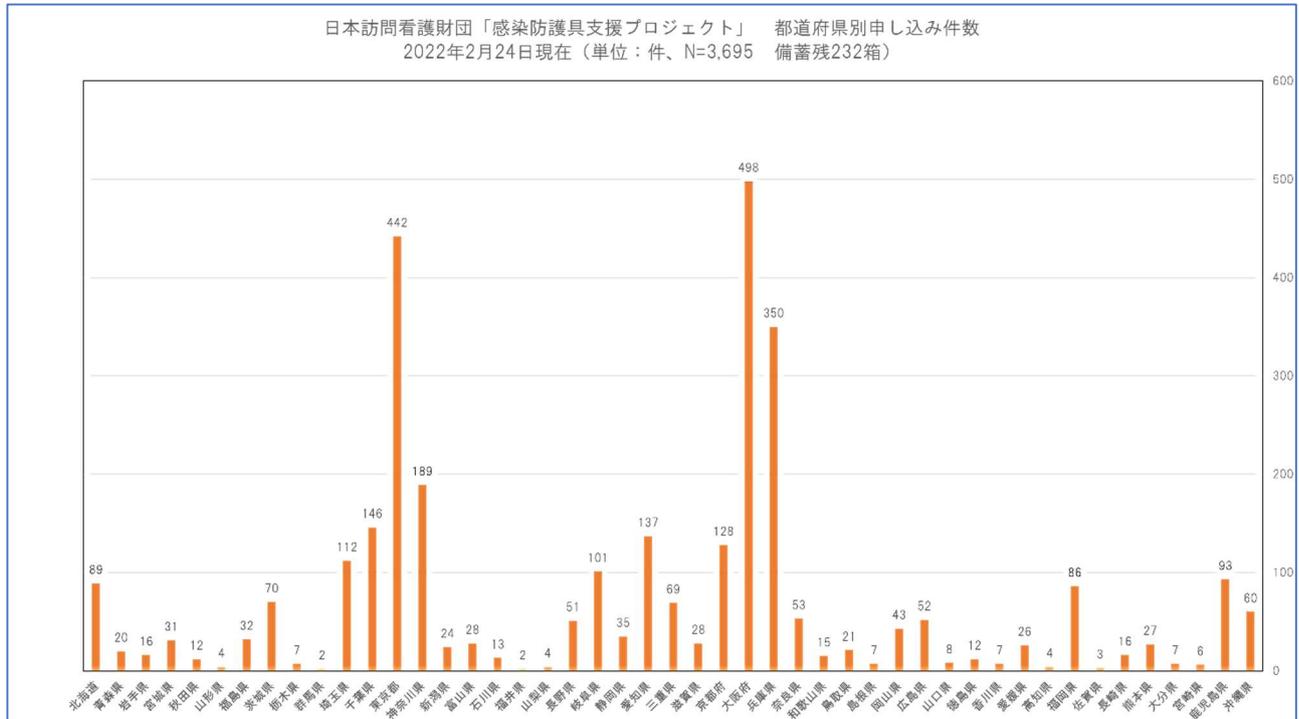
8. 月別申し込み状況と県別申し込み状況

2020年7月26日~2022年2月24日まで全国へ3,695箱配送し、その後232箱を全国協力団体に備蓄した。

① 月別申し込み状況



② 県別申し込み状況



9. 打ち合わせ会議の開催経過

本事業の進め方や全国のコロナ関連の訪問看護の状況を把握する為に、2020年5月29日～2022年1月25日まで26回の打ち合わせ会議を実施した。月1回協力団体と協議をおこない、全国のコロナ禍の状況を確認した。感染防護具セット（巻末資料1）のウェルファンの在庫が終了後、追加で感染防護具（N95マスク、手指消毒アルコール、アルコールホルダー）を購入し協力団体に配布した。さらに予算残額で追加物資（KF94マスク、ナーシングマスク）購入、訪問看護ST（都内2カ所、大阪1カ所、愛媛1カ所）へ送付し地域貢献へ繋げた。事業の実施経過は以下のとおりである。以下、開催日と議題、協力団体の参加者数を示した。

回数	開催日	議題	参加者数
第1回	2020年5月18日	1.申請書類について 2.今後の流れについて	7名
第2回	2020年5月29日	1.役割分担・今後の対策について 2.全国9ブロックに配送拠点設置について	6名
第3回	2020年6月5日	1.進行表に関しての確認と現状報告 2.申し込み内容の修正・加筆	6名
第4回	2020年6月10日	1.進捗状況について 2.他団体への依頼文について 3.広報方法について 4.受付方法・相談体制について	6名
第5回	2020年6月17日	1.進捗状況について 2.ウェルファンとの打ち合わせ（6/16）の内容 3.他団体への依頼文について 4.広報方法について 5.寄付金の経理処理について	6名
第6回	2020年6月23日	1.日本財団の「新型コロナウイルス感染防護具対策支援」について 2.進捗状況について 3.個人情報について	10名
第7回	2020年7月1日	1.感染防護具イメージ図に関して 2.リーフレットに関して 3.申請フォームに関して 4.情報漏えいに関する誓約書に関して 5.公表から申し込みまでのスケジュール 6.段ボールへのイメージ図について	7名
第8回	2020年7月15日	1.新規加入協力団体からの自己紹介 2.感染防護具支援ネットワークに関して 3.進捗状況について	21名

回数	開催日	議題	参加者数
第9回	2020年8月4日	1.協力団体の申し込み状況について 2.感染防護具支援プロジェクト（7/27(月)からの申し込みの状況） 3.アンケートに関して	7名
第10回	2020年8月12日	1.新規加入協力団体からの自己紹介 2.本プロジェクトの目的と協力団体への依頼内容 3.新型コロナウイルス感染症に対する情報 4.申し込みに関する進捗状況	26名
第11回	2020年9月23日	1.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 2.協力団体への依頼内容の確認	26名
第12回	2020年10月6日	1.4000箱の使用期限について 2.来年度以降事業を継続した場合の運営体制 3.標準予防策としての（K）N95の調達 4.事前アンケートのデータ受け取りの件	8名
第13回	2020年11月13日	1.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 2.備蓄について	7名
第14回	2020年11月26日	1.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 2.協力団体について	32名
第15回	2021年1月27日	1.協力団体新規参加者の紹介 2.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 3.2月以降の本プロジェクトの事業について 4.全国の状況について	34名
第16回	2021年2月19日	1.本プロジェクトの申し込み者数を増やす為の方策とアンケートの継続の有無について 2.リーフレットの修正について	13名
第17回	2021年2月24日	1.協力団体新規参加者の紹介 2.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 3.3月以降の本プロジェクトの変更について 4.協力団体を増やす為の方策について	28名
第18回	2021年3月24日	1.協力団体新規参加者の紹介 2.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 3.事業の延長に関して（契約期間の延長） 4.備蓄の確認について 5.協力団体を増やす為の方策について	31名
第19回	2021年5月26日	1.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 2.広報活動について（チラシ配布等） 3.申込からアンケートの手順	65名

回数	開催日	議題	参加者数
		4.全国の状況について	
第 20 回	2021 年 6 月 23 日	1.日本財団 担当者様変更に伴うご挨拶 2.感染防護具支援プロジェクトの申込状況 3.協力団体について 4.広報活動について 5.新型コロナウイルス感染症に関する最新情報 6.追加購入の PPE に関して	62 名
第 21 回	2021 年 7 月 28 日	1.協力団体について 2.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 3.訪問看護師による自宅療養者への対応マニュアルの説明 4.陽性者疑いへの PPE の使用について 5.申込を増やす為の方策と近況の報告について	56 名
第 22 回	2021 年 9 月 29 日	1.協力団体について 2.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 3.今後の予定について	66 名
第 23 回	2021 年 10 月 12 日	1.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 2.予算残金での購入物品について	55 名
第 24 回	2021 年 11 月 17 日	1.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 2.在宅での PPPE の使用状況と看護について（病院と在宅の違い） 3.全国の自宅療養者の訪問看護の現状について 4.現状で必要な物資や将来的に第 6 波に備えて必要な物資について	65 名
第 25 回	2021 年 12 月 16 日	1.感染防護具支援プロジェクトの進捗状況 2.感染防護具支援プロジェクトの今後の予定と協力団体について	66 名
第 26 回	2022 年 1 月 25 日	1.感染防護具支援プロジェクトの現状報告 2.第 6 波の現状について報告（各地域より）	70 名

10. 事業の実施経過

2020年5月29日より事業を開始し、2022年3月31日をもって感染防護具支援プロジェクト第1弾を終了した。詳細な実施経過は以下の通りである。

時期	内容
2020年5月29日	事業開始（2020年5月29日～2021年3月31日）契約日6月1日
2020年5月～	関係機関によるWeb会議（8月より協力団体も参加）
2020年6月23日	感染防護具の購入・梱包・配送の委託業者 ウェルファン(株)と契約締結
2020年7月1日	事業の広報活動等の協力を関係機関へ依頼 協力団体の募集・選定・就任依頼発送
2020年7月20日	広報活動としてホームページやメールなどに添付するためのリーフレット（巻末資料5）を作成
2020年7月26日	申込受付開始と同時に配送開始 感染防護具支援プロジェクト申込兼事前アンケート回答フォーム 陽性者・濃厚接触要介護者等に対応する訪問看護事業所へ発送開始
2020年8月27日	ウェルファン(株)へ配送状況の視察(資料2)
2020年8月31日	配送拠点となる協力団体へ備蓄分を配送
2020年9月7日	感染防護具4000箱のセットくみ上げ完了
2020年11月7日	リーフレット作成5,500部、ホームページ掲載
2021年3月7日	リーフレット作成1,200部、ホームページ掲載以下団体にリーフレットを5部ずつ配布配布し広報を依頼 支援団体（37団体）・都道府県看護協会（48団体） 都道府県訪問看護ステーション協議会（49団体） 都道府県介護支援専門員協議会（47団体） 都道府県ヘルパー団体（42団体）
2021年5月18日	リーフレット(巻末資料6)作成2,000部 協力団体（103団体※2021/5/18現在）へ10部ずつ配布
2021年8月6日	事業変更、訪問看護利用者が利用する通所サービス事業所・精神障害者 小児患者の支援を行う事業所へ感染防護具の配布先拡充、特例の為申込兼事前及び事後アンケート回答不要とした
2021年9月30日	申込兼事前アンケート回答フォーム受付終了 株式会社ウェルファンからの出荷終了
2021年10月1日	協力団体（113団体※2021年12月より112団体）の備蓄からのクロネコヤマトを活用し出荷（伝票の記入などの業務はクロネコメンバーズを活用し事務局で実施）および直接受渡の開始（事前事後アンケート回答不要）
2021年11月1日	事後アンケート回答フォーム受付終了
2022年2月8日	感染防護具支援プロジェクト申込兼事前アンケート回答フォーム受付終了 112協力団体に平均2箱の備蓄
2022年2月8日	全国協力団体の備蓄より、追加申し込みのあった事業所に個別対応し計21箱提供

時期	内容
~2022年2月24日	協力団体から2021年10月1日~2022年2月24日までに計557箱提供
2022年2月23日	追加で予算の残金で物資の検討を打ち合わせ会議で実施 以下を再購入した ・N95マスク6ケース/ケース(100箱入) ・手指消毒用アルコール112ケース/ケース(24本入) ・アルコールホルダー1,120個
2022年2月26日	追加物資を協力団体112団体へウエルファン(株)より発送
2022年3月10日	予算残額で追加物資購入 ・KF94マスク9ケース ・ナーシングマスク17箱) 当財団の訪問看護ST4拠点(都内2カ所、大阪1カ所、愛媛1カ所)へ送付
2022年3月31日	感染防護具支援プロジェクト第1弾終了

第2章 事業の詳細

全国への発送は2020年7月1日～2021年9月30日までウエルファンから発送をおこなった。

その後は、保管料代をPPE購入に充てる為、全国の協力団体から各地域へクロネコヤマトを活用し発送し、または、申込者が協力団体に直接受け取りに行くか、協力団体が申込者に配送した。

1. 申し込み状況と全国への発送・備蓄数

2020年7月26日～2022年2月24日まで全国に発送した。

全国への発送数は、3,695件であった。その他申し込み対象と異なる施設でのクラスターの発生など特例で発送した数は71件であった(図表1)。全国の発送数の内訳(図表2)は、ウエルファンからの発送数は2,575件で、協力団体からの発送数は1,118件他であった。

特例として、71件申し込み対象以外に配布した。B市の特別養護老人ホーム・C県の4有料老人ホームでは、クラスターが発生し、感染防護具が品薄で困窮しており配布した。またF市の新型コロナウイルス感染症陽性者の在宅療養者の増加に伴いPPEを使用したいとの事で申し込みがあったが、アンケートに答える事が困難だったが45箱提供した。(図表3)。

全国からの受付は2022年2月24日で終了し、最終的に協力団体112拠点で合計232箱備蓄し、地域で活用していただいた(図表4・5)。

図表1 全国への発送数

内訳	個数(4,000箱)
全国への発送数 ※1	3,695
特例の発送数 ※2	71
在庫数 ※3	232
その他	2

図表2 全国への発送数の内訳

全国の発送数の内訳(図表1の※1)	個数(3,695箱)
ウエルファン発送数	2,575
協力団体からの発送数	1,118
特例送付先からの発送数	1
日本訪問看護財団在庫からの発送数	1

図表 3 特例への発送数の内訳

特例の発送数内訳（図表 1 の * 2）	個数（71 箱）
2020 年 11 月 18 日 A 県 B 市 〇〇法人 〇〇会特別養護老人ホーム〇〇〇〇〇	10
2020 年 12 月 10 日 C 県 D 市 「〇〇〇××」有料老人ホーム	4
2021 年 6 月 3 日 E 県 F 市 〇〇〇訪問看護ステーション連絡協議会	45
その他	12

2. 協力団体の活動状況

2021 年 10 月 1 日より協力団体から地域へ感染防護具をクロネコヤマトを活用し提供した。その提供数は 1,118 件、発送や地域貢献を実施した協力団体数は 103 団体であった(図表 5)。地域貢献した協力団体数は、大阪府、東京都、北海道など緊急事態宣言が出ている都市部が多かった(図表 6)。

図表 4 協力団体から地域貢献数の内訳

協力団体の活動	協力団体数 113
協力団体から地域への感染防護具の提供数	1,118 件
地域貢献した協力団体数 * 4	103 団体

図表 5 地域貢献した主な協力団体と提供数（n=1,118 提供数 / n=103 協力団体数）

図表 4 の * 4 の内訳		個数
大阪府	医療法人ハートフリーやすらぎ	58
東京都	あすか山訪問看護ステーション	55
兵庫県	北須磨訪問看護・リハビリセンター	50
岐阜県	岐阜県看護協会立訪問看護ステーション高山	34
三重県	訪問看護ステーションれんげの里	31
千葉県	訪問看護ステーションビュートゾルフ柏	28
京都府	訪問看護ステーションひなた	26
長野県	長野県訪問看護ステーション連絡協議会	26
沖縄県	ウィル訪問看護ステーション豊見城	26
他 93 協力団体より		757
合計		1,118

3. 県別月別申し込み状況

県別申し込み状況は、3,695箇所、大阪府 493件、東京都 427件、兵庫県 349件と全国から申し込みがあった(図表6)月別申し込み数は、2021年8月が最も多く522件、続いて2020年12月(327件)、2021年9月(319件)で、コロナの第2波～第6波の動きに合わせて申し込みがあった。(図表7)

図表6 県別の申込件数 (n=3,695)

都道府県	件数
北海道	102
青森県	21
岩手県	16
宮城県	33
秋田県	13
山形県	4
福島県	39
茨城県	76
栃木県	8
群馬県	2
埼玉県	122
千葉県	173
東京都	530
神奈川県	209
新潟県	25
富山県	31

都道府県	件数
石川県	19
福井県	2
山梨県	4
長野県	57
岐阜県	123
静岡県	39
愛知県	166
三重県	74
滋賀県	33
京都府	156
大阪府	568
兵庫県	396
奈良県	63
和歌山県	19
鳥取県	21
島根県	8

都道府県	件数
岡山県	47
広島県	61
山口県	9
徳島県	18
香川県	11
愛媛県	34
高知県	5
福岡県	104
佐賀県	3
長崎県	18
熊本県	32
大分県	9
宮崎県	8
鹿児島県	96
沖縄県	88
総計	3,695

図表 7 月別の申込件数 (n=3, 695)

申し込み月	件数
2020年7月	116
2020年8月	172
2020年9月	86
2020年10月	65
2020年11月	229
2020年12月	327
2021年1月	311
2021年2月	214
2021年3月	206

申し込み月	件数
2021年4月	251
2021年5月	301
2021年6月	96
2021年7月	195
2021年8月	522
2021年9月	319
2021年10月	35
2021年11月	7
2021年12月	11
2022年1月	257
2022年2月	247

第3章 アンケート結果

第1節 概要

1. 目的

本事業の評価と感染防護具を使用した受益者の状況を把握することを目的とした。

2. 研究計画・方法

1) 研究対象者

訪問看護ステーション、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、看護多機能型居宅介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、療養通所介護（2021年8月6日、対象拡大）において、下記が疑われ、新型コロナウイルス感染症の感染防護具を必要と判断した場合を対象とした。

- ・療養者（またはその同居家族）が新型コロナウイルスに感染した場合
- ・療養者（またはその同居家族）が新型コロナウイルスに感染した疑いのある場合
- ・療養者（またはその同居家族）が新型コロナウイルス感染症による入院から退院してきた場合

2) 研究デザイン

プロジェクト評価、量的調査(事前・事後調査)

3) 研究方法

Google フォームでのオンライン調査票にて、申請時の事前調査と、約2週間後の事後調査を行った。

(1) 申請書フォーム兼事前アンケート用紙

①申請書フォーム（必須事項）

- ・事業所名、事業所番号、申請者氏名、住所、メールアドレス、電話番号

②事前アンケート（申請者の自由意思による調査）

(2) 事後報告 兼 事後アンケート用紙

①事後報告フォーム（必須事項）

- ・申請者氏名、メールアドレス
- ・日本財団・メットライフ生命保険（支援者）の要請項目（使用者の性別、保険の負担割合、低所得（生活保護）、中所得、高所得状況

②事後アンケート（申請者の自由意思による調査）

(3) 研究期間

2020年7月27日～2021年10月29日 ※資材配布をする期間

(4) 分析方法

記述統計

(5) 研究における倫理的配慮について

①対象者等の人権への配慮

調査実施について、調査への協力は自由意思によるものとし、調査研究に対して研究目的や方法、結果の処理について申請書上で説明する。調査への協力についてはオンライン調査票でチェックをいただくことで了承を得る旨、説明する。

分析に使用するデータは無記名とし、個人や施設が特定されないよう配慮する。また、調査への協力の有無による不利益を被ることがないこと、調査結果は研究の目的以外には使用しないこと、データの管理は記号化、数値化などの方法をとることにより個人が特定されないよう十分に配慮する旨、文書で説明する。また、研究終了後には紙媒体のデータは破棄し、情報の流出を防止する。

②対象者等に不利益及び危険が生じないための配慮

オンライン調査であり、大きな不利益にはつながらないとする。また、突然の依頼であり、申請の中で調査をお願いすることから、時間的、精神的な負担が生じる可能性がある。しかし、回答時間は5分以内を目安としていることから、大きな負担を課すものとは考えていない。

回答者の負担を考慮し、項目を限定し、できるだけ負担が生じないような配慮を行った。

③対象者等に理解を求め、同意を得る方法

回答者について、研究協力（同意）を得るために、オンラインフォームに依頼文書を掲載し、文書を持って説明する。同意欄にチェックをいただくことで同意とみなす。回答者には、問い合わせには十分対応することを依頼書に明記する。

④対象者に係る個人情報の適正取得、正確性、安全管理体制等

個人情報に申請された資料を適切に送付する目的にのみ使用され、研究者は匿名化された情報のみを取り扱う。匿名化されたデータはパスワード保護が可能なクラウドストレージ（google ドライブ）に保存し、分析に関わる者で、本研究の研究代表者が認めた者のみがアクセス可能とする。

第2節 結果

1. 事前アンケート結果

申請書フォームと事前アンケートを Google フォームでの Web を活用し①～④を条件として、実施した(巻末資料3)。①備蓄目的でないこと②療養者の性別・保険料の自己負担割合回答できること③事前・事後アンケートに回答すること④(申し込み者が介護職の方の場合)医師や看護師にアンケートの回答に関して承認を得ることとした(2021年よりこの項目は削除した)。

申請書フォーム(必須事項)の事業所名、事業所番号、申請者氏名、住所、メールアドレス、電話番号以下の設問は、申込に必要な個人情報の為、データは掲載していない。

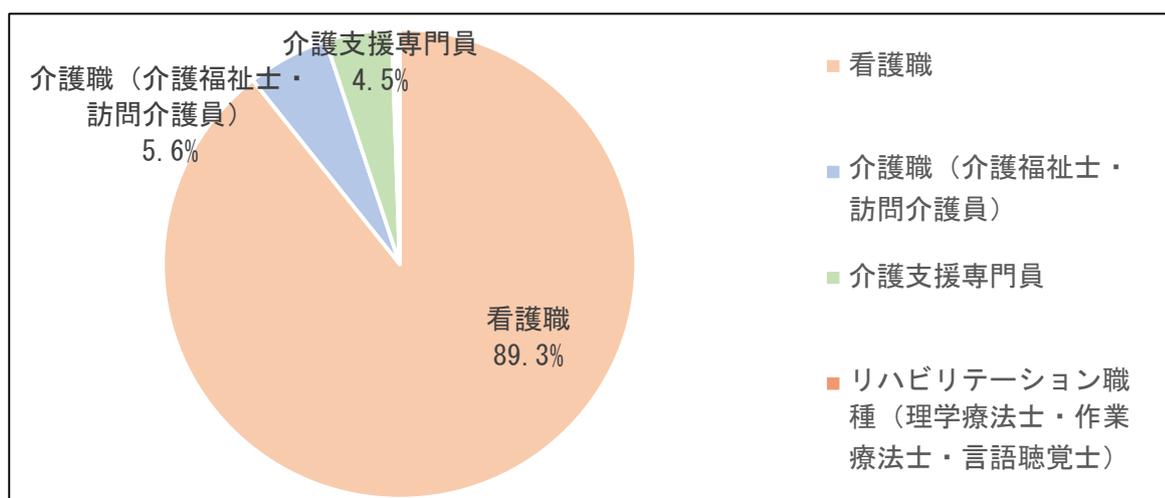
事前アンケートの回収率は3,168件の100%であった。

1) 申し込み事業所・療養者などの状況

①事業所管理者の職種

事業所管理者の職種は、看護職が最も多く89.3%(2,803人)で、次いで介護職(介護福祉士・訪問介護員)5.6%(176人)、次いで介護支援専門員4.5%(142人)であった。

図表8 事業所管理者の職種 (n=3,138)

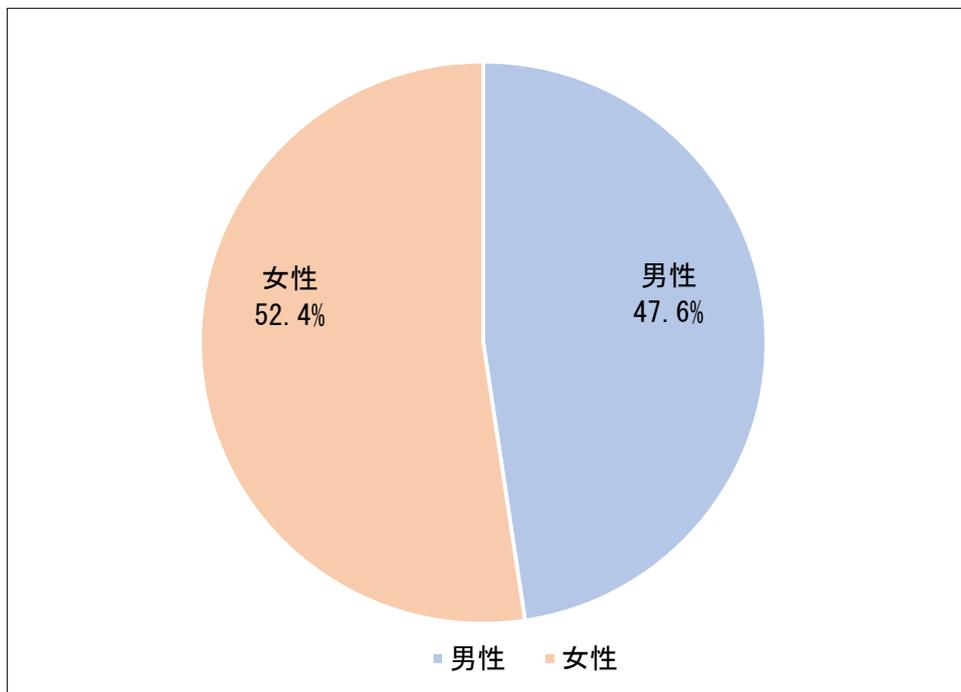


事業所管理者の職種	人数	割合
看護職	2,803	89.3%
介護職 (介護福祉士・訪問介護員)	176	5.6%
介護支援専門員	142	4.5%
リハビリテーション職種 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)	8	0.3%
代表取締役	4	0.1%
社会福祉士	2	0.1%
経営者	1	0.0%
医師	1	0.0%
管理者	1	0.0%

②療養者の性別

療養者の性別は、男性 47.6%(1,495 人)で、女性 52.4%(1,643 人)であった。

図表 9 療養者の性別 (n=3, 138)

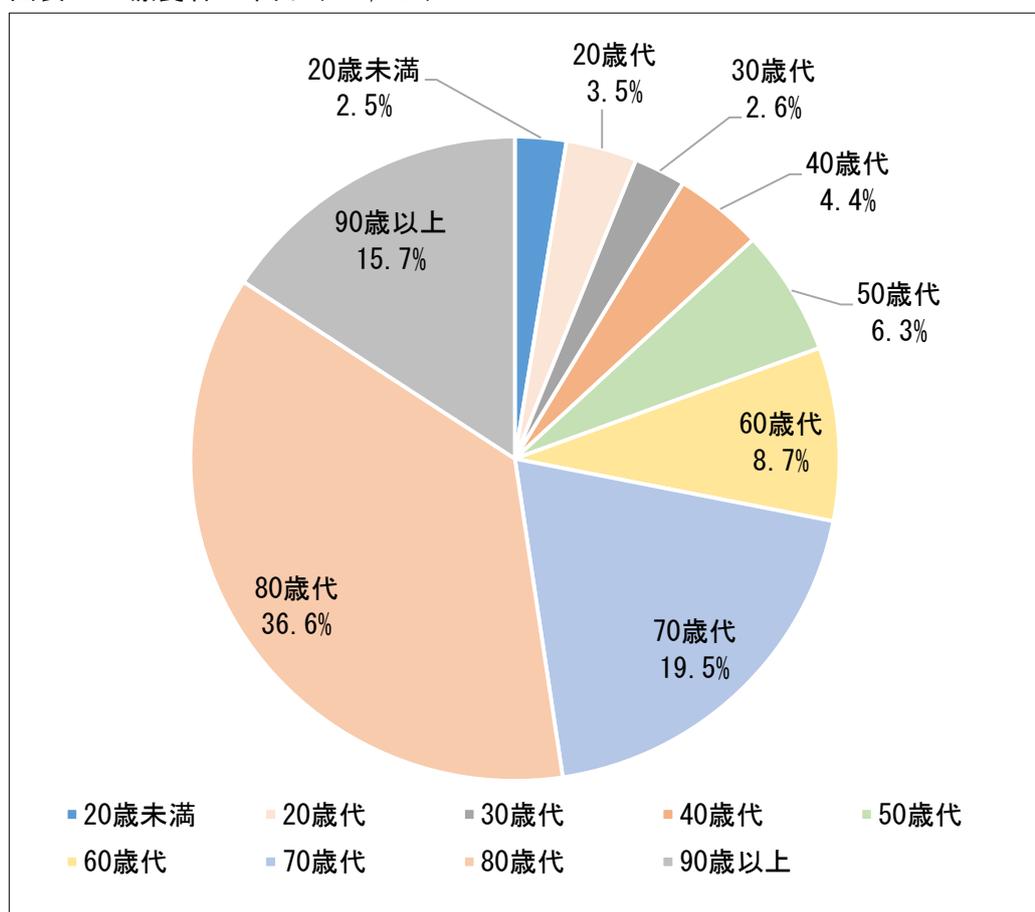


性別	人数	割合
男性	1,495	47.6%
女性	1,643	52.4%

③療養者の年代

療養者の年代は、80歳代が最も多く36.6%(1,149人)で、次いで70歳代19.5%(613人)、次いで90歳以上で15.7%(494人)であった。

図表 10 療養者の年代 (n=3, 138)

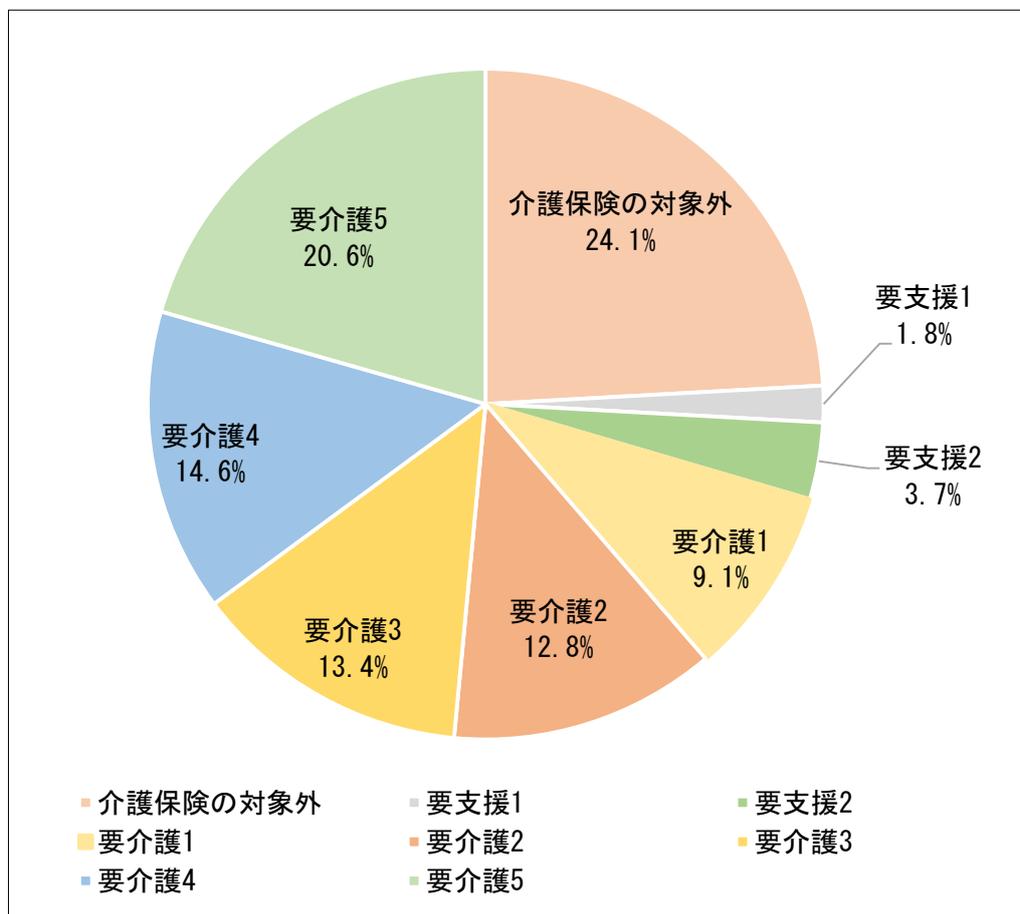


年代	人数	割合
20歳未満	80	2.5%
20歳代	111	3.5%
30歳代	81	2.6%
40歳代	139	4.4%
50歳代	198	6.3%
60歳代	273	8.7%
70歳代	613	19.5%
80歳代	1,149	36.6%
90歳以上	494	15.7%

④療養者の要介護度

療養者の介護度は、要介護度5が最も多く20.6%(645人)で、次いで要介護4が14.6%(458人)、次いで要介護3が13.4%(419人)であった。

図表 11 療養者の要介護度 (n=3, 138)

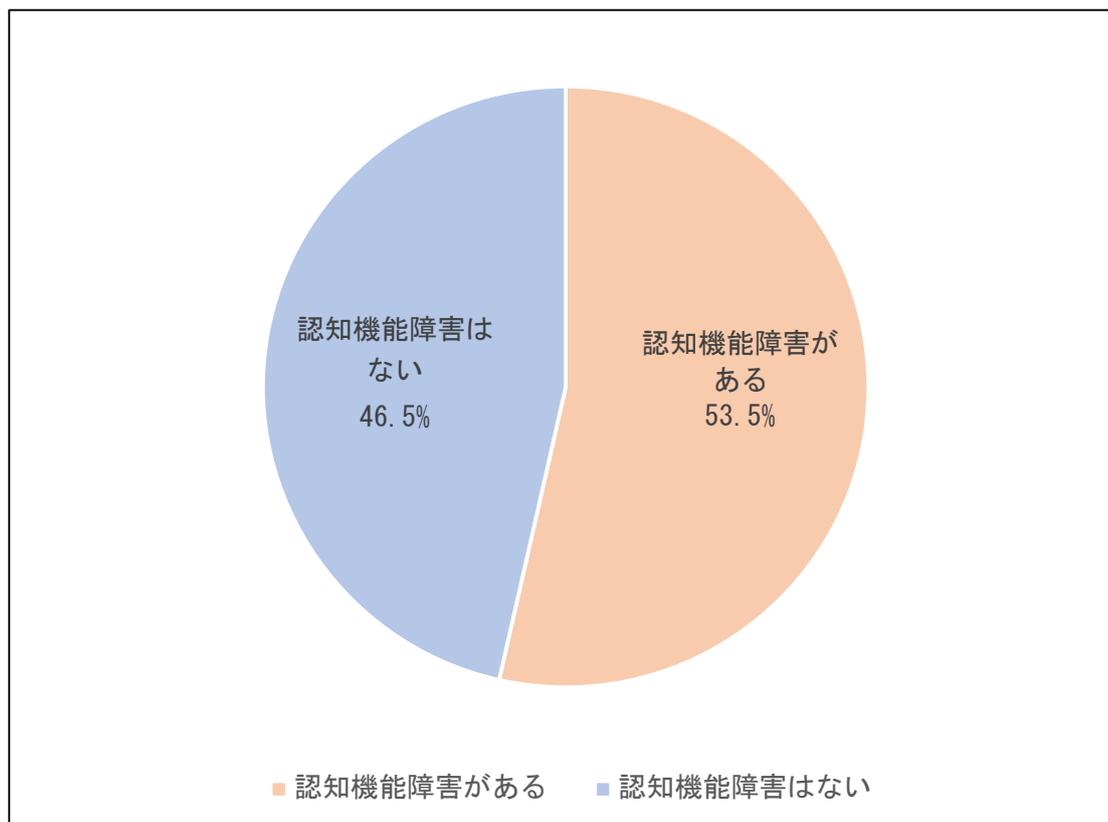


介護度	人数	割合
介護保険の対象外	757	24.1%
要支援1	55	1.8%
要支援2	116	3.7%
要介護1	287	9.1%
要介護2	401	12.8%
要介護3	419	13.4%
要介護4	458	14.6%
要介護5	645	20.6%

⑤療養者の認知機能障害

療養者の認知機能障害は、認知機能障害がある 54.0%(1,596 人)で、認知機能障害はない 46.0%(1,386 人)であった。

図表 12 療養者の認知機能障害 (n=3, 138)

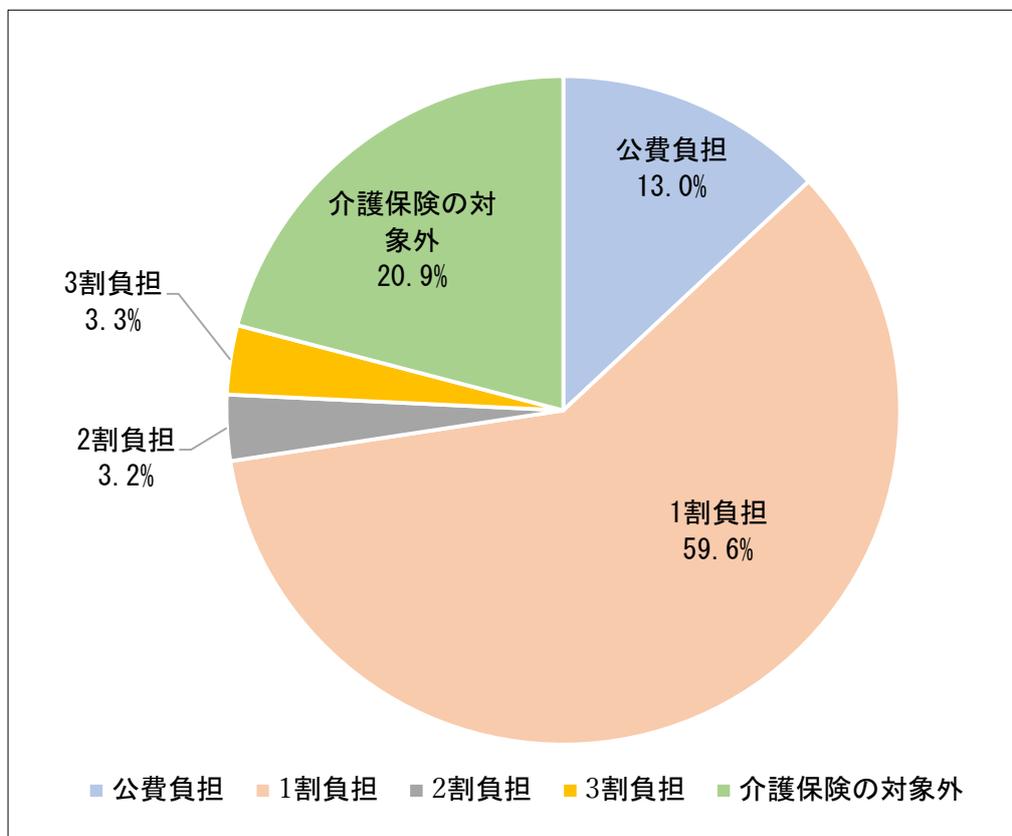


療養者の認知機能障害	人数	割合
ある	1,596	54.0%
ない	1,386	46.0%

⑥療養者の介護保険自己負担割合

療養者の介護保険の自己負担割合は、一割負担が最も多く 59.6%(1,869 人)で、次いで介護保険の対象外が 20.9% (656)、次いで公費負担負担が 13.0%(408 人)であった。

図表 13 介護保険の自己負担割合 (n=3, 138)

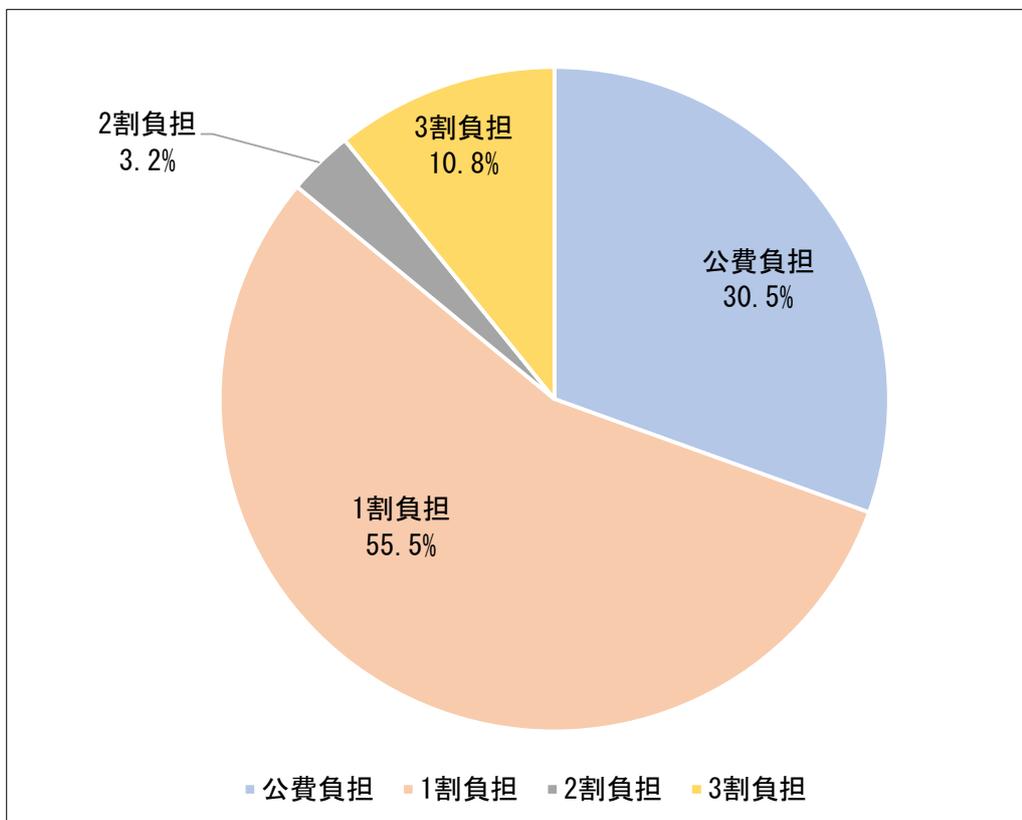


介護保険の自己負担割合	人数	割合
公費負担	408	13.0%
1割負担	1,869	59.6%
2割負担	100	3.2%
3割負担	105	3.3%
介護保険の対象外	656	20.9%

⑦療養者の医療保険（健康保険等）自己負担割合

療養者の介護保険の自己負担割合は、一割負担が最も多く 55.5%(1,742 人)で、次いで公費負担が 30.5%(958 人)、次いで 3 割負担が 10.8% (338 人)であった。

図表 14 療養者の医療保険（健康保険等）の自己負担割合 (n=3, 138)

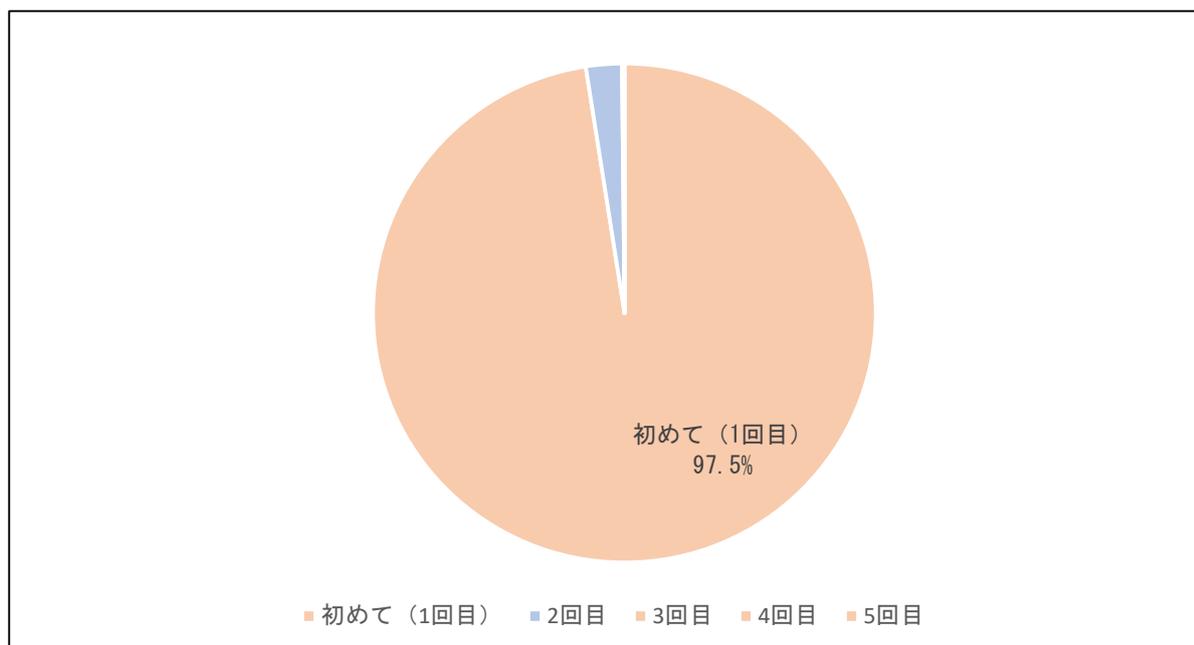


医療保険の自己負担割合	人数	割合
公費負担	958	30.5%
1 割負担	1,742	55.5%
2 割負担	100	3.2%
3 割負担	338	10.8%

⑧対象となる療養者について感染防護具の申請回数

感染防護具の申請は、初めて（1回目）が最も多く 97.5%(2,959 人)で、次いで2回目が 2.35%(70 人)、次いで3回目が 0.1%で(3 人)であった。

図表 15 対象となる療養者について感染防護具の申請回数 (n=3,034)



この申請の対象となる療養者について感染防護具の申請をするのは何回目ですか？	人数	割合
初めて（1回目）	2,959	97.5%
2回目	70	2.3%
3回目	3	0.1%
4回目	1	0.0%
5回目	1	0.0%

⑨対象となる療養者の状況（複数選択）

対象となる療養者の状況は、療養者に感染を疑わせる症状があるが最も多く 32.0% (1,192 人)で、次いで療養者が感染者の接触者となったが 24.1% (898 人)、次いで療養者が感染し、自宅療養（PCR 検査陽性）が 10.9% (407 人)であった。

図表 16 対象となる療養者の状況（複数選択）（n=3,138）

対象となる療養者の状況（複数選択）	人数	割合
療養者に感染を疑わせる症状がある	1,192	32.0%
療養者が感染者の接触者となった	898	24.1%
療養者が感染し、自宅療養（PCR検査陽性）	407	10.9%
療養者の同居家族が濃厚接触者となった（経過観察中）	337	9.1%
感染地域から介護者（家族）が帰省	328	8.8%
療養者の同居家族が感染し、自宅療養（PCR検査陽性）	204	5.5%
療養者が感染後（入院治療後、退院）	187	5.0%
療養者の同居家族が感染後（入院治療後、退院）	73	2.0%
施設内での感染（疑い含む）	32	0.9%
吸引をしている	24	0.6%
療養者の同居家族感染を疑わせる症状がある	8	0.2%
療養者にかかわるヘルパーが陽性になった	7	0.2%
療養者にかかわるヘルパーが感染者の接触者となった	4	0.1%
エアロゾル感染の恐れ	2	0.1%
療養者にかかわるヘルパーに感染を疑わせる症状がある	1	0.0%
その他	19	0.5%

⑩前問で回答した状況が最初に発生した日

前問で回答した状況が最初に発生した日は、2020年12月・2021年1月・3月・5月・7月・8月が最も多く31人で、次いで2020年11月が30人、次いで2020年7月・9月・2021年4月が29人であった。

図表 17 前問で回答した状況が最初に発生した日 (n=3, 138)

発生した月	人数
1976年7月	1
1999年4月	1
2000年8月	1
2001年4月	1
2005年8月	1
2010年7月	1
2010年12月	1
2011年1月	1
2012年1月	1
2012年8月	3
2012年12月	1
2014年10月	1
2015年6月	1
2015年8月	1
2015年12月	1
2016年6月	1

発生した月	人数
2016年10月	1
2016年11月	1
2017年7月	1
2018年4月	3
2019年1月	1
2019年2月	1
2019年3月	2
2019年6月	3
2019年8月	2
2019年12月	2
2020年1月	15
2020年2月	5
2020年3月	13
2020年4月	21
2020年5月	15
2020年6月	10

発生した月	人数
2020年7月	29
2020年8月	31
2020年9月	29
2020年10月	24
2020年11月	30
2020年12月	31
2021年1月	31
2021年2月	26
2021年3月	31
2021年4月	29
2021年5月	31
2021年6月	28
2021年7月	31
2021年8月	31
2021年9月	27
2021年12月	1
入力間違い	12

⑪対象となる療養者の症状（複数選択）

対象となる療養者の症状は、体温が普段より高いが最も多く 23.8%（1,532 人）で、次いで通常と変わらないが 17.2%（1,109 人）、次いで咳が 12.3%（793 人）であった。

図表 18 対象となる療養者の症状（複数選択）（n6, 443）

対象となる療養者の症状（複数選択）	回答数	割合
体温が普段より高い	1,532	23.8%
通常と変わらない	1,109	17.2%
咳	793	12.3%
倦怠感	724	11.2%
酸素飽和度が普段より低い	632	9.8%
痰	608	9.4%
呼吸困難感	353	5.5%
頭痛	159	2.5%
筋肉痛	98	1.5%
味覚異常	65	1.0%
嗅覚異常	26	0.4%
無症状	3	0.0%
上記以外	341	5.3%

⑫対象となる療養者の平熱

対象となる療養者の平熱は 36.0-36.4 度が最も多く 47%（1474 人）、次いで 36.5-36.9 度が 43%（1349 人）、次いで 35.5-35.9 度が 6.4%（201 人）となった。

図表 19 対象となる療養者の平熱（n=3, 138）

対象となる療養者の平熱	人数	割合
34.9 以下	2	0.1%
35.0-35.4	24	0.8%
35.5-35.9	201	6.4%
36.0-36.4	1,474	47.0%
36.5-36.9	1,349	43.0%
37.0-37.4	71	2.3%
37.5-37.9	11	0.4%
38 以上	6	0.2%

⑬対象となる療養者の体温

対象となる療養者の体温は36.5-36.9度が最も多く34.3%（897人）、次いで36.0-36.4度が15.9%（415人）、次いで37.5-37.9度が15.1%（395人）となった。

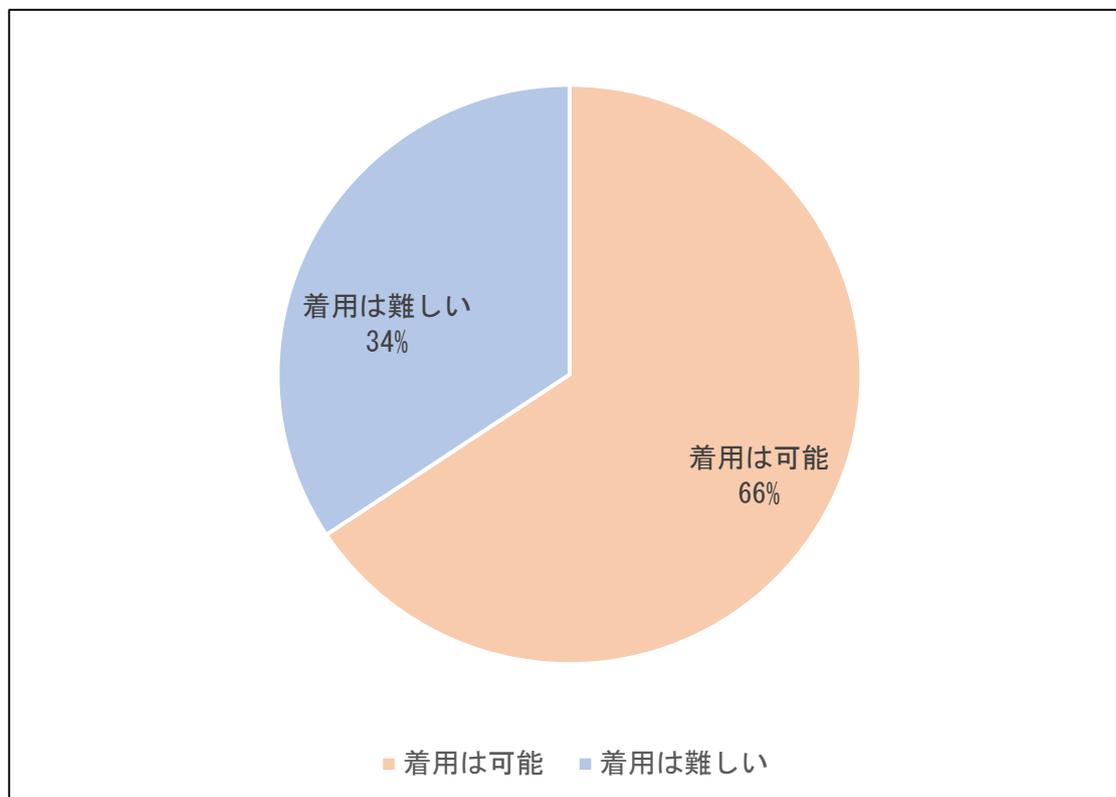
図表 20 対象となる療養者の体温（n=2,618）

対象となる療養者の体温	人数	割合
34.9 以下	5	0.2%
35.5-35.9	70	2.7%
36.0-36.4	415	15.9%
36.5-36.9	897	34.3%
37.0-37.4	42	1.6%
37.5-37.9	395	15.1%
38.0-38.4	361	13.8%
38.5-.38.9	242	9.2%
39.0-39.4	125	4.8%
39.5-40	42	1.6%
40 度以上	24	0.9%

⑭療養者のマスク着用

療養者のマスク着用は、着用は可能が 65.7% (1,975 人)、着用は難しいが 34.3% (1,032 人) であった。

図表 21 療養者のマスク着用 (n=3, 007)

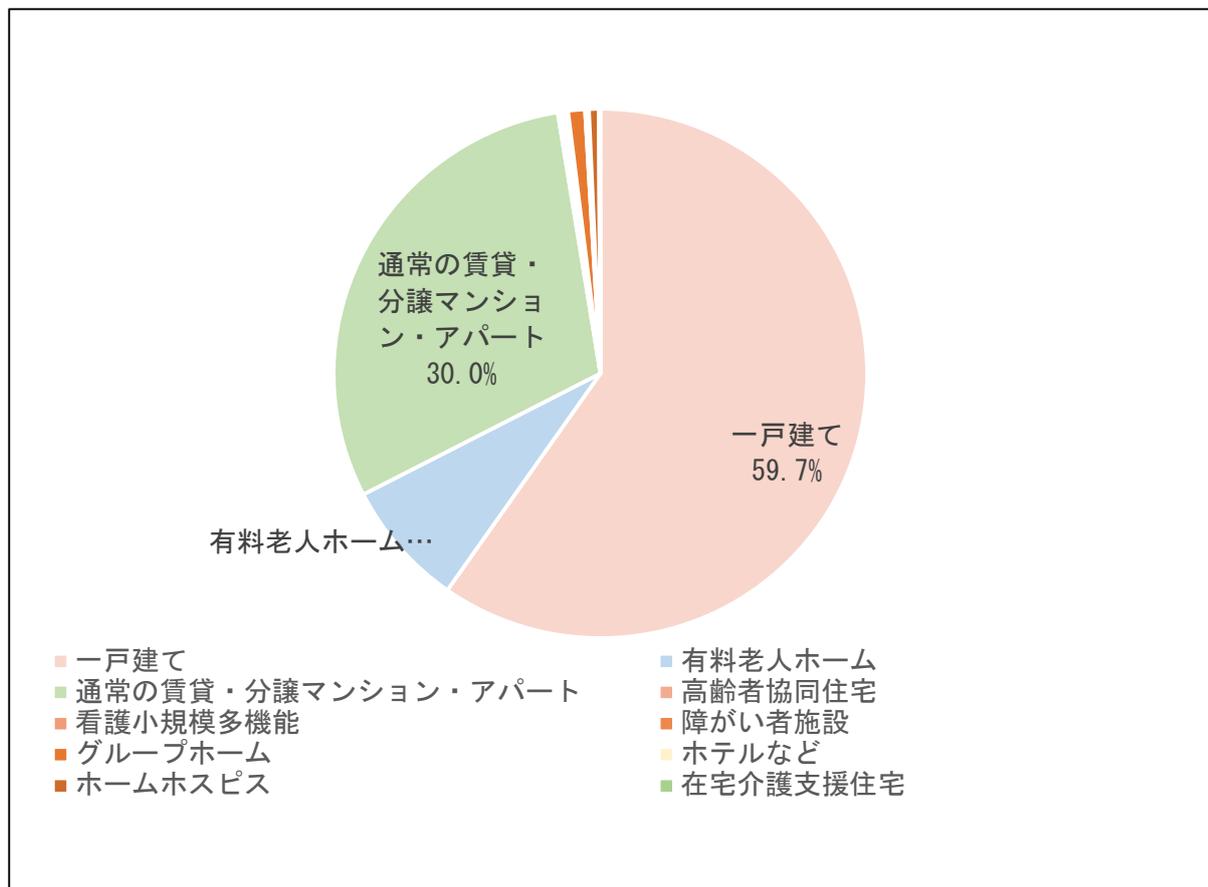


療養者のマスクの着用	人数	割合
着用は可能	1,975	65.7%
着用は難しい	1,032	34.3%

⑮対象となる療養者の居住場所

対象となる療養者の居住場所は、一戸建てが最も多く 59.7% (1,812 人)、次いで通常の賃貸・分譲マンション・アパートが 30.0% (910 人)、次いで有料老人ホームが 7.7% (234 人) であった。

図表 22 対象となる療養者の居住場所 (n3,034)

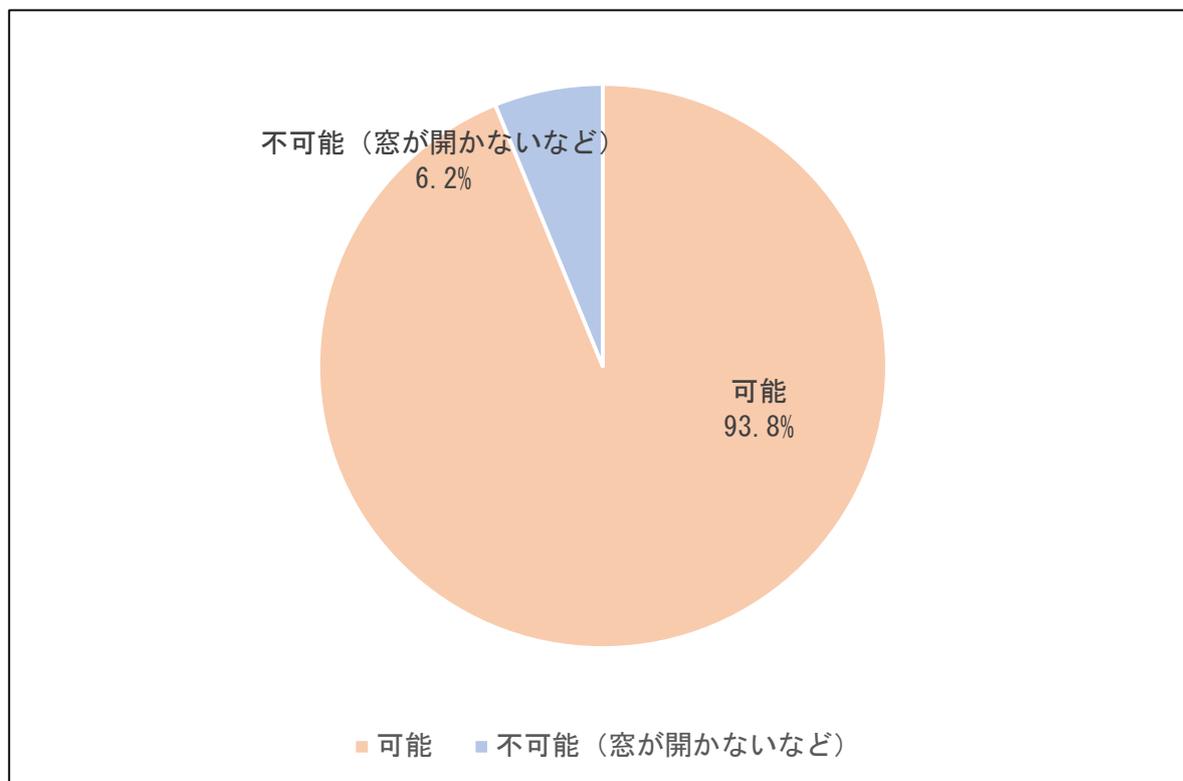


対象となる療養者の居住場所	人数	割合
一戸建て	1,812	59.7%
有料老人ホーム	234	7.7%
通常の賃貸・分譲マンション・アパート	910	30.0%
高齢者協同住宅	6	0.2%
看護小規模多機能	6	0.2%
障がい者施設	7	0.2%
グループホーム	31	1.0%
ホテルなど	7	0.2%
ホームホスピス	18	0.6%
在宅介護支援住宅	2	0.1%
その他	1	0.03%

⑩療養者の居住場所における換気の可否

療養者の居住場所における換気の可否は、換気が可能が 94% (2,818 人) で、換気が不可能 (窓が開かないなど) が 6% (185 人) であった。

図表番号 23 療養者の居住場所における換気の可否 (n=3, 003)

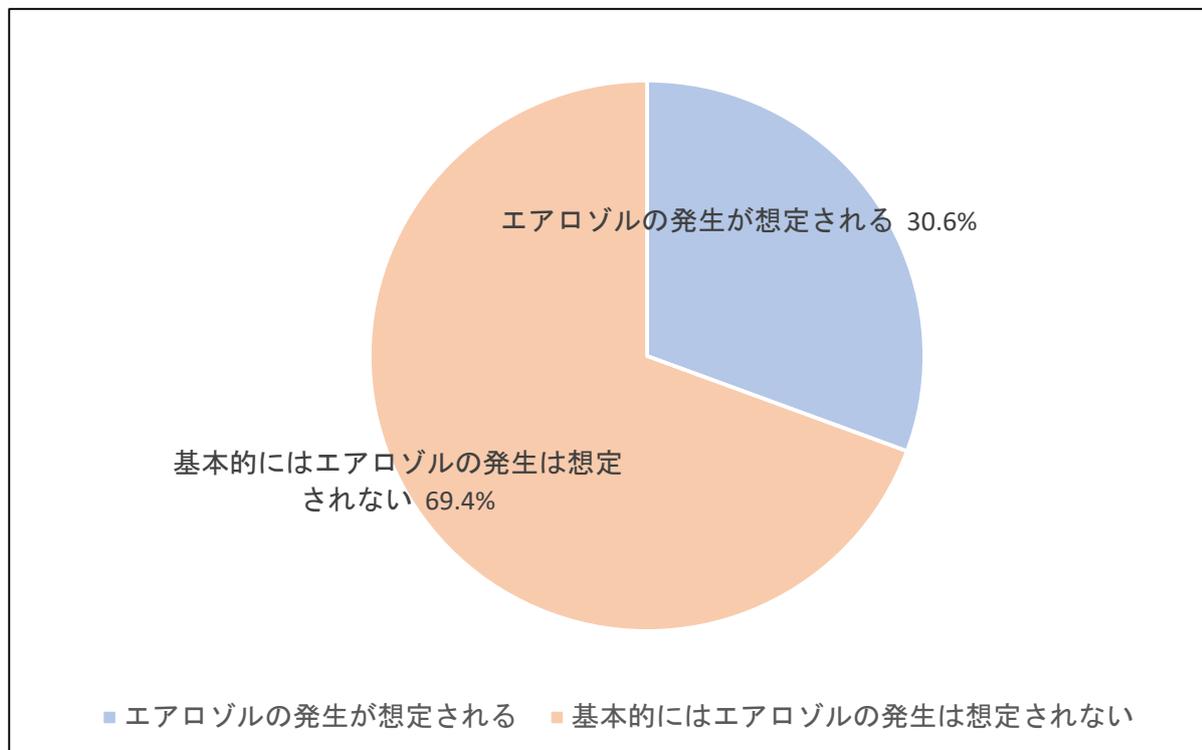


療養者の居住場所における換気の可否	人数	割合
可能	2,818	93.8%
不可能 (窓が開かないなど)	185	6.2%

⑰ ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性

ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性は、基本的にはエアロゾルの発生が想定されないが69% (2,070人)、エアロゾルの発生が想定されるが31% (914人)であった。

図表 24 ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性 (n=2,984)



ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性	人数	割合
エアロゾルの発生が想定される	914	30.6%
基本的にはエアロゾルの発生は想定されない	2,070	69.4%

⑩その他の療養者の状況

現状で困っていることや事業所の状況など本回答は自由記載で、1,442 件の回答があった。内容は 12 項目に分類され以下に要約しまとめた。

・PPE に関して

「PPE が未だ不足している」「備蓄をしたい」「PPE を装着していると暑くて大変」「マスク・手袋が適正価格で販売されていない」「メガネが曇る」「急な発熱時に PPE を準備できない」などがあった。

・療養者・家族との対応に関して

「訪問時自宅内でマスクを着けていない」「独居でマスクを装着せず訪問する療養者がいて、不安」「マスクを装着するとコミュニケーションがしにくい」「利用者側から、訪問看護師が感染していないのか、安全なのか問い合わせがあり困る」「在宅での家族との共用部分の感染予防がむずかしい」「感染地域へ家族が訪問し、予防対策が大変」「療養者や家族に感染予防の意識が低い」「マスクをすると苦痛を訴えてマスクを装着してくれない」「小児はマスクを装着してくれない」「認知機能が低下している療養者がマスクを装着してくれないので困る」「家族への教育」「ターミナルケアの対象者の面会者が他県からきて不安がある」「家族全員がコロナに感染した」などであった。

・地域での情報共有に関して

「コロナ陽性者が出た場合、関係機関での状況共有がない」「地域でクラスターが発生しているが情報がない」「デイサービスやショートステイでクラスターが発生した」「デイサービスで療養者が濃厚接触者になったが、訪問看護まで情報がない」「地域でクラスターが発生すると怖い」などであった。

・医療機関・主治医に関して

「検査ができない」「主治医が積極的に PCR 検査をしてくれない」「病院の主治医がコロナ対応で忙しく、訪問看護の連携がしにくい」「医師が PCR 検査をしてくれないので、予防として PPE を装着している」「人工呼吸器の療養者への感染対策を徹底している」「PCR 検査を行うまでの交通手段がない」「入院先がない」「主治医が往診にこない」などであった。

・ケアに関して

「PPE をいつまで実施したらいいか、解除基準が不明確」「デルタ株など株による予防の違いがわからない」「発熱者に対する誤嚥性肺炎などとコロナとの違いへの対応に苦慮している」「感染対策が正しいか不安」「医療的ケア児へ感染対策をすることが難しい」「換気ができない療養者への訪問が不安」「ゾーニングが難しい」「無症状で陽性者の対応が難しい」「感染ごみの破棄方法が不明」「訪問看護師が検体を採取している」「入浴介助時の感染対策が大変」「短い訪問にしたいが、点滴があり長くなる」などであった。

・感染の不安に関して

「コロナ陽性者が治療後退院したが、再発しそうで怖い」「看護師が感染し、濃厚接触者の範囲が困る」「職員が家庭内感染について心配している」「感染経路がわからず不安」などであった。

・事業所の経営・運営に関して

「小さな訪問看護事業所でスタッフがコロナに感染したら倒産しそうで怖い」「訪問看護師が感染者に対応すると、他の療養者に訪問スタッフが限られ、スタッフが不足する」「スタッフが濃厚接触者

で休むと、利用者に行けるスタッフがいない」「人員不足」「小規模事業所では、物資の高騰や不足による準備ができない」「風評被害で、スタッフがコロナ陽性となり、訪問を開始したが訪問に支障がでている」「コロナ前と感染対策に係る予算が3倍になっている」などであった。

・施設サービスに関して

「サービス付き高齢者住宅でのクラスター」「通所サービス利用者の濃厚接触者の判定基準がまちまちである」「グループホーム内でのクラスター」などであった。

・保健所等に関して

「濃厚接触者で PCR 検査の結果がでるまでの対応が困る」「保健所や医師と話し合い陽性者が在宅で看取りをする事になり、看取りまでに感染が拡大しないか不安」「役所や保健所の対応が不満」などであった。

・スタッフのコロナ対応への不安・ストレスに関して

「スタッフや管理者が、コロナ対応した際の恐怖」「スタンダードプリコーションを徹底していても感染する可能性があることの恐怖」「発熱者が多すぎて予防で PPE を装着するケースが多くストレス」「PPE を装着しての長時間ケアは重労働である」「看護師のメンタル」

「濃厚接触者へ訪問した看護師が、他の利用者へ訪問する際の対応に苦慮する」「感染防護しながらのケアを心身共にストレスである」「職員の疲弊」「常に緊張していてストレス」

「コロナ対応について新人看護師の不安が強い」「自分の家族に菌を運んでいないか不安」

「ウイルスが目に見えないので不安」「医療従事者としての媒介者にならないか不安」「外国人への対応がわからない」などであった。

・訪問介護員に関して

「ヘルパーさんの感染予防対策ができていない」「訪問介護が感染の可能性があるので、訪問しないと困る」「訪問介護の感染予防に対する知識不足」「介護スタッフとの感染対策に対する知識の違い」などであった。

・ワクチン接種に関して

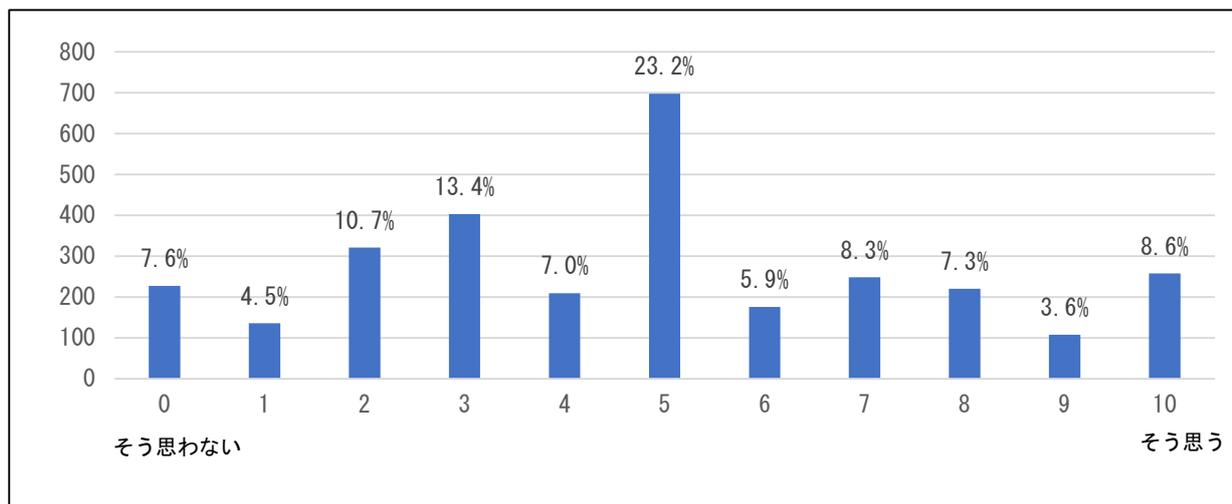
「利用者や家族がワクチンを拒否していて、訪問するのが不安」などであった。

以上。

⑱スタッフの安心感

(今回対象となる療養者に限らず) 全体として、スタッフが安心して利用者の家に訪問できると思うかは、5 が最も多く 23.2% (698 人)、次いで 3 が 13.4% (403 人)、次いで 2 が 10.7% (321 人) であった。

図表 25 スタッフの安心感



(今回対象となる療養者に限らず) 全体として、スタッフが安心して利用者の家に訪問できると思うか	人数	割合
そう思わない 0	227	7.6%
1	136	4.5%
2	321	10.7%
3	403	13.4%
4	209	7.0%
5	698	23.2%
6	176	5.9%
7	248	8.3%
8	220	7.3%
9	108	3.6%
そう思う 10	258	8.6%

2. 事後アンケート結果

事後アンケートは登録されたメールアドレスに Google フォームでの Web アンケートを送信した(巻末資料4)。時期は、感染防護具を発送した 2 週間後に実施し、催促メールをその 2 週間後に送信した。

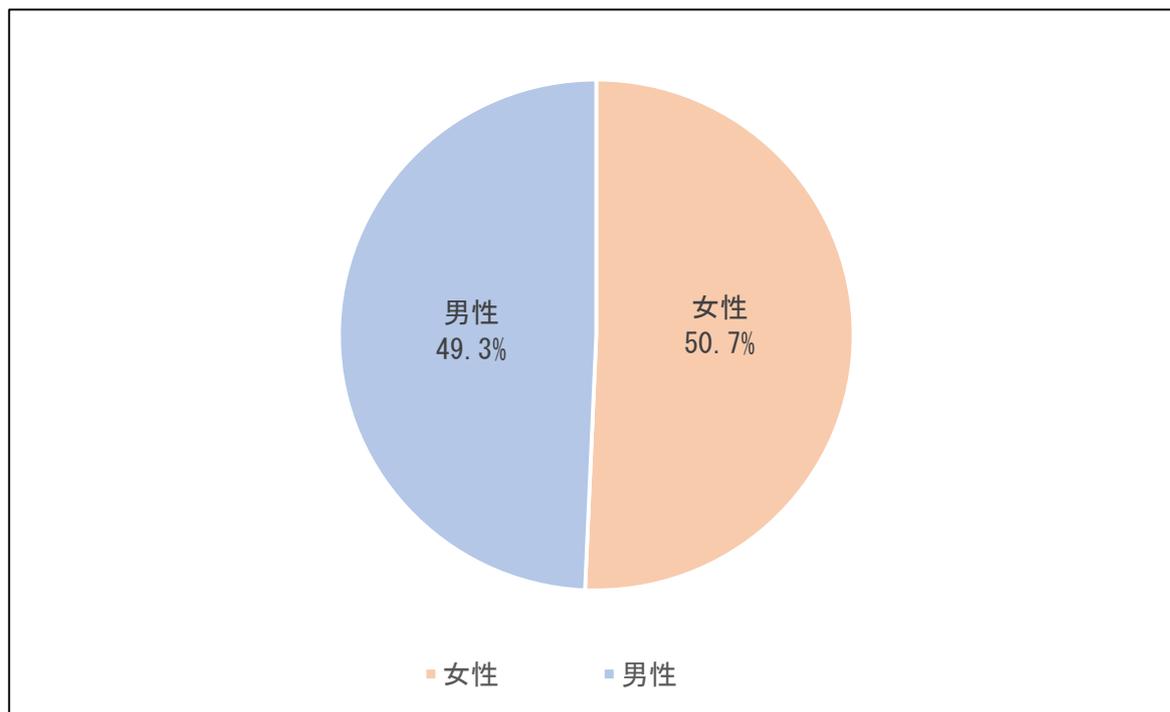
事後アンケートの回収率は、2,636 件の 82.8%であった。

1) 療養者、家族の状況

①療養者の性別

療養者の性別は、女性が 50.7% (1,337 人) で、男性が 49.3% (1,300 人) であった。

図表 26 療養者の性別 (n2, 637)

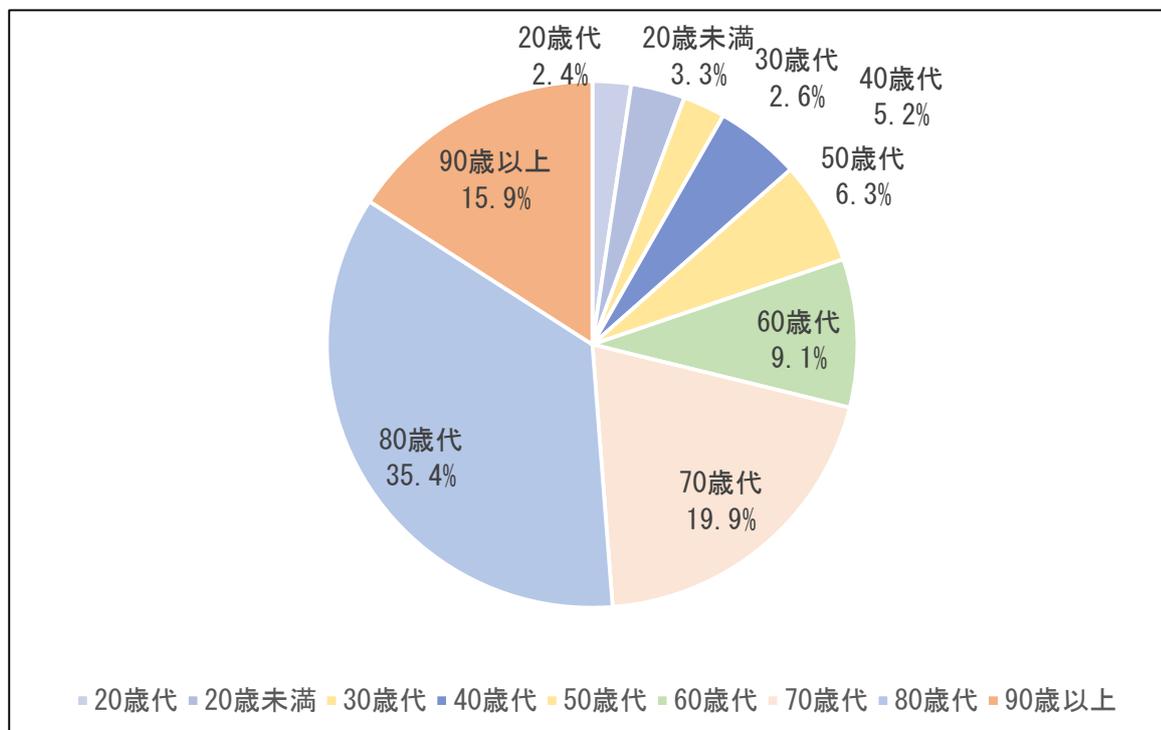


療養者の性別	人数	割合
女性	1,337	50.7%
男性	1,300	49.3%

②療養者の年代

療養者の年代は80歳代が最も多く35.4%（933人）、次いで70歳代が19.9%（525人）、次いで90歳以上が15.9%（418人）であった。

図表 27 療養者の年代（n=2,637）

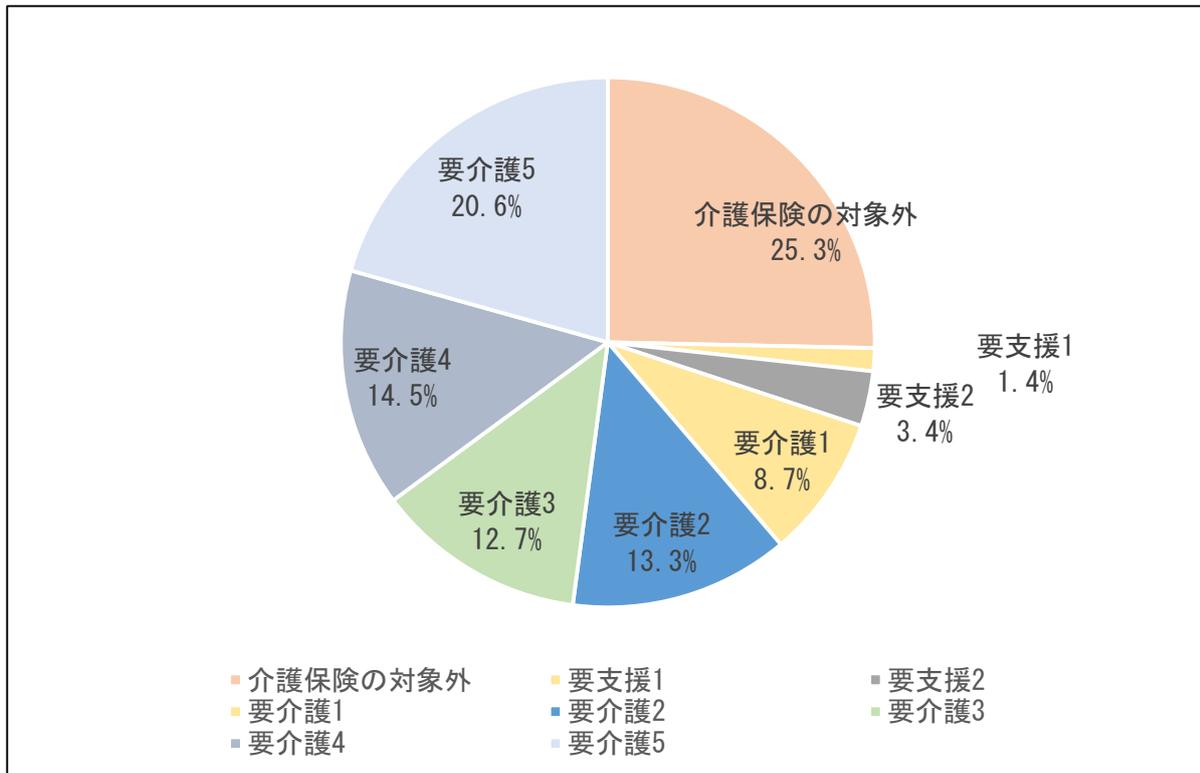


療養者の年代	人数	割合
20歳代	62	2.4%
20歳未満	87	3.3%
30歳代	68	2.6%
40歳代	137	5.2%
50歳代	167	6.3%
60歳代	240	9.1%
70歳代	525	19.9%
80歳代	933	35.4%
90歳以上	418	15.9%

③療養者の介護度

療養者の介護度は、介護保険の対象外が最も多く 25.3%（668 人）で、次いで要介護 5 が 20.6%（544 人）、次いで要介護 4 が 14.5%（383 人）であった。

図表 28 療養者の介護度（n=2, 637）



療養者の介護度	人数	割合
介護保険の対象外	668	25.3%
要支援 1	37	1.4%
要支援 2	89	3.4%
要介護 1	229	8.7%
要介護 2	351	13.3%
要介護 3	336	12.7%
要介護 4	383	14.5%
要介護 5	544	20.6%

④対象となった療養者の現在の状況

対象となった療養者の現在の状況は、治癒が最も多く 48.4% (1,182 人) で、次いで設問以外の回答が 27.2% (663 人)、次いで入院 (入院後治癒した方も含む) が 14.0% (342 人) であった。

図表 29 対象となった療養者の現在の状況 (n=2, 441)

対象となった療養者の現在の状況	人数	割合
治癒	1,182	48.4%
入院 (入院後治癒した方も含む)	342	14.0%
死亡	167	6.8%
自宅療養中	87	3.6%
設問以外の回答	663	27.2%

⑤新型コロナウイルス感染症の診断

当該療養者の今回の診断は新型コロナウイルス感染症だった人数は、29.0% (598 人) で、その他の人数は、71.0% (1,461 人) であった。

図表 30 新型コロナウイルス感染症の診断結果 (n=2, 059)

療養者の新型コロナウイルス感染症の結果	人数	割合
新型コロナウイルス感染症だった	598	29.0%
その他	1,461	71.0%

⑥療養者の家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の診断 (2021 年 3 月 4 日より設問に追加)

今回の申請が療養者の家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の疑いによるものだった場合、当該の家族や介護者の実際の診断は、新型コロナウイルス感染症だった人数が 40.9% (368 人)、その他の人数が 59.1% (532 人) であった。

図表 31 家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の診断結果 (n=900)

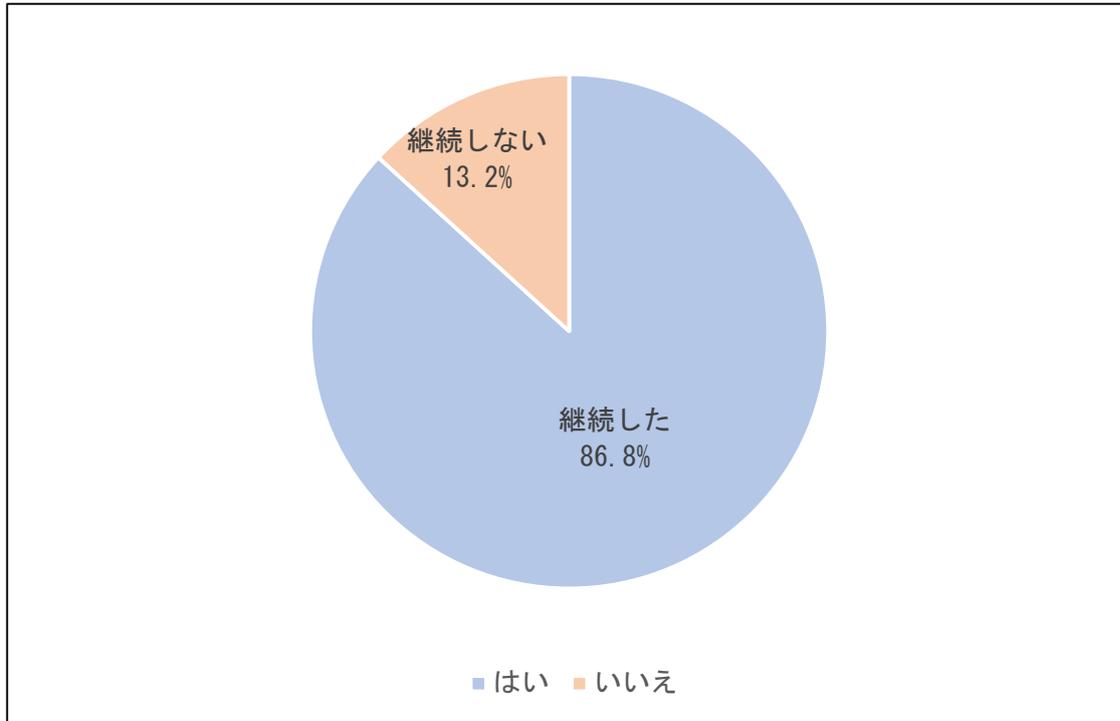
今回の申請が療養者の家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の疑いによるものだった場合、当該の家族や介護者の実際の診断はいかがでしたか？	人数	割合
新型コロナウイルス感染症だった	368	40.9%
その他	532	59.1%

2) 事業所の体制

①今回の申請理由となった療養者の訪問サービスの継続

今回の申請理由となった療養者は、継続してサービスを受けた人数が 86.8% (2,247 人) で、継続してサービスを受けなかった人数が 13.2% (341 人) であった。

図表 32 療養者のサービスの継続

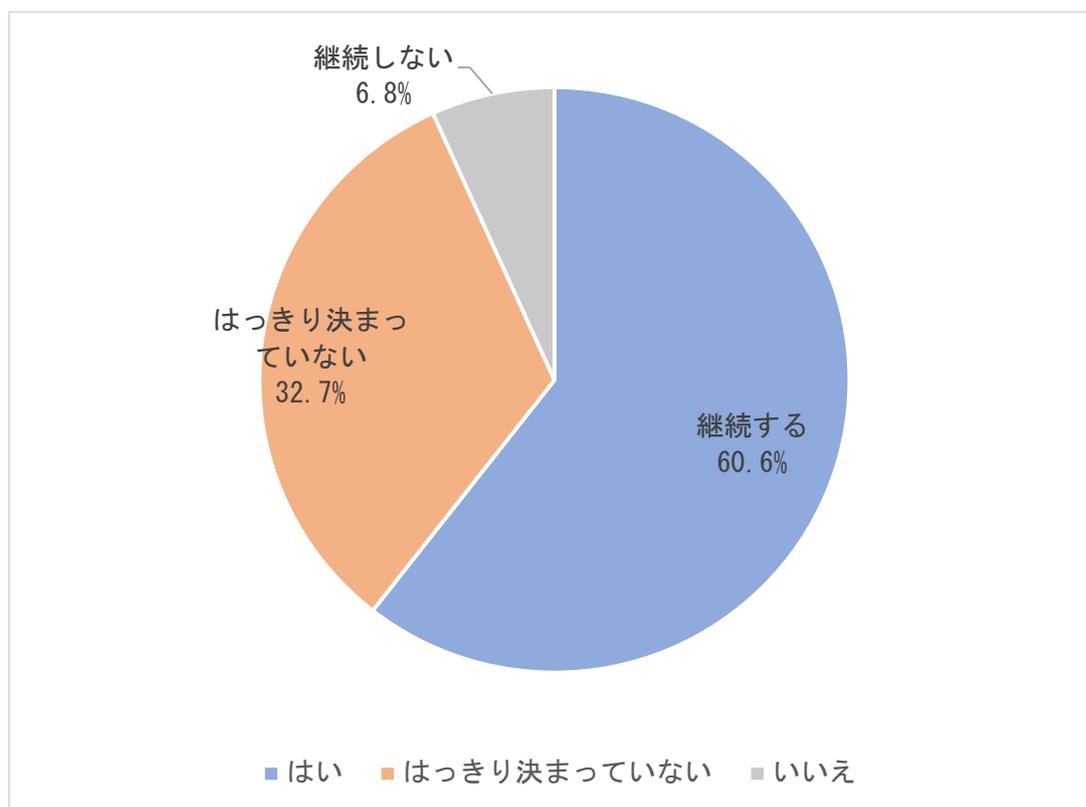


療養者のサービスの継続	人数	割合
継続した	2,247	86.8%
継続しない	341	13.2%

②療養者の新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の、当該利用者へのサービスの継続

今回の療養者への対応に限らず療養者に新型コロナウイルスの感染者が発生した場合に、当該利用者へのサービスを継続することになっているに関して、継続する 60.6% (1,577 人)、はっきり決ま
っていない 32.7% (851 人) だった。

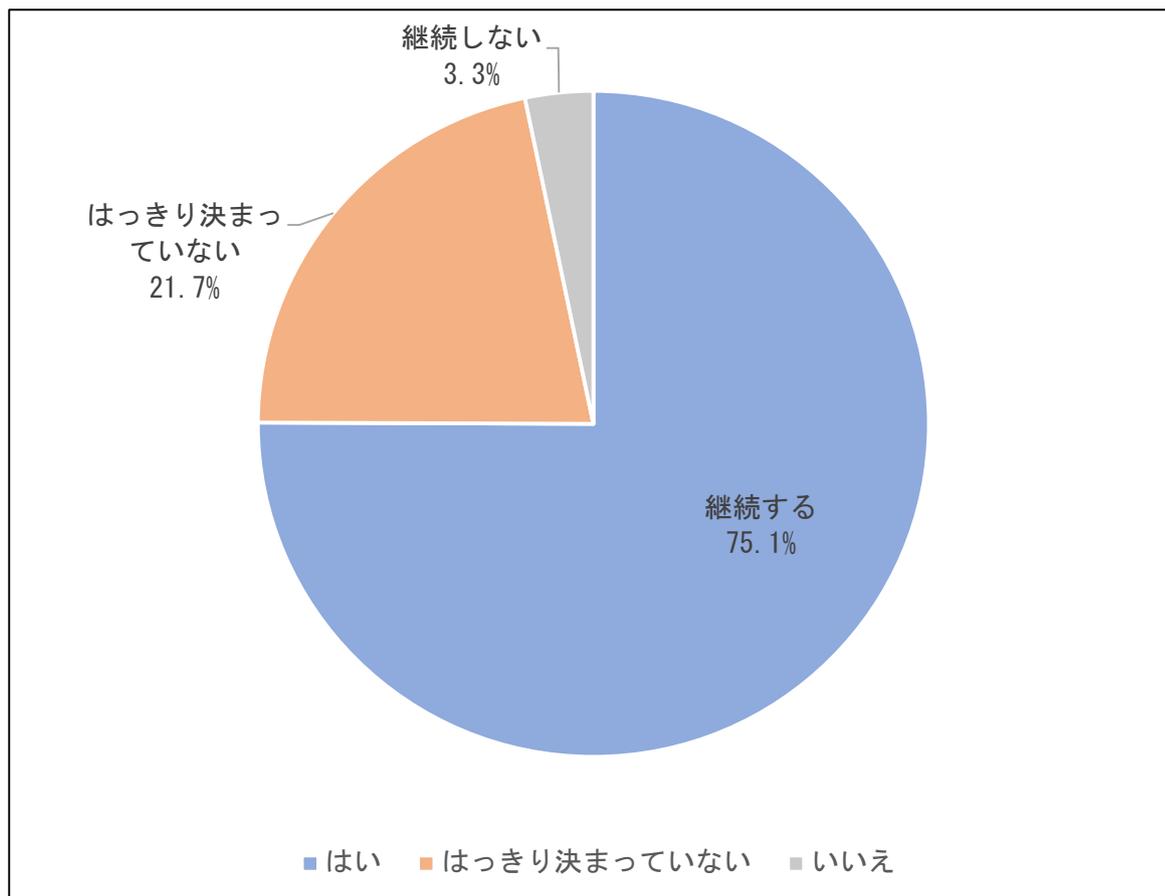
図表 33 療養者の新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の、当該利用者へのサービスの継続
(n=2,604)



療養者の新型コロナウイルスの感染者が発生し た場合の、当該利用者へのサービスの継続	人数	割合
継続する	1,577	60.6%
はっきり決ま っていない	851	32.7%
継続しない	176	6.8%

③新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者が出た場合のサービスの継続
 コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者が出た場合のサービスの継続発熱など、
 新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者が出た場合に、当該利用者へのサービ
 スを継続することになっているに関して、継続する 75.1% (1,957 人)、はっきり決まっていない
 21.7% (565 人) だった。

図表 34 新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者が出た場合のサービスの継続
 (n=2, 607)

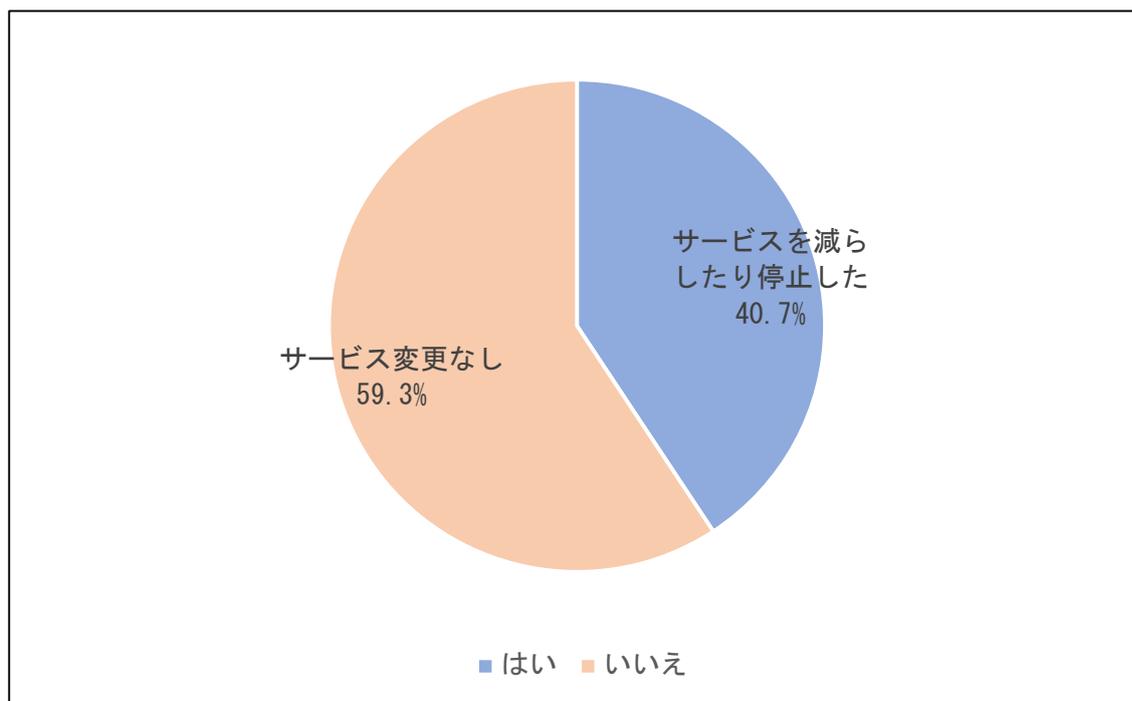


新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する 利用者が出た場合のサービスの継続	人数	割合
継続する	1,957	75.1%
はっきり決まっていない	565	21.7%
継続しない	85	3.3%

④今回の療養者への対応前の、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービス

今回の療養者への対応より前に、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービスを減らしたり停止したことがあるかに関して、サービスを減らしたり停止した 40.7% (1,064 人)、サービス変更なし 59.3% (1,548 人) だった。

図表 35 今回の療養者への対応前の、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービス (n=2, 612)



今回の療養者への対応より前に、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービスを減らしたり停止したりしたことがありますか。	人数	割合
サービスを減らしたり停止した	1,064	40.7%
サービス変更なし	1,548	59.3%

⑤サービス減少・停止の経験の理由

サービスの減少・停止の経験の理由には、感染への不安が最も多く 36.8% (393 人)、次いでその他（設問以外の回答）が 24.2% (259 人)、次いで知識やノウハウの不足が 12.4% (133 人) であった。

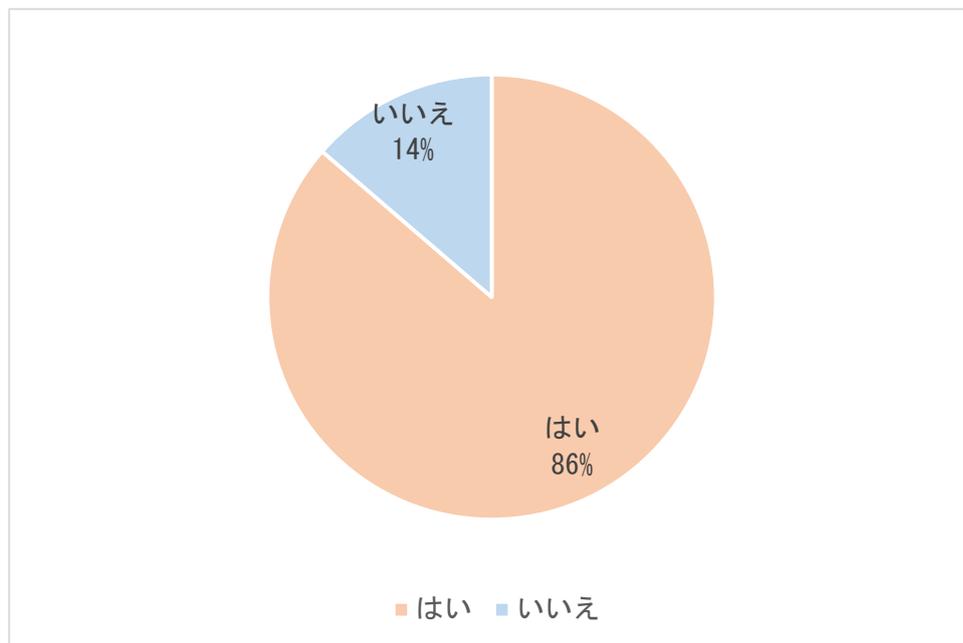
図表 36 サービス減少・停止の経験の理由 (n=1,069)

サービス減少・停止の経験の理由	人数	割合
感染への不安	393	36.8%
知識やノウハウの不足	133	12.4%
人材の不足	131	12.3%
感染防護具の不足	61	5.7%
家族	36	3.4%
リスクを下げるため	30	2.8%
医師	10	0.9%
保健所	9	0.8%
入院	7	0.7%
その他（設問以外の回答）	259	24.2%

⑥新型コロナウイルスの感染対策マニュアル等の準備

新型コロナウイルス感染対策マニュアル等を準備しているかは、準備しているが 86.3% (2,239 人) で準備していないが 13.7% (354 人) であった。

図表 37 新型コロナウイルスの感染対策マニュアル等の準備 (n=2, 593)



マニュアルの準備の有無	人数	割合
はい	2,239	86.3%
いいえ	354	13.7%

⑦今回のプロジェクトを知った経緯

今回のプロジェクトを知った経緯は、日本訪問看護財団ホームページが最も多く 42.6% (1,349 人)、次いで都道府県/市区町村訪問看護連絡協議会などが 12.4% (392 人)、次いで全国訪問看護事業協会が 9.4% (298 人) であった。

図表 38 今回のプロジェクトを知った経緯 (n=3,168)

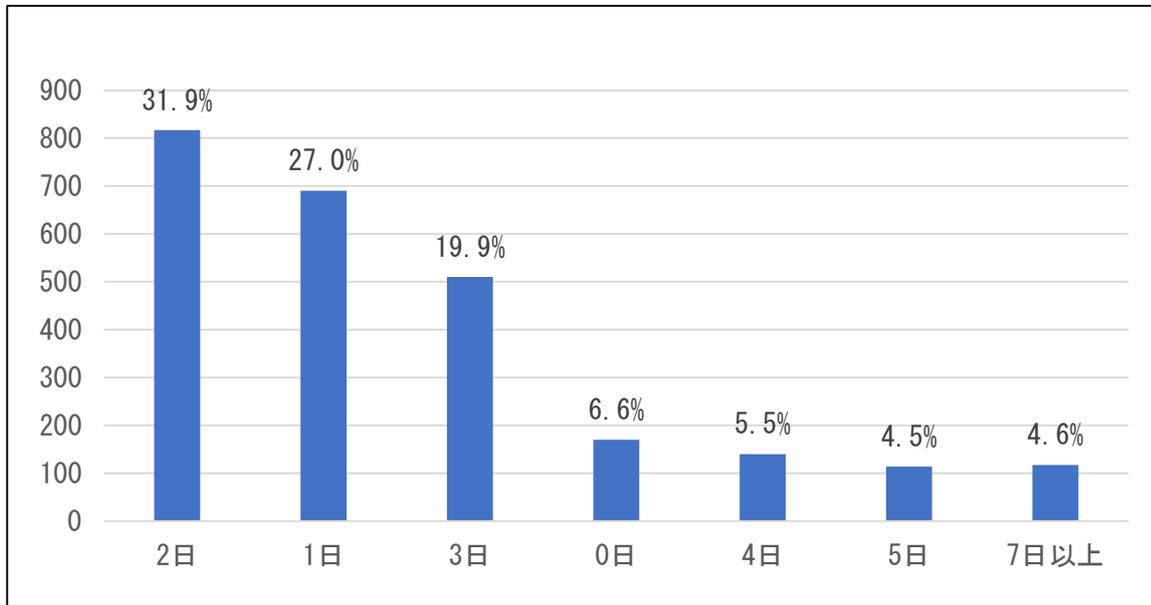
今回のプロジェクトを知った経緯	回答数	割合
日本訪問看護財団ホームページ	1,349	42.6%
都道府県/市区町村訪問看護連絡協議会など	392	12.4%
全国訪問看護事業協会	298	9.4%
日本看護協会	271	8.6%
日本訪問看護認定看護師協議会	204	6.4%
都道府県看護協会	192	6.1%
市町村のお知らせ	52	1.6%
都道府県のお知らせ	51	1.6%
MCS (MedicalCarestation)	41	1.3%
日本在宅ケアアライアンス	39	1.2%
感染防護具支援プロジェクト協力団体より	38	1.2%
Facebook	36	1.1%
笹川財団または日本財団ネットワーク	19	0.6%
地域包括支援センター	16	0.5%
キャンナス	9	0.3%
本財団発行「ほうもん看護」機関紙	4	0.1%
都道府県ホームヘルパー連絡協議会	3	0.1%
Twitter	1	0.03%
その他 (設問以外の回答)	153	4.8%

3) 本プロジェクトの体制

①申請してから到着までの日数

申請してから到着までの日数は、2日が多く 31.9% (817 人)、次いで 1日 が 27.0% (690 人)、次いで 3日 19.9% (510 人) であった。

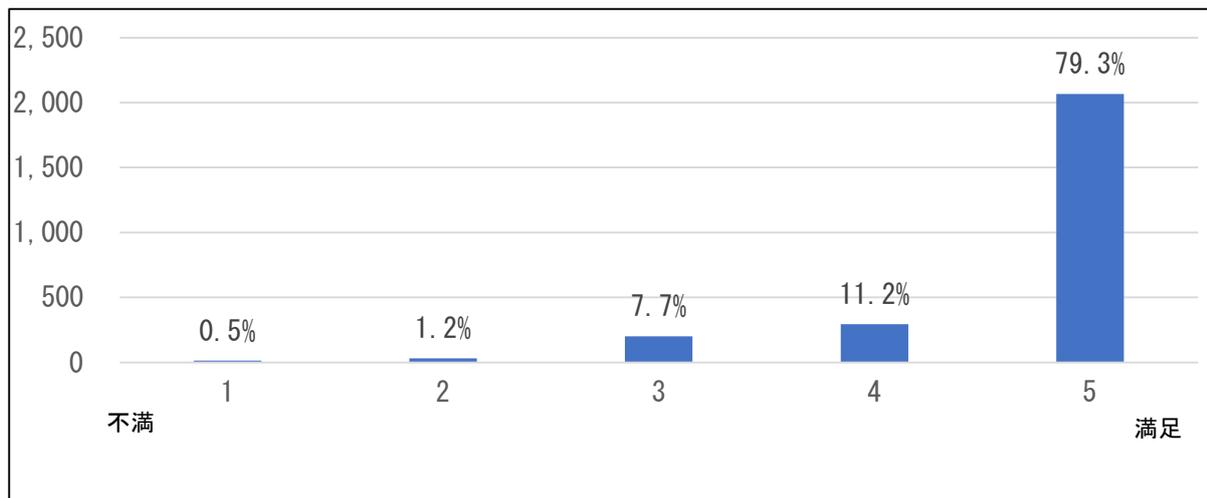
図表 39 申請してから到着までの日数 (n=2,558)



②申請から感染防護具到着までの日数についての満足度

申請から感染防護具到着までの日数についての満足度は、5 が最も多く 79.3% (2,067 人)、次いで4が11.2% (293 人)、次いで7.7% (201 人) であった。

図表 40 申請から感染防護具到着までの日数についての満足度 (n=2,605)



申請から感染防護具到着までの日数についての満足度	人数	割合
不満 1	13	0.5%
2	31	1.2%
3	201	7.7%
4	293	11.2%
満足 5	2,067	79.3%

4) 本プロジェクトの受益者

①感染防護具を使用した人・職種（複数選択）（n=4,124）

感染防護具を使用した人・職種は、看護職が最も多く 56.4%（2,324 人）、次いで介護職が 12.2%（504 人）、次いでリハビリテーション職種が 10.3%（425 人）であった。

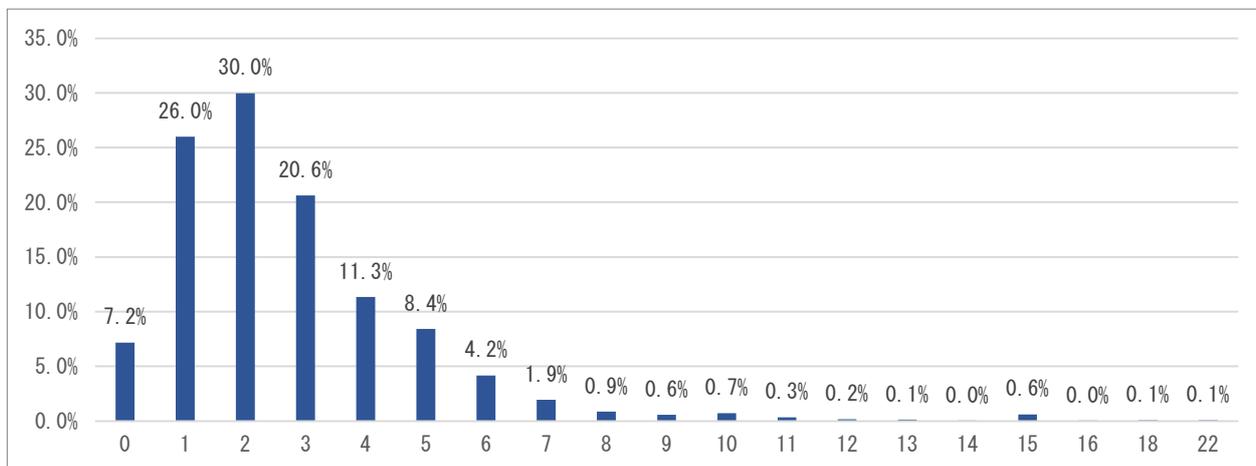
図表 41 感染防護具を使用した人・職種（複数選択）（n=4,124）

送付された感染防護具を使用した人・職種	人数	割合
看護職（看護師・准看護師・保健師・助産師）	2,324	56.4%
介護職（介護福祉士・訪問介護員）	504	12.2%
リハビリテーション職種（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	425	10.3%
療養者の家族	341	8.3%
療養者本人	292	7.1%
医師	104	2.5%
その他	69	1.7%
ケアマネジャー	55	1.3%
マッサージ師	4	0.1%
看護補助者	3	0.1%
薬剤師	2	0.05%
家政婦	1	0.02%

②感染防護具を使用した人のうち、「女性」の人数 (n=2,637)

送付された感染防護具を使用した人のうち、「女性」の人数は、2名が最も多く30.0%(698人)で、次いで1名が26.0%(605人)、次いで3名が20.6%(480人)であった。

図表 42 受益者の状況 (n=2, 637)



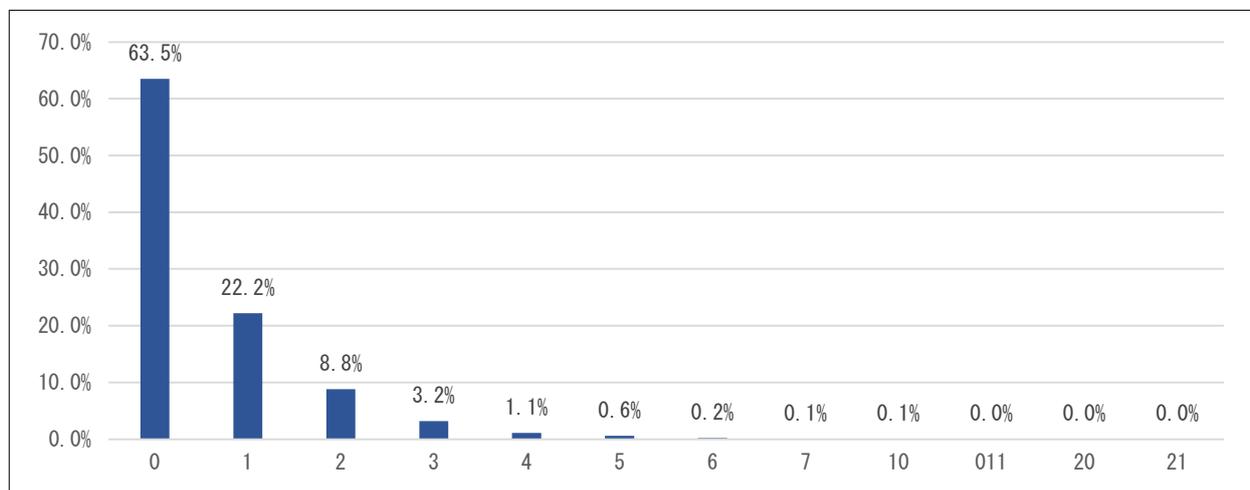
女性の人数	人数	割合
0名	167	7.2%
1名	605	26.0%
2名	698	30.0%
3名	480	20.6%
4名	264	11.3%
5名	196	8.4%
6名	97	4.2%
7名	45	1.9%
8名	20	0.9%
9名	13	0.6%

女性の人数	人数	割合
10名	17	0.7%
11名	8	0.3%
12名	4	0.2%
13名	3	0.1%
14名	1	0.0%
15名	14	0.6%
16名	1	0.04%
18名	2	0.1%
22名	2	0.1%

③感染防護具を使用した人のうち、「男性」の人数

送付された感染防護具を使用した人のうち、「男性」の人数は、0名が最も多く63.5%(1,675人)で、次いで1名が22.2%(586人)、次いで2名が8.8%(233人)であった。

図表 43 感染防護具を使用した人のうち、「男性」の人数 (n=2,637)



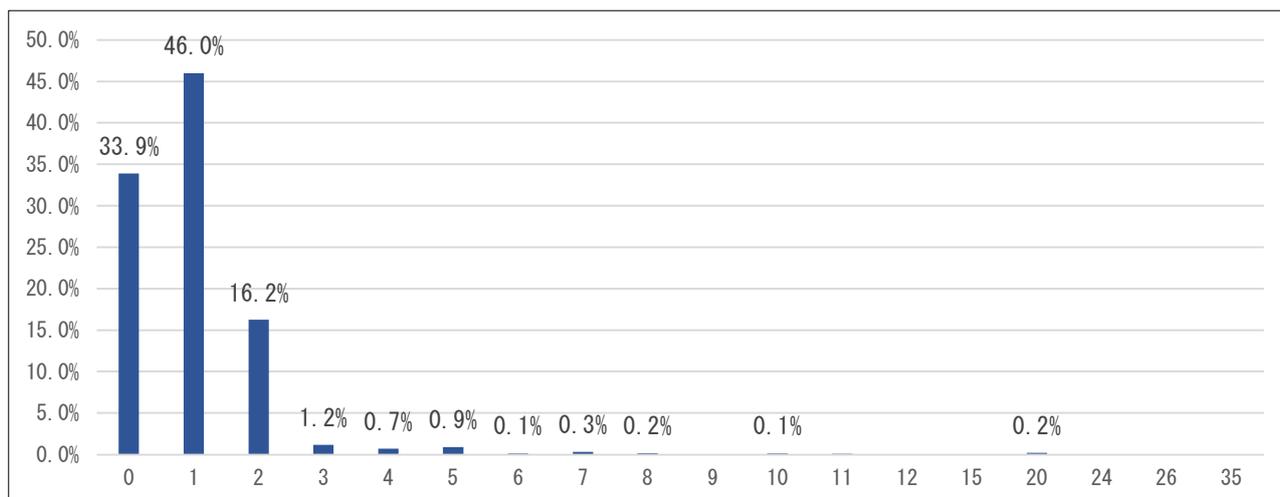
男性の人数	人数	割合
0名	1675	63.5%
1名	586	22.2%
2名	233	8.8%
3名	84	3.2%
4名	30	1.1%
5名	16	0.6%

男性の人数	人数	割合
6名	5	0.2%
7名	2	0.1%
10名	3	0.1%
11名	1	0.04%
20名	1	0.04%
21名	1	0.04%

④感染防護具を使用した人のうち、「介護保険サービス（あるいは、医療保険サービス）の自己負担割合が1割以下の人」の人数

送付された感染防護具を使用した人のうち、「介護保険サービス（あるいは、医療保険サービス）の自己負担割合が1割以下の人」の人数は、1名が最も多く46.0%(1,212人)で、次いで0名が33.9%(894人)、次いで2名が16.2%(428人)であった。

図表 44 感染防護具を使用した人のうち、「介護保険サービス（あるいは、医療保険サービス）の自己負担割合が1割以下の人」の人数 (n=2,637)



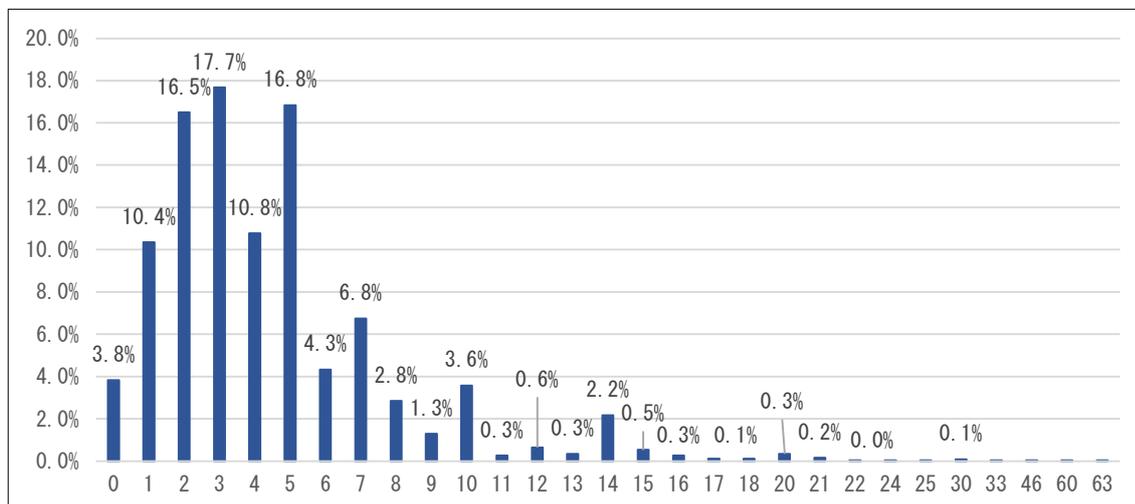
自己負担割合が1割以下の人	人数	割合
0名	894	33.9%
1名	1,212	46.0%
2名	428	16.2%
3名	31	1.2%
4名	18	0.7%
5名	23	0.9%
6名	3	0.1%
7名	8	0.3%
8名	4	0.2%

自己負担割合が1割以下の人	人数	割合
9名	1	0.0%
10名	3	0.1%
11名	2	0.1%
12名	1	0.0%
15名	1	0.0%
20名	5	0.2%
24名	1	0.04%
26名	1	0.04%
35名	1	0.04%

⑤感染防護具を使って訪問した「合計日数」

送付された感染防護具を使って訪問した「合計日数」の日数は、3日が多く 17.7%(466人)で、次いで5日が16.8%(444人)、次いで2日が16.5%(435人)であった。

図表 45 感染防護具を使って訪問した「合計日数」(n=2,637)



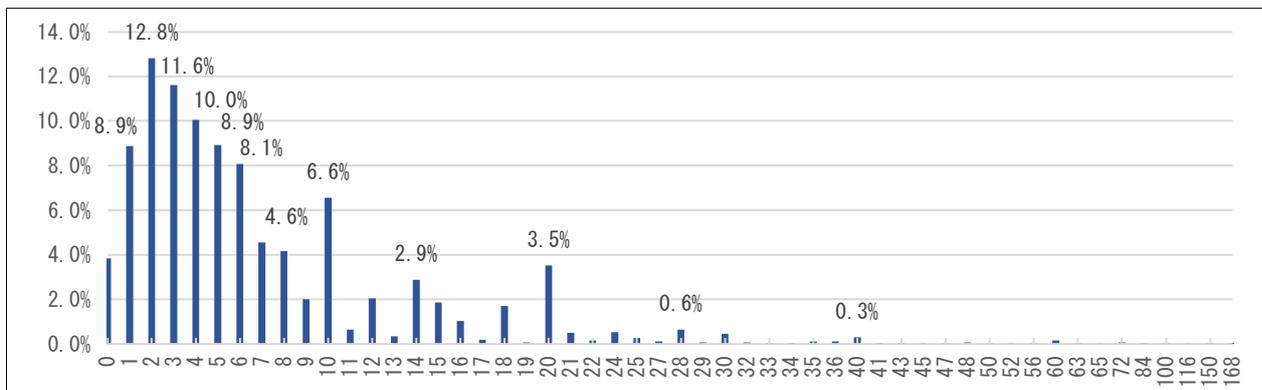
訪問した合計日数	人数	割合
0日	101	3.8%
1日	273	10.4%
2日	435	16.5%
3日	466	17.7%
4日	284	10.8%
5日	444	16.8%
6日	114	4.3%
7日	178	6.8%
8日	75	2.8%
9日	34	1.3%
10日	94	3.6%
11日	7	0.3%
12日	17	0.6%
13日	9	0.3%
14日	57	2.2%

訪問した合計日数	人数	割合
15日	14	0.5%
16日	7	0.3%
17日	3	0.1%
18日	3	0.1%
20日	9	0.3%
21日	4	0.2%
22日	1	0.04%
24日	1	0.04%
25日	1	0.04%
30日	2	0.1%
33日	1	0.04%
46日	1	0.04%
60日	1	0.04%
63日	1	0.04%

⑥感染防護具を使って訪問した「合計回数」

送付した感染防護具を使って訪問した合計回数は、2回が最も多く12.8%(338人)で、次いで3回が11.6%(306人)、次いで4回が10.0%(265人)であった。

図表 46 感染防護具を使って訪問した「合計回数」(n=2,637)



訪問した 合計回数	人数	割合
0回	101	3.8%
1回	234	8.9%
2回	338	12.8%
3回	306	11.6%
4回	265	10.0%
5回	235	8.9%
6回	213	8.1%
7回	120	4.6%
8回	110	4.2%
9回	53	2.0%
10回	173	6.6%
11回	17	0.6%
12回	54	2.0%
13回	9	0.3%
14回	76	2.9%
15回	49	1.9%
16回	27	1.0%

訪問した 合計回数	人数	割合
17回	5	0.2%
18回	45	1.7%
19回	2	0.1%
20回	93	3.5%
21回	13	0.5%
22回	4	0.2%
24回	14	0.5%
25回	7	0.3%
27回	3	0.1%
28回	17	0.6%
29回	2	0.1%
30回	12	0.5%
32回	2	0.1%
33回	1	0.04%
34回	1	0.04%
35回	3	0.1%
36回	3	0.1%

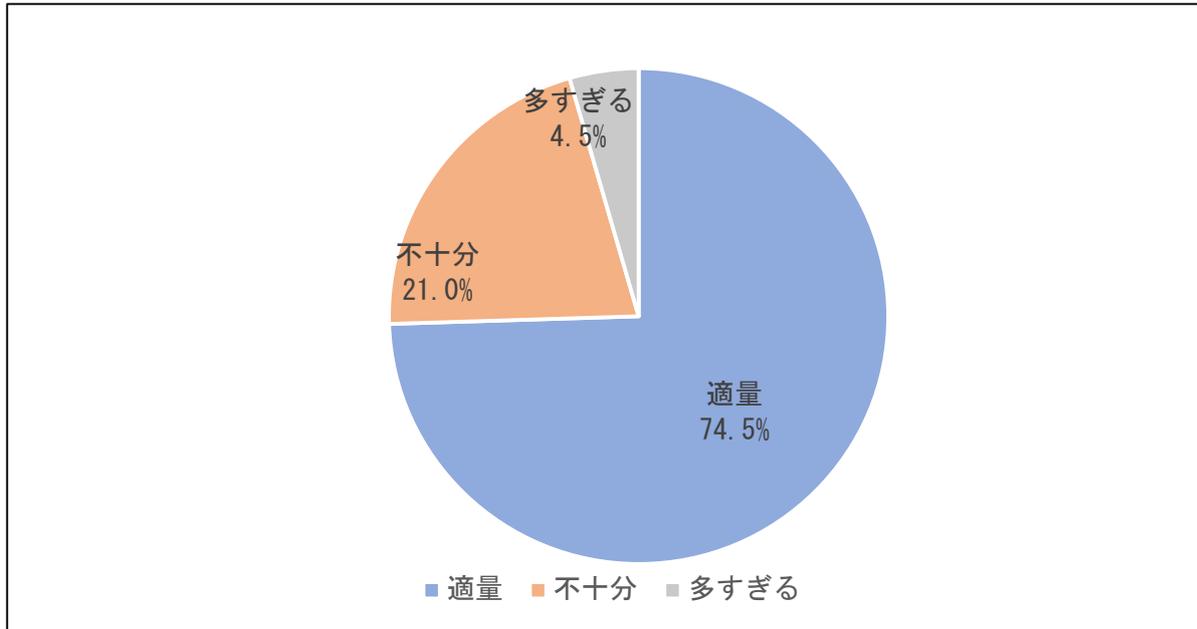
訪問した 合計回数	人数	割合
40回	8	0.3%
41回	1	0.04%
43回	1	0.04%
45回	1	0.04%
47回	1	0.04%
48回	2	0.1%
50回	1	0.04%
52回	1	0.04%
56回	1	0.04%
60回	4	0.2%
63回	1	0.04%
65回	1	0.04%
72回	2	0.1%
84回	1	0.04%
100回	1	0.04%
116回	1	0.04%
150回	1	0.04%
168回	1	0.04%

5) PPE の量

① 「N95 マスク」の量

今回のプロジェクトで配布した「N95 マスク」の量は、適量が最も多く 74.5% (1,934 人)、次いで不十分が 21.0% (546 人)、次いで多すぎるが 4.5% (116 人) であった。

図表 47 「N95 マスク」の量 (n=2, 596)

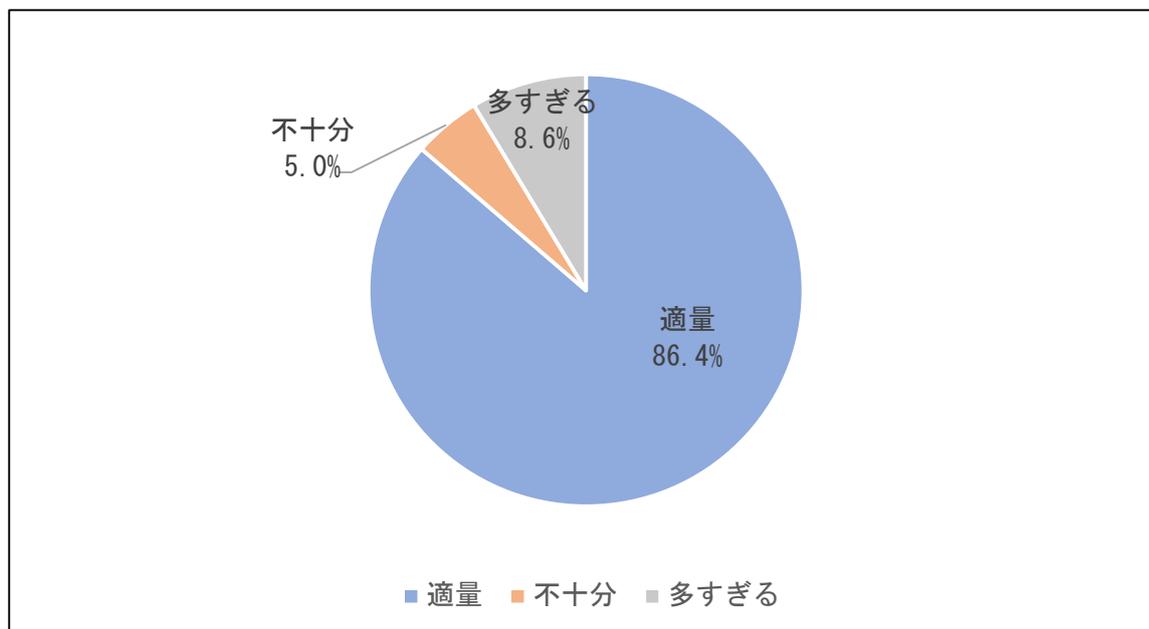


「N95 マスク」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	1,934	74.5%
不十分	546	21.0%
多すぎる	116	4.5%

②「サージカルマスク」の量

今回のプロジェクトで配布した「サージカルマスク」の量は、適量が最も多く86.4%（2,237人）で、次いで多すぎるが8.6%（223人）、次いで不十分が5.0%（130人）であった。

図表 48 「サージカルマスク」の量（n=2,596）

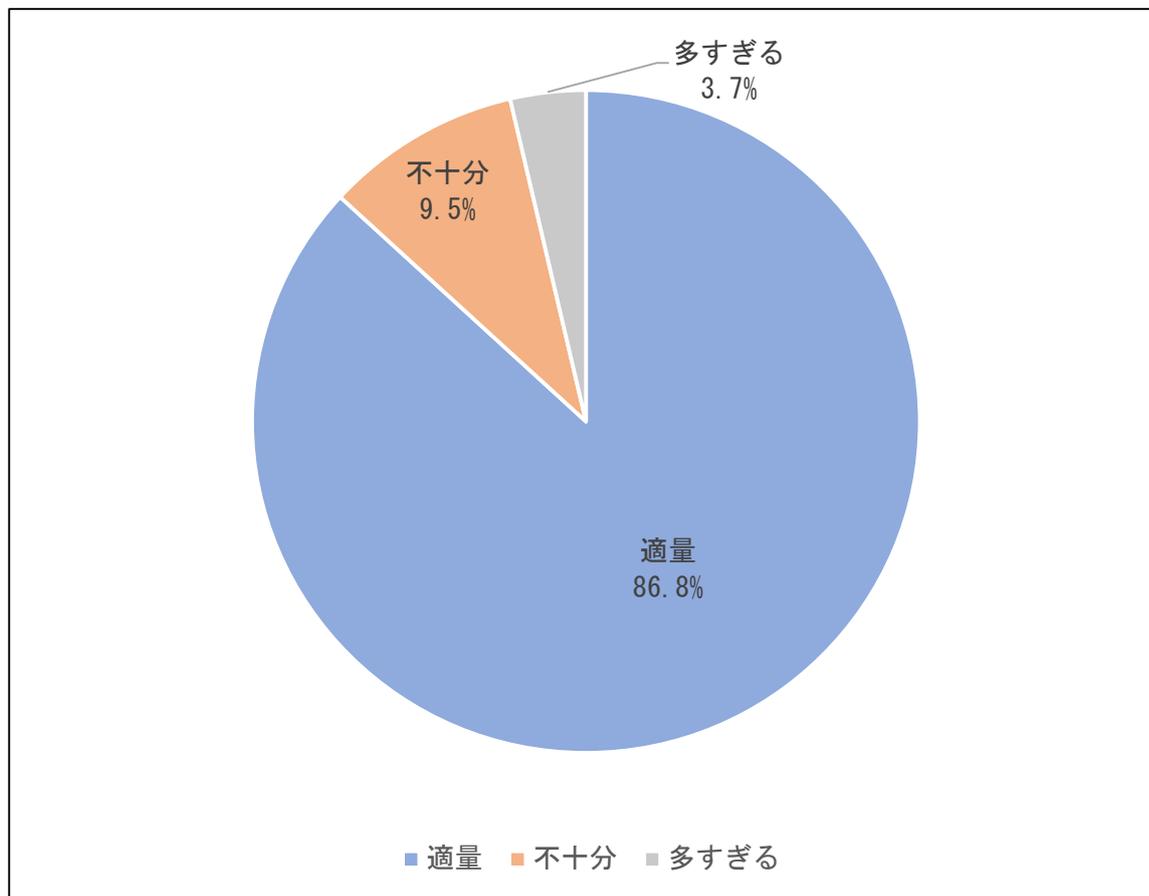


「サージカルマスク」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,237	86.4%
不十分	130	5.0%
多すぎる	223	8.6%

③「ガウン」の量

今回のプロジェクトで配布した「ガウン」の量は、適量が最も多く 86.8% (2,236 人) で、次いで不十分が 9.5% (245 人)、次いで多すぎるが 3.7% (94 人) であった。

図表 49 「ガウン」の量 (n=2,575)

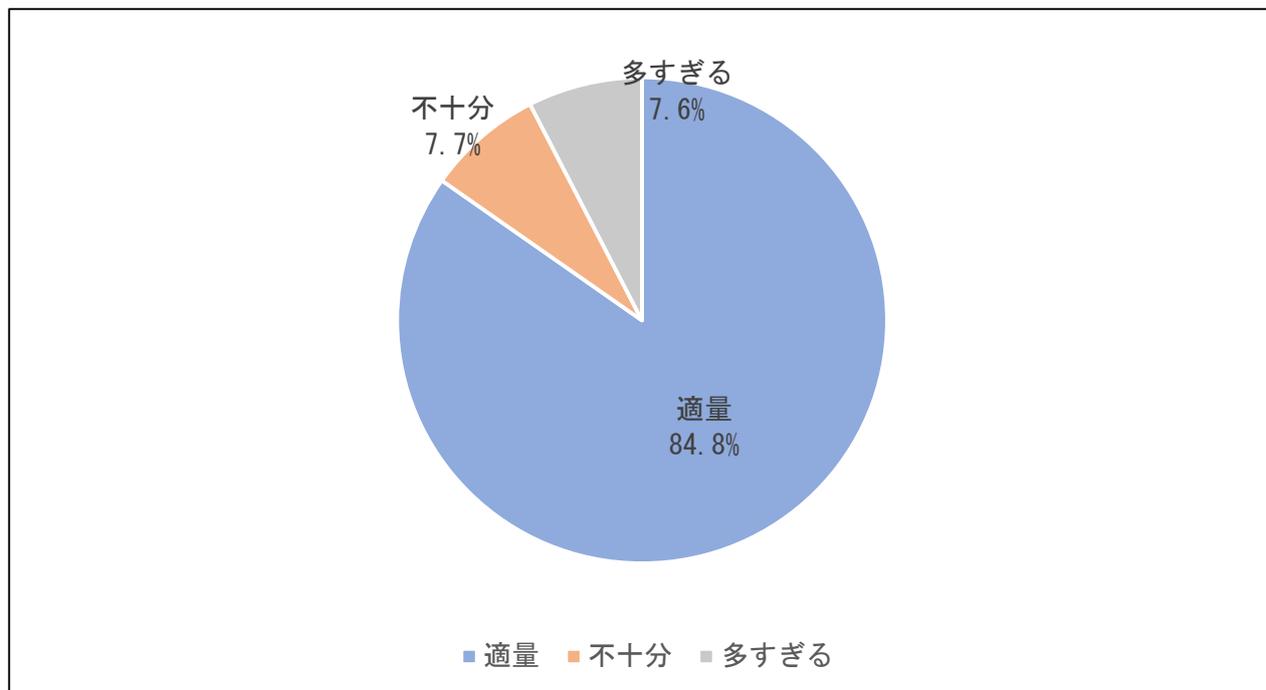


「ガウン」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,236	86.8%
不十分	245	9.5%
多すぎる	94	3.7%

④「手袋」の量

今回のプロジェクトで配布した「手袋」の量は、適量が最も多く 84.8% (2,198 人) で、次いで不十分が 7.7% (199 人)、次いで多すぎるが 7.6% (196 人) であった。

図表 50 「手袋」の量 (n=2,593)

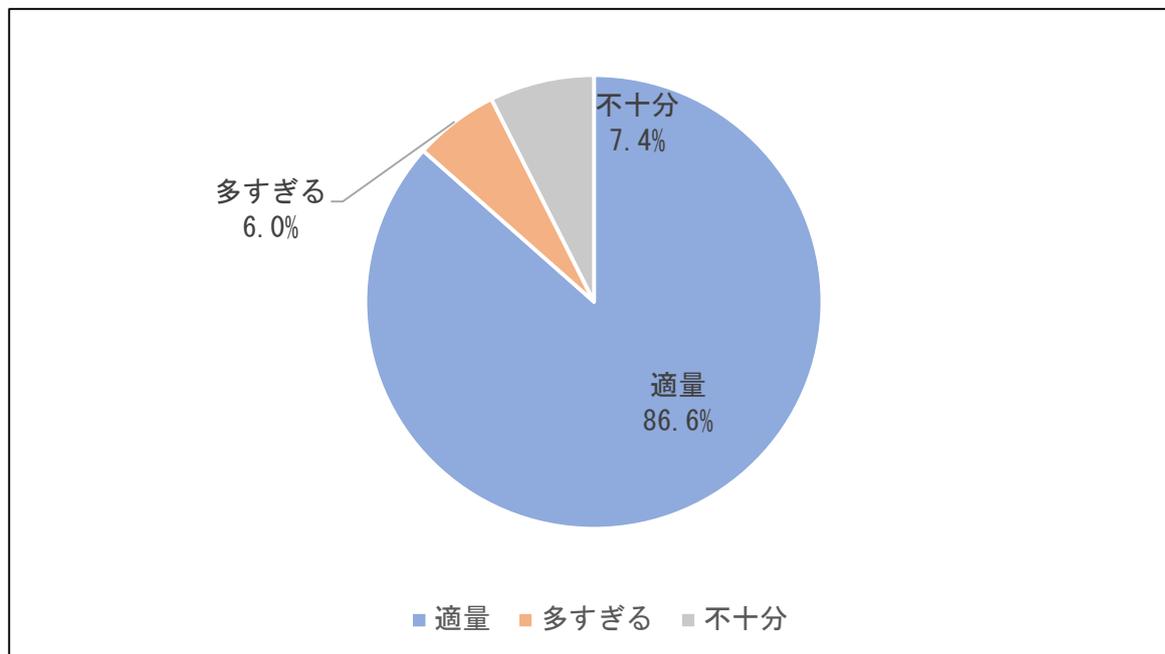


「手袋」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,198	84.8%
不十分	199	7.7%
多すぎる	196	7.6%

⑤「フェイスシールド」の量

今回のプロジェクトで配布した「フェイスシールド」の量は、適量が最も多く86.6%（2,234人）で、次いで不十分が7.4%（191人）、次いで多すぎるが6.0%（155人）であった。

図表 51 「フェイスシールド」の量（n=2,580）

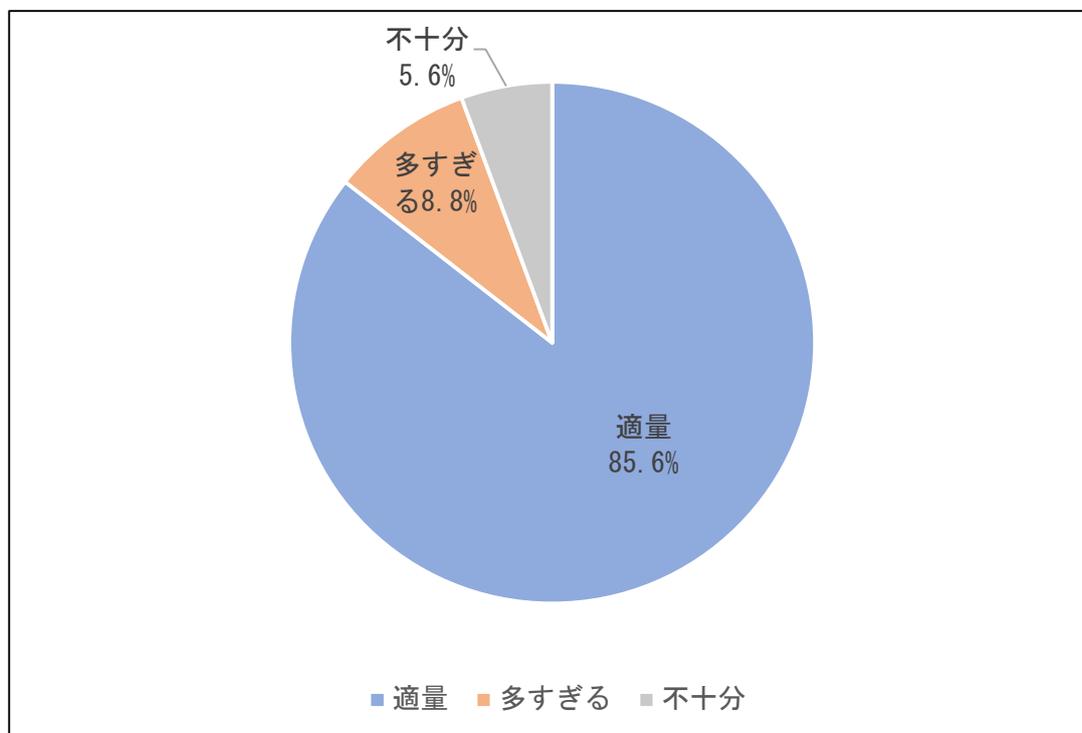


「フェイスシールド」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,234	86.6%
多すぎる	155	6.0%
不十分	191	7.4%

⑥「ヘアキャップ」の量

今回のプロジェクトで配布した「ヘアキャップ」の量は、適量が最も多く85.6%（2,201人）で、次いで多すぎるが8.8%（227人）、次いで不十分が5.6%（144人）であった

図表 52 「ヘアキャップ」の量（n=2,572）

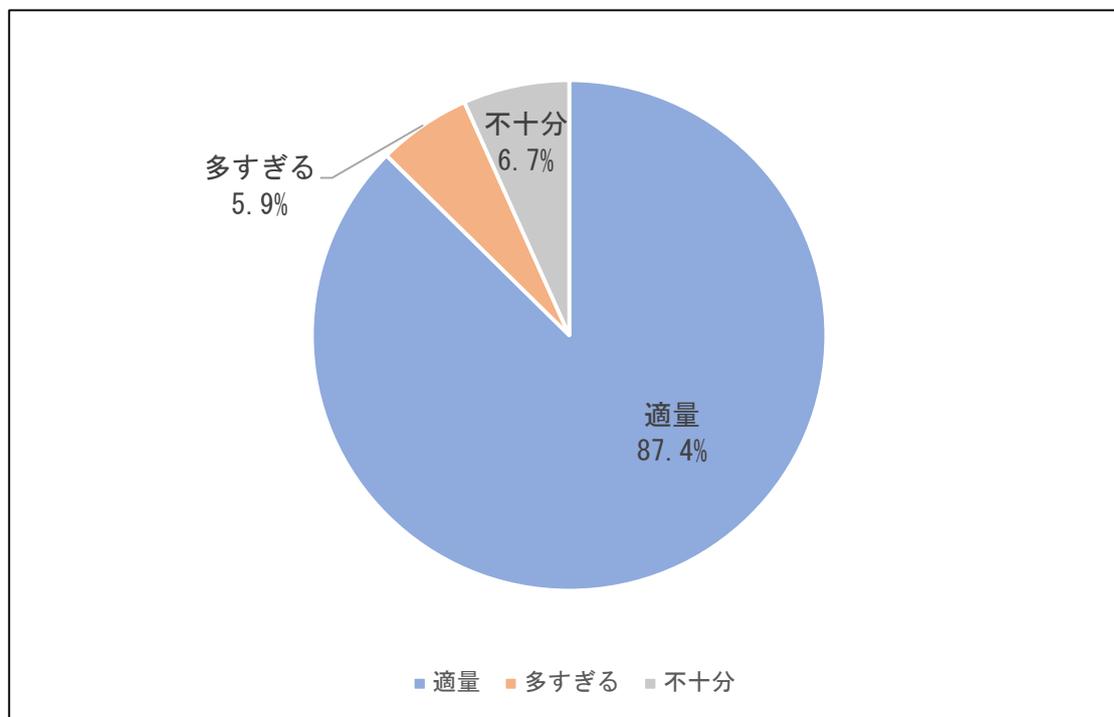


「ヘアキャップ」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,201	85.6%
多すぎる	227	8.8%
不十分	144	5.6%

⑦「消毒液」の量

今回のプロジェクトで配布した「消毒液」の量は、適量が最も多く 87.4% (2,241 人) で、次いで不十分が 6.7% (171 人)、次いで多すぎるが 5.9% (151 人) であった。

図表 53 「消毒液」の量 (n=2,563)

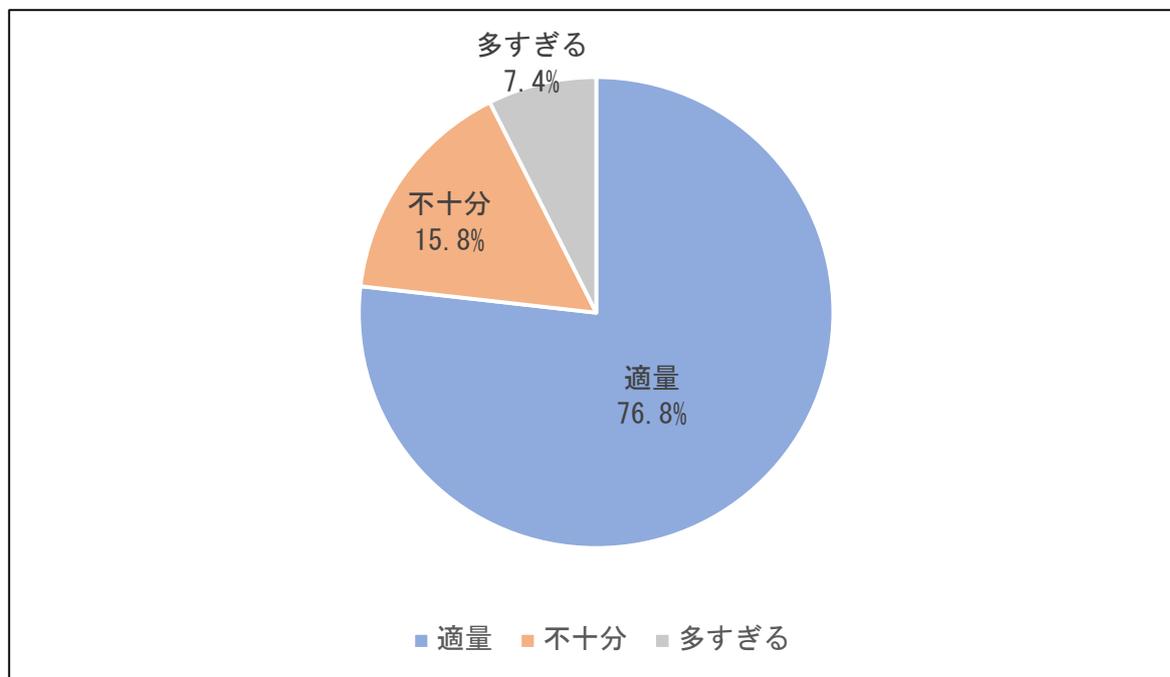


「消毒液」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,241	87.4%
多すぎる	151	5.9%
不十分	171	6.7%

⑧「スリッパ」の量

今回のプロジェクトで配布した「スリッパ」の量は、適量が最も多く 76.8% (1,971 人) で、次いで不十分が 15.8% (406 人)、次いで多すぎるが 7.4% (190 人) であった。

図表 54 「スリッパ」の量 (n=2,567)

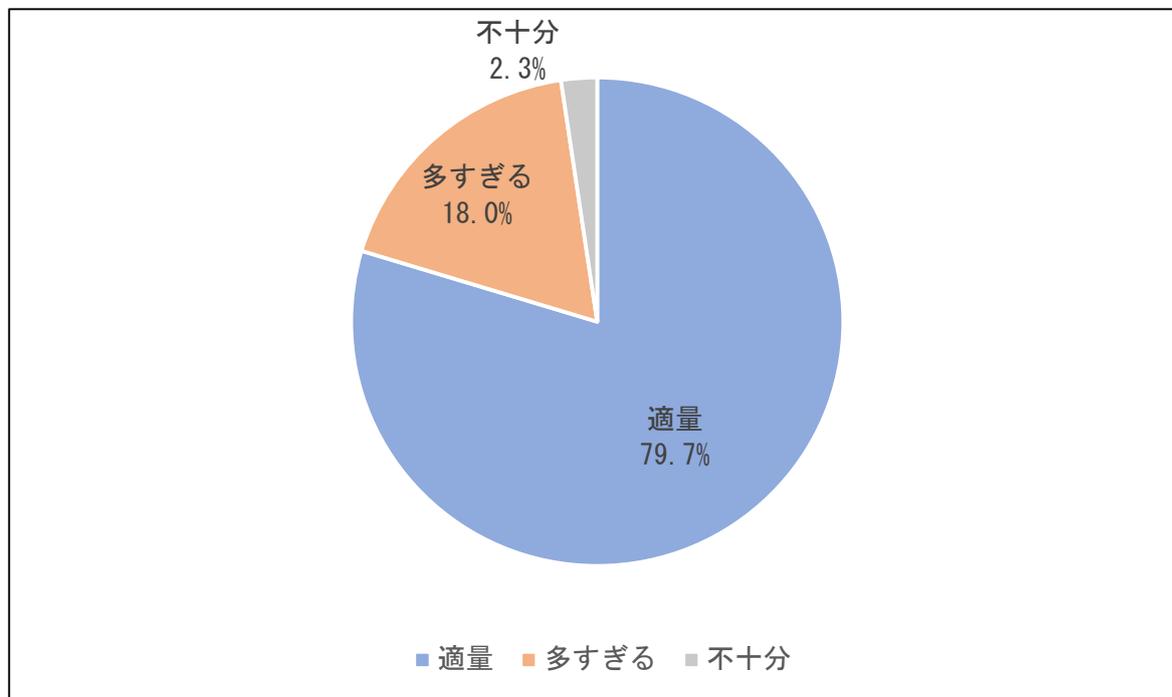


「スリッパ」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	1,971	76.8%
不十分	406	15.8%
多すぎる	190	7.4%

⑨「ゴミ袋」の量

今回のプロジェクトで配布した「ゴミ袋」の量は、適量が最も多く 79.7% (2,070 人) で、次いで多すぎるが 18.0% (467 人)、次いで不十分が 2.3% (61 人) であった。

図表 55 「ゴミ袋」の量 (n=2,598)



「ゴミ袋」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,070	79.7%
多すぎる	467	18.0%
不十分	61	2.3%

⑩その他、不足物品

配布された PPE または不足した物品について自由回答を以下のように得た（図表 56・57）。

図表 56 不足物品（n=589）

不足したもの	回答数
不足したものは無い	239
シューズカバー	190
N95 マスク	34
使い捨てズボン	20
ゴーグル（フェイスシールドのかわり）	19
アルコール消毒液とアルコール手指消毒液	17
手袋	15
ガウン	10
シャワーキャップ	6
使用後処理バッグ類/小ビニール袋	6
アルコールシート	5
フェイスシールドの曇り止め	5
ゴミ袋	4
体温計	4
パルスオキシメーター/SpO2 モニター	4
ペン、紙、マジック類、養生テープ	4
フェイスシールド	2
ペーパータオル	2
ジップロック	2
うがい薬	1

図表 57 その他不足物品（回答原文ママ）

項目	自由記述
消毒液	陽性者対応の場合、アルコールはジェルタイプより水様の方が衣類に吹きかけたりできるので便利だと気付きました。
	利用者宅に置いてくる小さめの手指消毒ポンプが複数あると良い。
	液体のアルコール消毒液が欲しかった。フェイスシールドではなくゴーグルの方が動きやすい。フェイスシールドは手が当たったり、聴診器がかけにくかったり。
	手指衛生アルコールはジェルではなく液体の方が使用しやすいです。
	可能であれば、消毒薬は小さい容器に入った方が便利。また、ウェットテッシュ（アルコール）もあれば便利かもしれません。
マスク・フェイスシールド	訪問を短時間に効率よく行うために出来るだけ複数名で計画しました。不足したのは N95 マスクでしたので足りなかった。購入するまでのつなぎは出来ました
	フェイスシールドの紐が切れたのでテープで固定して使用した。
	フェイスシールドはアルコールで拭いて再利用。スリッパはこちらで準備したものでアルコール清拭・噴霧で使用していました。
	N95 マスクのゴムが少し弱くて切れやすく心配でした
	N95 マスクのゴム切れが起き、交換することになり不足した。手袋は、処置内容の多い利用者さんだったため不足した。（浣腸、摘便、吸引）
	N95 マスクは高すぎて手に入らない
	KN マスク？N95 よりもレベルを下げてよいと思うのでウイルス対策マスクが欲しい
	対象者は陰性ではありましたが、途中で陽性になる利用者もいたため、不安に感じ、「N95 マスク」が少々、足りないかと思いました。ジップつきの袋は良いかと思いましたが、ゴミ袋は大きすぎたので、中間の大きさの物や使い捨てのシューズカバーがあればよいかと思いました。
ゴミ袋	ゴミ袋が半透明で中身が見えにくいもののほうがありがたい。
	ゴミ袋は 45L だったので、30L で同枚数あった方が良い。小さなビニール袋も入れて欲しい。オムツ・パッド・手袋などを入れて封をしたい。
	ゴミ袋は大きいだけでなく買い物袋サイズがあると重宝します
	1 人用の防護服が処分できるサイズのビニール袋
	大きい袋も役に立ちましたが、ジップロックのような高級なものではなくてもよい。

項目	自由記述
ゴミ袋	在宅で使用するにはゴミ袋が大きすぎるように感じた。
	ゴミ袋は透明な袋でなく半透明の方が良いと思う。
	透明ビニール袋はもう少し小さいサイズのものでも良かったです。
ヘアキャップ・ガウン	男性にはMサイズが小さく着用が難しかった (2)
	ガウンが女性看護師のため大きすぎた、
	ガウンは貴重なのでなかなか使えないので気軽に使える量例えば 50 枚くらいいただくと助かります
	暑さのためにガウンがかなり辛く袖なしでも対応することも増えています (4)
	シールドも出来れば眼だけを保護する (アイシールド) もあったら良かった。
	在宅は膝をつく場合が多く使い捨てのズボンがあるといい
	現在、20 人分の防護服を用意し、社用車に常備しました
手袋	看護師は援助ごとに手袋を交換するので不足と感じたが、リハ職・ヘルパーは訪問で1組使いが多いため、不足と感じなかった。
	手袋が M サイズで女性スタッフ全員サイズが合わずにステーションのものを使用した。S サイズだとありがたかった。(2)
	手袋はロングタイプが良いです
スリッパ・足袋・シューズカバー	使い捨て足袋を買いました
	在宅では布団生活の方もおり、施設のベッド生活と異なり、どうしてもしゃがむ場面がありました。腕カバーを上腕と下腿に装着し露出しないように装着した。また、スリッパでなくシューカバーを用意した。
	できれば、スリッパではなくシューズカバーの方が側部全体を覆えて良いと思いました
	独居で物が多くスリッパでは転ぶので、シューズカバーを用意しました。
	頂いたスリッパを汚染しないよう、スリッパに足カバーをかけて使用しました。足元に対してどこまで予防策をとるべきかの基準が把握できていない部分があるのですが、使用したスリッパを使いまわす事が心配だった事と、都度使い捨てにするにはコストとしてどうなのだろうかと考え、事業所として購入していた足カバーを使用したため、今後ご検討頂けると幸いです。
量について	量が不足 (3)
	EK の悪化により 3 日目に亡くなられたので今回十分な量を頂けたと思っています。
量について	一人に対しての量は十分であったが、感染者が増えると全然足りな

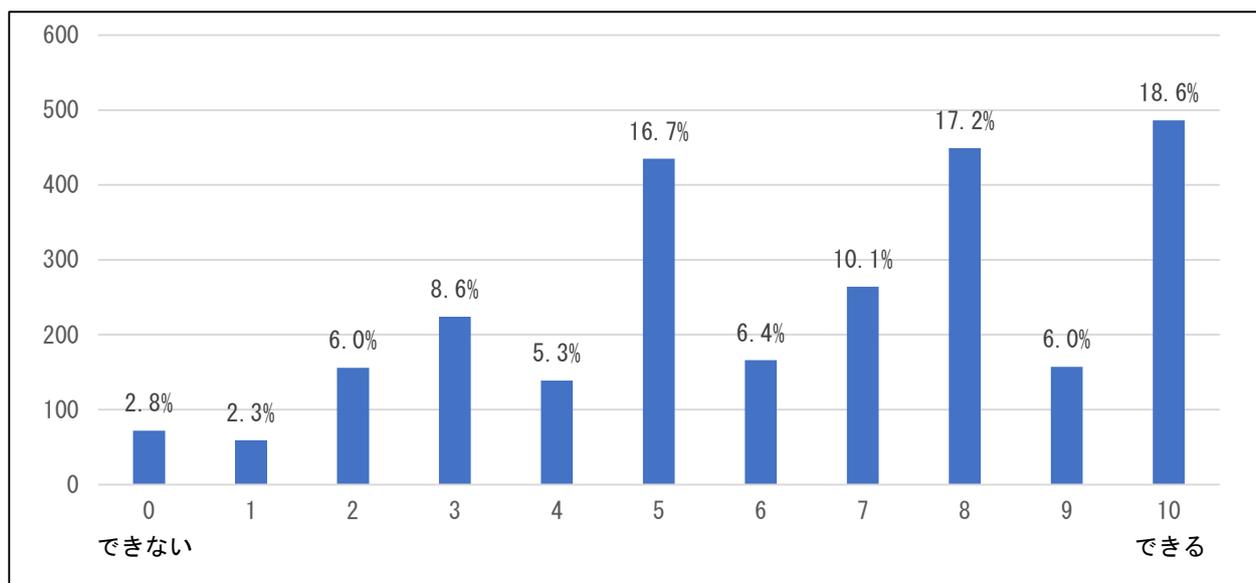
項目	自由記述
	<p data-bbox="584 248 608 275">い</p> <p data-bbox="584 297 1241 324">感染予防セットとして一式のセットを作って欲しい。</p> <p data-bbox="584 347 1445 468">元々週 1 回の訪問でしたので足りました。万が一、家族が陽性になった場合、医療処置があり連日の訪問が必要となると想定していた為、防具がすぐにそろい、安心しました。</p> <p data-bbox="584 490 1445 566">今回のケースでは十分な量でしたが、コロナに感染した方に対応する期間によっては N95 マスク 5 枚はすくないように感じました。</p> <p data-bbox="584 589 1445 665">今回は感染防護具を使用しておりませんが、もし使用となった場合は全体的に数が少ないかと思えます。</p> <p data-bbox="584 687 1445 763">コロナ疑いで PPE 必要な利用者は複数名申請予定だったが 1 名分しか入手できなかった。</p> <p data-bbox="584 786 1445 862">コロナ疑いで PPE 必要な利用者は複数名申請予定だったが 2 名分しか入手できなかった。</p> <p data-bbox="584 884 1310 911">数が不足したので保健所より備蓄防護用品の支援を受けた</p> <p data-bbox="584 934 1445 1010">上記より、ガウン、マスクが多く、フェイスシールドはなくてもいい。</p>
未使用について	<p data-bbox="584 1010 1353 1037">到着が遅かったため、使用しませんでした。今後に使います。</p> <p data-bbox="584 1059 1070 1086">実際に使用しなかったので分からない。</p> <p data-bbox="584 1108 1018 1135">実際に使用開始には至らなかった。</p> <p data-bbox="584 1158 1382 1184">実際使用するなら手袋がもう少し多ければいいなと思いました。</p> <p data-bbox="584 1207 1166 1234">6 日後に届いたため、当人には使用していない</p> <p data-bbox="584 1256 1018 1283">ジブロックは使用しませんでした。</p>

6) スタッフの安心感

①PPE の使用によるスタッフの安心した訪問

今回のPPEを装着することでスタッフが安心して療養者宅へ訪問できるかは、10が最も多く18.6%（486人）で、次いで8が17.2%（449人）、次いで5が16.7%（435人）であった。

図表 58 スタッフの安心した療養者への訪問（n=2,607）

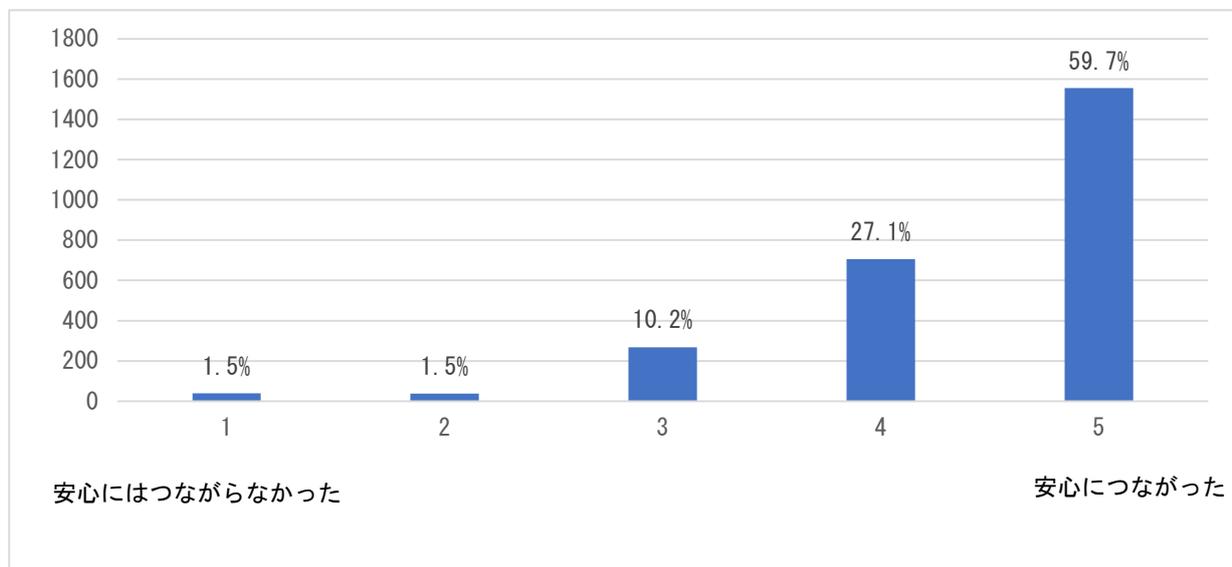


現在、（今回対象となった療養者に限らず）全体として、 スタッフが安心して利用者の家に訪問できる		人数	割合
できない	0	72	2.8%
	1	59	2.3%
	2	156	6.0%
	3	224	8.6%
	4	139	5.3%
	5	435	16.7%
	6	166	6.4%
	7	264	10.1%
	8	449	17.2%
	9	157	6.0%
できる	10	486	18.6%

②本プロジェクトは利用者の家に訪問するスタッフの安心感

今回の PPE を装着することで利用者の家に訪問するスタッフの安心感は、5 が最も多く 59.7% (1,555 人) で、次いで4 が 27.1% (706 人)、次いで3 が 10.2% (267 人) であった。

図表 59 本プロジェクトの利用者の家に訪問するスタッフの安心感 (n=2,606)



本プロジェクトが利用者の家に訪問するスタッフの安心感につながった	人数	割合
安心感にはつながらなかった 1	40	1.5%
2	38	1.5%
3	267	10.2%
4	706	27.1%
安心感につながった 5	1,555	59.7%

7) プロジェクトの改善点などの自由コメント

本回答は自由記載で、1,443 件の回答があり「本プロジェクトがスタッフの安心につながった」「備蓄もさせて欲しい」「必要なタイミングで届いた」「引き続き継続して実施して欲しい」等の意見があり、日本財団に本事業の継続を申請した。また、物資に関しては、「スリッパでなく、シューズカバーを希望する」「手袋はフィットするニトリルタイプがいい」「小さめのごみ袋が欲しい」「小さなステーションでは、N95の調達が大変だったので助かった」「十分な量だった」「装着方法のリーフレットや YouTube があって助かった」「無料で提供され助かった」「マニュアルを作成して欲しい」「段ボールを小さくして運びやすくしてほしい」「夏は暑くて大変だった」等の意見があり、第 2 弾の支援物資の参考にしていく。さらに「行政でも本プロジェクトのような PPE を準備して欲しい」や「介護福祉士への教育に活用した」「本事業を知らなかった」などの意見もあり、広報活動や第 2 弾の活動へ活かしていきたい。

第4章 本プロジェクトの状況と今後の活動

1. 本事業への写真提供と感謝メールの文面

本プロジェクトに関して、多くの対象者からお礼の写真やメールの文章が送られた。その中の写真を巻末資料8に示した。さらに代表的なメール文をそのまま掲載した。

図表 60 感染防護具セットの活用報告

日付	都道府県	自由記述内容
2020年 9月10日	兵庫県	いつも大変お世話になっております。この度は防護服装着時の写真を送付させていただきます。私たち M 事業所では、重症患者や重症児を多く受け入れています。その為、訪問時に持ち込まない、持ち帰らない、移さない、を徹底し、日常生活でも感染対策を徹底するようスタッフ全員に指導をしております。感染予防を優先し、マスクや手袋、消毒液などを始め、たくさんの衛生用品を消費しているので、このような支援を頂きとても助かっています。今後共、何卒よろしくお願い申し上げます。
2020年 9月15日	A 県	お世話になっております。コロナ対策感染予防グッズありがとうございます。今まで、100円ショップのカップや花粉症対策防護眼鏡、フェイスガード、手袋で対応しているので、本当に助かりました。今回届いた感染防護を用いた、訪問看護ステーション K での単身型グループホーム感染防護対策の写真になります。発熱がない利用者様も、事務所に入る際は、玄関にクリアパーテーションを使って、玄関前での体温測定を行っております。単身型グループホームなので、各利用者で玄関は別々ですが、部屋の中に入る際に、一応感性エリアと清潔エリアをマーキングして、通る方向をなるべく一方通行にしています。発熱時に部屋で出たゴミは玄関の外に出してもら（他の利用者が分かるようにマーキングをして感染エリア内にごみをだす）職員が回収するようにしています。着替えも玄関前で脱いでゴミに出して他の利用者を持ち込まない様にしています。
2020年 12月4日	H 県	この度は、2度目の感染防護具を頂きありがとうございました。しかも、早急な対応に感謝しています。都道府県や市より感染防護具の配布状況が異なります。大変助かりました。感染防護具支援プロジェクトに感謝致します。訪問看護は、発熱者も陽性者も拒否ができません。また、機能強化型 I のステーションとして、地域のために感染知識を習得した私達が主となり頑張っていく意向です。

日付	都道府県	自由記述内容
2020年 12月7日	N県	<p>常日頃大変お世話になっております。この度は感染防御具のセットを頂きまして、ありがとうございました。当ステーションでは、今回利用者が濃厚接触者の疑いが強くなり、検査結果が判明するまでの間、防護具を着用し訪問を継続致しました。結果陰性であり、事なきを得ましたが・・・他にも、ディケアで感染者が出て濃厚接触になった利用者の訪問時、熱発でPCR検査の結果を待っている利用者の褥瘡ケアの訪問時に使用させて頂きました。写真撮影の許可を頂いた一人の方の写真を送付致します。市中感染が広がるなか、時期的にも発熱者が多くなり、予防的に防護具を着用する機会が多くなっています。今後とも、よろしくお願い致します。</p>
2020年 12月9日	北海道	<p>予防防護具のセット、ありがとうございます。おかげさまで、対象者3名に対する訪問が安全に行われており、職員も安心しております。但し、北海道では感染拡大が進んでおり、特に弊社の訪問エリアでの病院・デイサービス等の事業所では相当数の感染者が確認されておりますので、周知文が届くたびに不安視する状況が続いております。今後もこの状況は続くと思われるのでご利用者の安全と職員の安心を確保するための対策は徹底しており、掛かる経費の負担減と支援して下さる企業様がいらっしゃることは、職員に周知し一同で感謝しております。本当にありがとうございました。</p>
2021年 1月8日	H県	<p>この度は、早速に感染防護具を送っていただきありがとうございました。12月にご利用者のご家族が感染され、引き続いてご利用者ご夫婦が感染されました。ご家族の感染が分かった時点で訪問のお休みの連絡をいただいておりますが、感染が分かった週の前の週に訪問した担当者（理学療法士）が健康観察者に該当し、鼻汁がありPCR検査を受けさせていただいたところ陽性の結果でした。陽性になった職員は嗅覚障害が残っているようですが、回復して退院しております。担当者の訪問時は、ご利用者夫婦に発熱や風邪症状もなくマスクも着用していただいております。担当者もマスク、フェイスシールド、手指消毒も行い対応させていただいたのですが、外気を入れる換気が不十分であり、これが感染につながった要因かと考えております。今回、陽性になったご利用者ご夫婦は入院されて無事に退院されましたが、体調は安定しているとの事で、ご利用者から1月の利用はお休みしたいとの申し入れがあり訪問をお休みしているところです。セットが届いた現在、このセットはまだ使用に至っておりません。事業所としても防護具は準備しておりますが、感染防護具セットをいただき、感染防護具の着脱についての確認を行うことができました。事業所としても防護具は準備しておりますが、職員には必要時に使用できる安心感につながったと感じております。今後、職員と介護者を感染から防護できるように対応していきたいと思</p>

日付	都道府県	自由記述内容
		ます。
2021年 1月19日	H 県	<p>感染防護具支援プロジェクト事務局の皆様へ</p> <p>この度は、貴重な防護具を送ってくださり有難うございました。</p> <p>スタッフ一同心より御礼申し上げます。日々、感染予防を徹底して訪問にあたっておりますが、この時期、他の原因での熱発も多く、そんな場合でも、適宜コロナ感染症も想定しながらの訪問を行っております。コロナ感染症の先行きが今だ見えない中、今回の支援は有難く、物品と共に力強いエールを頂きました。この頂いたエールを地域に活かして参ります。</p>
2021年 1月29日	兵庫県	<p>いつも大変お世話になりありがとうございます。</p> <p>小さなステーションにとって感染防護に関する物品が品薄になったりすることは非常に致命的となるわけですので、第一波の際には本当に困りました。その時からですが、ディスポのエプロンをごみ袋で作成し、(作成した型紙あり！笑) レベルアップし防護服(袖付き)を自身で作成したりするようになり「職人技」にまでなったりしております。(笑)しかしこれに間に合わないほどの事態も想定できるため、気が抜けない状況と益々なってきたしております。この取り組みに感謝しており、是非とも継続をしていただけます様節に願います。ありがとうございます。もっといろいろな写真が送れたら良いのですが・・・どうぞよろしく願いいたします。</p>
2021年 2月12日	静岡県	<p>今月初めに、感染防護具支援プロジェクトのことを知り、早速申し込みをさせて頂きました。申込をした翌日の午前中に防護具セットが届き、ご対応の早さに皆で非常に驚きました。</p> <p>頂いたダンボール箱を開け、中身を確認したところ、防護具の充実ぶりに感動しました。ぜひ、皆さんにもこの事業の事を拡げて頂きたく、微力ながらご協力をさせて頂きたいと思い、メールを送らせて頂きます。残念ながら、訪問先で支援している画像はお送りできませんが、事務所で撮ったものでよければ、お役立てください。</p> <p>コロナ禍にあって、私たちがいろいろな方に支えられていることを実感します。利用者様の支援に、誠心誠意つとめてまいりたいと思います。</p>
2021年 2月18日	東京都	<p>感染防具の備蓄はありましたが、他の利用者さんも防護具対策が必要になり、N95マスクが不足しました。N95は人によりサイズ選定が必要で、想定よりも多くの利用者が出たことが原因で不足してしまいました。改めて課題として対策して、現在は充足してきました。区内のステーションでも財団の活動を広めて、急な利用者増加などにも対応できるよう、微力ではありますが、地域での看護体制を整えていけるよう引き続き頑張ります。寄付して頂いている企業様へも、活動報告と合わせて、お礼の伝達願います。本当にありがとうございました。</p>

日付	都道府県	自由記述内容
2021年 4月28日	S 県	<p>どこも厳しい状況が続きます。あちこちで悲しい現実を聞きます。</p> <p>当事業所でも先月 73 歳の男性が陽性でした。連休を挟み、毎日高熱が続きましたが、主治医の病院で受け入れできず、薬局でコロナールを購入してもらうしか方法がなく私たちも最低限のケアしかできませんでした。その間、保健所や病院へ何度か報告を入れていますが・・・保健所は「医療機関からまだ連絡がない」、病院は「受け入れはしていない、何かあればどこかに救急搬送」の返事でした。こんな状況なので、在宅医も見つからずでした。</p> <p>10 日経ってやっと、保健所から指示がきました。この時点で、医療機関が保健所に届け出ていなかったことがわかりましたが、とりあえず、同居の奥様（陽性）は、10 日経ったので解除と言われました。ところが訪問看護師は、10 日前（陽性前日）に入浴介助をしていたため、濃厚接触者として対応してくださいと言われました！</p> <p>奨励の PPE（財団支援分）を全て使用して、対面を避けて短時間での介助したことを説明し、再度保健所内で検討いただき、今回は濃厚接触にあたらないと判断されました。本人は 39℃が続いており、丁度保健所から連絡があった日の 14 時の訪問時に、急変しました。サーチは 96% から 70% になり、病院、保健所へ連絡し救急車を呼びました。保健所は救急車で判断！と言い、救急隊からは保健所の判断！を求められ、結局保健所が探すことになり、その間、自宅で酸素投与し指示を待ちました。自宅で亡くなっていたら、どうするんだ！何もできない時間、待たされる事に、スタッフの苛立つ気持ちが伝わってきました。奥様も不安でいっぱいでしたので、看護師は 17 時 30 分（3 時間半）付き添いました。しかし、受け入れ先は中々無く、医師が 3 時間探しても受け入れ先が無い場合に待機部屋に連絡すると言われ、全く先が見えない状況でした。酸素でサーチが 90 台に回復、症状もやや安定したので救急隊に任せて、看護師を一旦引き上げさせました。〇〇市の事もあり、本人や奥様の事を思うと後ろ髪をひかれる思いでしたが、私の中では 3 時間半が限界でした。夜の 10 時過ぎに遠方の病院に受け入れできたと連絡が入り、ほっとしました。救急車を呼んでから 1 日、2 日というケースもあったそうで、7 時間近くは・・・まだ、マシな方・・・は、おかしくても、今は当たり前になっています。みな、一所懸命にそれぞれの役割に努めていると思いつつ、後手に回さざるを得ない対応にモヤモヤが止まりません。今回、使用した防護具は全て破棄しました。もったいない気持ちと何時でも支援してくれる安心感に甘えています。ありがとうございます。</p>

2. 今後の実施状況

2020年5月29日から開始した本事業は2022年3月31日をもって第1弾が終了した。同時に2021年12月3日より感染防護具支援プロジェクト第2弾が開始した。2022年3月時点で首都圏ではまん延防止等重点措置が実施されており、引き続き感染防護具の必要性がある。全国の訪問看護師が安心して訪問看護が実施できるよう準備を進めていく。

2022年3月31日

参考巻末資料

- 資料1 新型コロナウイルス感染防護具セット内容
- 資料2 「感染防護具支援プロジェクト」送付物写真
- 資料3 申込フォーム
- 資料4 アンケート
- 資料5 PR用リーフレット（1）
- 資料6 PR用リーフレット（2）
- 資料7 「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク協力団体一覧
- 資料8 感染防護具セットの活用報告
- 資料9 第2回追加購入感染防護具セット

（※資料8は個人情報を含む写真のため掲載しておりません）

新型コロナウイルス感染防護具セット内容(1週間分のセット内容)



ガウン×18



N-95 マスク×5



サージカルマスク×1
(50 ケ入り)



ヘアークャップ (開)
×18



(閉)



フェイスシールド (表) ×18



フェイスシールド
(裏)



使い捨てスリッパ×5



ゴミ袋 45L×1 ケ
(50 ケ入)



手指消毒剤×1



手指消毒剤 (参考)



プラスチック手袋×1(100 枚入)



フリーザーバッグ (納入商品は
WF13.WF03 の増量タイプ) ×2 ケ(25 入)



マスキングテープ×1



日本訪問看護財団「感染防護具支援プロジェクト」送付物写真





感染防護具支援プロジェクト申し込みフォーム（兼 事前アンケート）

本フォームは、「日本訪問看護財団感染防護具支援プロジェクト」のもと提供される感染防護具の送付申し込みのために使用されます。メールアドレスについては、申し込み者と連絡が取りやすいものを記入してください。添付ファイルの形式で資料等をお送りすることがありますので、携帯メールアドレス以外の記入をお願いします。（例：shien2020@jvnf.or.jp）

shien2020jvnf@gmail.com アカウントを切り替える

*必須

メールアドレス*

メールアドレス

本プロジェクトでは、物品のご寄付をいただいた日本財団様・メットライフ生命保険様より、今回の防護具の配布は以下の1～4の条件が求められています。以下の点をご確認いただき、「はい」にチェックを入れてください。（同意いただけない場合は、配布ができません。）

1. 防護具の備蓄を目的とした申し込みではありません。*

現在必要な所にお届けするために、備蓄目的での申し込みはお断りしております。

はい

2. 療養者の性別・保険料の自己負担割合を確認します。*

感染防護具を使用するにあたって、療養者の年齢、性別及び介護保険・健康保険の自己負担割合の情報を収集します。事前に療養者に確認をお願いします。

はい

3. 事前・事後アンケートに回答します。*

この申請フォームが事前アンケートを兼ねており、事後アンケートは、選抜2週間後に申請者のメールアドレス宛にお送りするURLリンクから回答いただく形になります。このうち必須回答項目については、感染防護具を配布するために必要な内容、あるいは物品のご寄付をいただいた日本財団様・メットライフ生命保険様のご希望を反映した内容となっておりますため、必ず回答をお願いします。

はい

4. （申し込み者が介護職の方の場合）医師や看護師に確認します。*

申し込み者が介護職の方の場合、あらかじめ医師や看護師に状況を報告し、防護具の使用が推奨される状況であることを確認をお願いします。

はい

申し込み者や感染防護具の送付先についてご記入ください。

5. 事業所管理者氏名*

申し込み者の姓名を記入してください。姓名の間にスペースを入れてください。（例：訪問 花子）

回答を入力

6. 事業所管理者氏名ふりがな*

申し込み者の姓名をひらがなで記入してください。姓名の間にスペースを入れてください。（例：ほろもん はなこ）

回答を入力

7. 事業所名*

申し込み者の所属する事業所名を記入してください。（例：〇〇訪問看護ステーション）

回答を入力

8. 事業所番号*

申し込み者の所属する事業所の事業所番号を数字10桁で記入してください。

回答を入力

9. 事業所郵便番号*

郵便番号7桁をハイフンを入れずに記入してください。（例：1500001）

回答を入力

10. 事業所住所*

事業所の住所を、都道府県名から記入してください。（例：東京都渋谷区神宮前5-8-2）感染防護具セットは、事業所の住所にお送りします。

回答を入力

11. 事業所管理者電話番号*

この申し込みの件で連絡が取りやすい電話番号を、ハイフンを入れずに記入してください。できるだけ携帯電話番号をご記入ください。（例：09099999999）

回答を入力

12. 事業所管理者の職種*

申し込み者の方の主な職種を1つ選択してください。

- 看護職（看護師・准看護師・保健師・助産師）
- リハビリテーション職種（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
- 介護職（介護福祉士・訪問介護員）
- 介護支援専門員
- その他:

療養者の状態について

ここからは、事前アンケートとして療養者の状況や療養環境についてお聞きします。

13. この申請の対象となる療養者について防護具の申請をするのは何回目ですか？*

- 初めて (1回目)
 2回目
 3回目
 その他:

14. 療養者の性別*

資料の使用が必要になった療養者の性別を選択してください。

- 男性
 女性

15. 療養者の年代*

資料の使用が必要になった療養者の年代を選択してください。

- 20歳未満
 20歳代
 30歳代
 40歳代
 50歳代
 60歳代
 70歳代
 80歳代
 90歳以上

16. 療養者の要介護度*

- 介護保険の対象外
 要支援1
 要支援2
 要介護1
 要介護2
 要介護3
 要介護4
 要介護5

17. 療養者の認知機能障害

資料の使用が必要になった療養者における認知機能障害の有無を教えてください。

- 認知機能障害がある
 認知機能障害はない

18. 療養者の介護保険の自己負担割合*

- 公費負担
 1割
 2割
 3割
 介護保険の対象外

19. 療養者の医療保険（健康保険等）の自己負担割合*

- 公費負担
 1割
 2割
 3割

20. 対象となる療養者の状況（複数選択）*

資料の使用が必要になった療養者の状況・症状について、あてはまるものをすべてを選択してください。（1つも該当しない場合は、本事業の資料提供対象になりません。）

- 療養者が感染し、自宅療養（PCR検査陽性）
 療養者が濃厚接触者になった（経過観察中）
 療養者が感染後（入院治療後、退院）
 療養者に感染を疑わせる症状がある
 療養者の同居家族が感染し、自宅療養（PCR検査陽性）
 療養者の同居家族が濃厚接触者となった（経過観察中）
 療養者の同居家族が感染後（入院治療後、退院）
 その他:

21. 前問で回答した状況が最初に発生した日を教えてください。(半角入力、例:2020/08/01)*

日付
yyyy/mm/dd

22. 対象となる療養者の症状（複数選択）*

療養者についての情報を記入してください。【感染した人が同居家族であっても、療養者の状態を記入のこと】

- 体温が普段より高い
 酸素飽和度が普段より低い
 咳
 呼吸困難感
 痰
 倦怠感
 筋肉痛
 頭痛
 味覚異常
 嗅覚異常
 通常と変わらない
 その他:

感染防護具支援プロジェクト事後アンケート

「日本訪問看護財団感染防護具支援プロジェクト」の事後アンケートにご回答をお願いいたします。メールアドレスは、申請時に使ったアドレスと同じものをご記入ください。

shien2020jvnf@gmail.com [アカウントを切り替える](#)



*必須

メールアドレス*

メールアドレス

1. 事業所管理者氏名*

申込み者の姓名を記入してください。姓名の間にスペースを入れてください。(例: 松岡 花子)

回答を入力

2. 事業所番号*

回答を入力

今回の申請理由となった療養者の状況や療養環境などについてご記入ください。

3. 療養者の性別*

- 男性
- 女性

4. 療養者の年代*

- 20歳未満
- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代
- 70歳代
- 80歳代
- 90歳以上

5. 療養者の要介護度*

- 介護保険の対象外
- 要支援1
- 要支援2
- 要介護1
- 要介護2
- 要介護3
- 要介護4
- 要介護5

6. 今回の申請理由となった療養者は継続してサービスを受けられましたか？

- はい
- いいえ

7. 対象となった療養者の現在の状況を教えてください。

- 治癒
- 入院（入院後治癒した方も含む）
- 死亡
- その他:

10.（今回の療養者への対応に限らず）発熱など、新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者が出た場合に、当該利用者へのサービスを継続することにはしていますか。

- はい
- いいえ
- はっきり決まっていない

8-1. 当該療養者の今回の診断は新型コロナウイルス感染症でしたか？

- 新型コロナウイルス感染症だった
- その他:

11. 今回の療養者への対応より前に、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービスを減らしたり停止したりしたことがありましたか。

- はい
- いいえ

8-2. 今回の申請が療養者の家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の疑いによるものだった場合、当該の家族や介護者の実際の診断はいかがでしたか？

- 新型コロナウイルス感染症だった
- その他:

12.（前問で「はい」と回答された方のみ）サービス減少・停止の経験の理由として最も当てはまるのはどれですか。

- 感染防護具の不足
- 知識やノウハウの不足
- 人材の不足
- 感染への不安
- その他:

貴事業所の体制などについてご記入ください。

9.（今回の療養者への対応に限らず）利用者に新型コロナウイルスの感染者が発生した場合に、当該利用者へのサービスを継続することにはしていますか。

- はい
- いいえ
- はっきり決まっていない

13. 新型コロナウイルスの感染対策マニュアル等を用意していますか。

- はい
- いいえ

21. 送付された防護具を使って訪問した「合計日数」を教えてください。*
計2名が1日2回→5日訪問した場合は：「5」と回答

回答を入力

27. 「フェイスシールド」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

22. 送付された防護具を使って訪問した「合計回数」を教えてください。*
計2名が1日2回→5日訪問した場合は：「20」（2人×2回×5日）と回答

回答を入力

28. 「ヘアキャップ」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

23. 「N95マスク」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

29. 「消毒液」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

24. 「サージカルマスク」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

30. 「スリッパ」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

25. 「カウン」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

26. 「手袋」の量は十分でしたか？

- 不十分
- 適量
- 多すぎる

14. 今回のプロジェクトを知った経緯を教えてください。(複数選択)

- 日本訪問看護財団ホームページ
- 日本看護協会
- 全国訪問看護事業協会
- 日本在宅ケアアライアンス
- 日本訪問看護認定看護師協議会
- 都道府県看護協会
- 都道府県訪問看護連絡協議会など
- 都道府県のお知らせ
- 市町村のお知らせ
- 地域包括支援センター
- MCS (Medical Care station)
- Facebook
- その他:

15. 申請してから到着までの日数を数字で教えてください。(単位:日)

回答を入力

16. 申請から防護具到着までの日数についての満足度を教えてください。

	1	2	3	4	5	
不満	○	○	○	○	○	満足

17. 送付された防護具を使用した人・職種を教えてください。(複数選択) *

- 療養者本人
- 療養者の家族
- 看護職 (看護師・准看護師・保健師・助産師)
- リハビリテーション職種 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)
- 介護職 (介護福祉士・訪問介護員)
- 医師
- その他:

18. 送付された防護具を使用した人のうち、「女性」の人数を教えてください。*

療養者本人、家族、サービス提供職種のうち女性の合計人数

回答を入力

19. 送付された防護具を使用した人のうち、「男性」の人数を教えてください。*

療養者本人、家族、サービス提供職種のうち男性の合計人数

回答を入力

20. 送付された防護具を使用した人のうち、「介護保険サービス(あるいは、医療保険サービス)の自己負担割合が1割以下の人」の人数を教えてください。*

療養者本人+家族のうち1人が1割負担または自己負担なし(生活保護など)である場合:「2」と回答

回答を入力



日本訪問看護財団 「感染防護具支援プロジェクト」

新型コロナウイルス感染症（疑い）療養者の在宅ケアチームに 感染防護具セットを無料で配布

日本訪問看護財団は「感染防護具支援プロジェクト」事務局を運営して、感染（疑い）療養者のケアチームに感染防護具を無料で配布します。感染の蔓延を防止するために、訪問看護ステーションや訪問介護事業所等の在宅ケアチームで有効にお使いいただくことを願っています。

なお、本事業は、日本財団様・メットライフ生命保険様からのご寄付により、新型コロナウイルス感染症対策の一環として実施しているものです。

■申し込み者（事業所）：訪問看護ステーション（訪問介護事業所・居宅介護支援事業所含む） 代表者

※申し込み者は、感染症（疑い）療養者の在宅ケアを行う事業所です。

※感染症（疑い）療養者は次のような方です。

- ・新型コロナウイルス感染症陽性（疑い含む）を医師又は看護師に認められた在宅療養者（又は同居家族）
- ・新型コロナウイルス感染症による入院から退院した患者等

■支援期間：2020年7月27日（予定）から2021年3月末（予定）（在庫がなくなり次第終了）。

■感染防護具等支援物資（図表参照）

在宅ケアチームに送付する物資のイメージ(1週間分セット)



内容	数量
N95 マスク	5
フェイスシールド	18
サージカルマスク	50
使い捨て手袋	100
使い捨てガウン	18
ヘアキャップ	18
使い捨てスリッパ	5
手指消毒剤	1
マスキングテープ	1
ジッパー付き多機能袋／ゴミ袋	各 50

<お問合せ先>

事務局) 公益財団法人日本訪問看護財団 感染防護具支援プロジェクト担当
 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5 階
 電話番号：03-5778-7006(7月16日より開通) 03-5778-7001(代表)
shien2020@jvnf.or.jp <https://www.jvnf.or.jp/>
 協力) COVID-19 在宅医療・介護現場支援プロジェクト <https://covid19hc.info/>

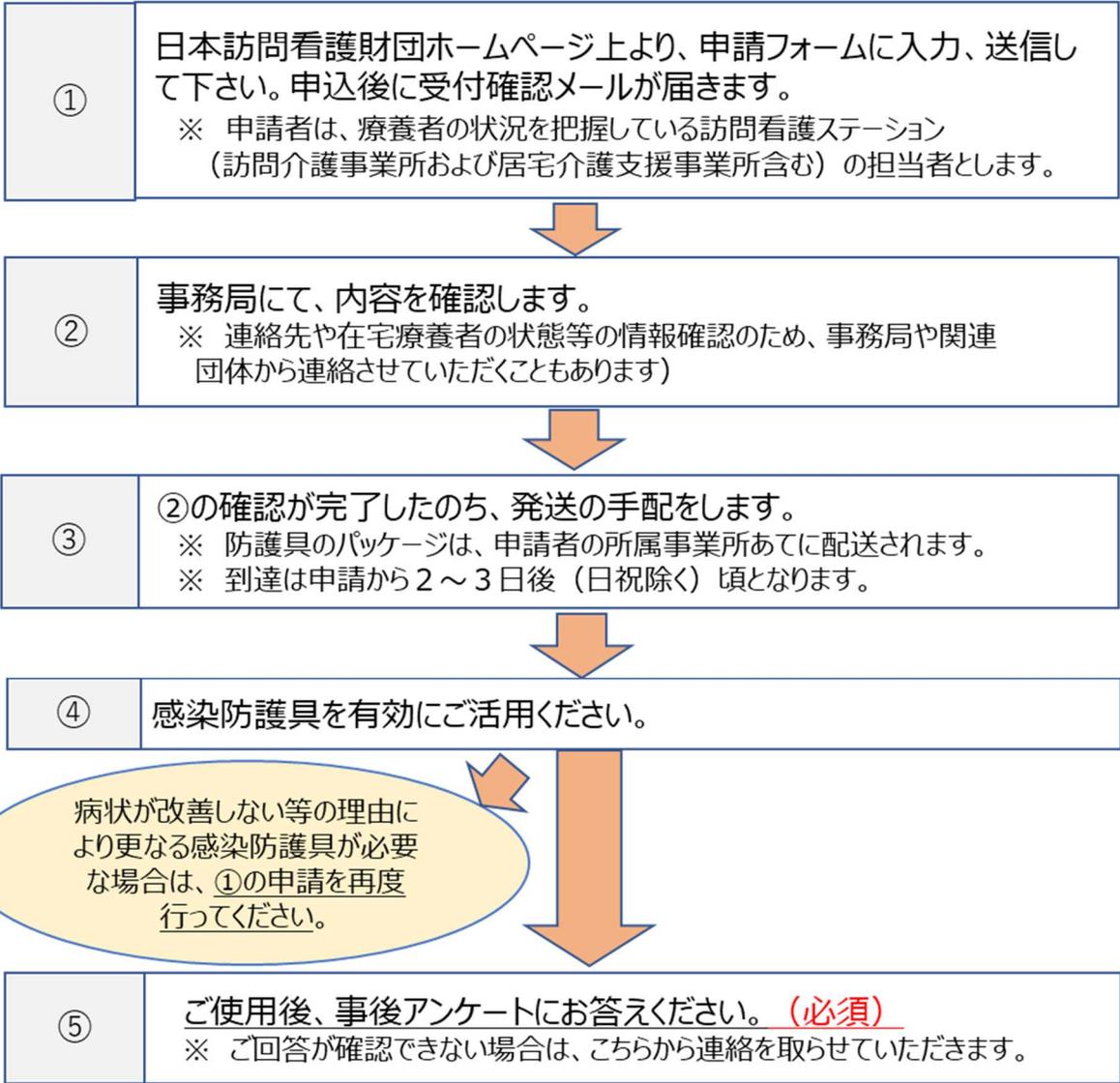




日本訪問看護財団『感染防護具支援プロジェクト』 無償配送の流れ

本事業は、日本財団様・メットライフ生命保険様のご寄付により、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、**在宅ケアチーム**の事業所へ感染防護具を**無償**で送付するものです。支援にあたっては、本事業にご寄付をいただいた団体様より、以下を条件とするよう求められています。

- 備蓄目的でないこと
- 事前事後のアンケートに協力すること(療養者の性別・保険料負担割合などの設問を含む)
- 療養者や関係者の個人情報及び関係団体に関する情報の漏洩を防止すること



<お問合せ先>
 事務局) 公益財団法人日本訪問看護財団 感染防護具支援プロジェクト担当
 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル5階
 電話番号：03-5778-7001, 03-5778-7006 shien2020@jvnf.or.jp <https://www.jvnf.or.jp/>
 協力) COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト <http://covid19hc.info/>





日本訪問看護財団「感染防護具支援プロジェクト」

在庫残り
2,281箱
2021年4月30日現在

感染防護具を無料配布

日本訪問看護財団は、感染防護具を**無料配布**しています。

感染の蔓延を防止するために、在宅ケアチームで有効にお使いいただくことを願っています。

(本事業は、日本財団様・メットライフ生命保険様からのご寄付です)

■お申込み対象は次の事業所です

- 訪問看護ステーション 訪問介護事業所 居宅介護支援事業所
- 看護多機能型居宅介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所

■次のような状態の療養者やそのご家族がいる場合はお申込みいただけます

新型コロナウイルス感染者（疑いを含む）

- 新型コロナウイルス感染者（自宅療養中・宿泊療養中）
- 感染したため入院治療後、退院患者
- 濃厚接触者（自宅で経過観察中）

新型コロナウイルス感染の疑いの為使用したい

- 発熱、味覚障害など感染を疑わせる症状がある
- 吸引や人工呼吸器を使用し、エアロゾル感染が考えられる
- 感染拡大地域から家族または介護者が戻ってきて感染が疑われる
- その他

上記のいずれかに該当する場合、支援の対象になりますので、すぐにお申込みください。

お申込みは Web ページで受け付けています。



★本事業にご寄付をいただいた団体様より、申込者には次の条件が求められています。ご注意ください。

- 備蓄目的でないこと
- 事前事後アンケートへのご協力（療養者の性別・保険料負担割合などの設問を含む）
- 療養者や関係者の個人情報及び関係団体に関する情報の漏洩を防止すること



日本訪問看護財団 「感染防護具支援プロジェクト」

■ 感染防護具等支援物資 (図表参照)

在宅ケアチームに送付する物資のイメージ(1週間分セット)



内容	数量
N95 マスク	5
フェイスシールド	18
サージカルマスク	50
使い捨て手袋	100
使い捨てガウン	18
ヘアキャップ	18
使い捨てスリッパ	5
手指消毒剤	1
マスキングテープ	1
ジッパー付き多機能袋/ゴミ袋	各 50



N訪問看護ステーション (S県)



K訪問看護ステーション (D県)



訪問看護ステーションおみち (大阪府)



訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ (大阪府)



訪問看護ステーション喜 (静岡県)



おもて参遍訪問看護ステーション (東京都)

<お問合せ先>
 事務局) 公益財団法人日本訪問看護財団 感染防護具支援プロジェクト担当
 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5階
 電話番号: 03-5778-7006 (9:00~16:00 土日祝日を除く)
shien2020@jvnf.or.jp https://www.jvnf.or.jp/covid-19_project2020.html
 協力) COVID-19 在宅医療・介護現場支援プロジェクト <https://covid19hc.info/>

日本財団・メットライフ生命支援事業

「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク 協力団体一覧

公益財団法人 日本訪問看護財団 2022年2月1日現在

No	地方	地域	事業所名	TEL	ホームページURL
事業協力		COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト(在宅医療・介護の有志による)			
広報協力		公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人 全国訪問看護事業協会、日本在宅ケアアライアンス、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会			
■協力事業所 ※1 緊急配送や相談支援等にご協力を頂いています。					
1	北海道	北海道札幌市	訪問看護ステーション春の詩	011-887-7285	www.koharubi-harunouta.com
2		北海道茅渚郡森町	サムハラ訪問看護ステーション	01374-7-1590	http://ho_kaipoke.biz/hbu/
3		北海道北見市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 北見地域訪問看護ステーション	0157-26-0050	http://hgih.or.jp/
4		北海道旭川市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 旭川地域訪問看護ステーション	0166-23-1488	
5		北海道紋別市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 紋別地域訪問看護ステーション	0158-24-1024	http://hgih.or.jp/
6		北海道稚内市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 稚内訪問看護ステーション	0162-22-0800	
7		北海道登別市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 登別訪問看護ステーション	0143-88-2220	http://hgih.or.jp/
8		北海道札幌市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 札幌中央訪問看護ステーション	011-281-1265	http://hgih.or.jp/
9		北海道標津郡中標津町	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 中標津訪問看護ステーション	0153-79-2020	http://hgih.or.jp/
10		北海道滝川市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 滝川地域訪問看護ステーション	0125-23-7530	http://hgih.or.jp/
11		北海道帯広市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 帯広地域訪問看護ステーション	0155-23-6400	
12		北海道川上郡標茶町	一般社団法人北海道総合在宅ケア 標茶地域訪問看護ステーション	015-485-0783	
13		北海道日高郡新ひだか町	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 新ひだか地域訪問看護ステーション	0146-43-0192	http://hgih.or.jp/
14		北海道釧路市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 釧路地域訪問看護ステーション	0154-32-7082	http://hgih.or.jp/
15		北海道網走市	一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 網走地域訪問看護ステーション	0152-43-6645	
16		北海道札幌市	北海道訪問看護ステーション連絡協議会	011-790-8102	https://www.dohoukan.jp/
17	東北	青森県青森市	じけいかい訪問看護ステーション	017-783-5120	
18		岩手県矢巾町	岩手県訪問看護ステーション協議会	080-2369-0425	https://www.houkan-iwate.com/
19		宮城県仙台市	セコム仙台北訪問看護ステーション	022-728-8826	http://medicai.secom.co.jp/
20		秋田県秋田市	訪問看護ステーションあきた	018-853-4120	

日本財団・メットライフ生命支援事業

「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク 協力団体一覧

公益財団法人 日本訪問看護財団 2022年2月1日現在

No	地方	地域	事業所名	TEL	ホームページURL
事業協力		COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト(在宅医療・介護の有志による)			
広報協力		公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人 全国訪問看護事業協会、日本在宅ケアアライアンス、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会			
■協力事業所 ※1 緊急配送や相談支援等にご協力を頂いています。					
21	東北	山形県東田川郡三川町	訪問看護ステーションここ	0235-77-1025	https://kukurunico.com
22		福島県田村郡三春町	在宅看護センター陽だまり 訪問看護リハビリステーション	0247-61-6799	http://hp.kaipoke.biz/c5x/140689/base_0007.html
23		福島県北沢又字番匠田5	訪問看護ステーションしみず	024-558-8060	
24		福島県石川郡平田村	誠励会 訪問看護ステーションひらた	0247-25-1355	home-visit.hirata@seireikai.net
25		福島県南相馬市	ライブラリー南相馬訪問看護ステーション	0244-25-4050	http://care-net.biz/07/raiburi/
26		福島県郡山市田村町	田村訪問看護ステーション	024-955-6331	
27		福島県会津若松市	一般社団法人 福島県訪問看護連絡協議会会津支部 会津中央訪問看護ステーション	0242-36-5050	
28	関東	茨城県水戸市	一般社団法人ふうりん 訪問看護ステーションふうりん	029-350-6015	http://www.furin-kango.com/
29		埼玉県川口市	公益社団法人埼玉県看護協会 鳩ヶ谷訪問看護ステーション	048-281-7102	
30		埼玉県秩父市	公益社団法人埼玉県看護協会 秩父訪問看護ステーション	0494-25-2282	
31		埼玉県新座市	医療法人社団武蔵野会 訪問看護ステーションつくし	048-487-2345 (平日9:00~16:30)	http://www.tmg-houmonkango.jp/tsukushi/
32		埼玉県さいたま市	一般社団法人 埼玉県訪問看護ステーション協会	048-767-7971	https://sai-houkan.com
33		埼玉県越谷市	越谷市医師会立訪問看護ステーション	048-910-9137	https://www.koshigaya-med.or.jp/houkan/
34		埼玉県蓮田市	コスモ訪問看護リハビリステーション蓮田	048-768-1155	http://www.cosmonurse.jp/cn5/pg224.html
35		埼玉県鴻巣市	公益社団法人埼玉県看護協会 吹上訪問看護ステーション	048-547-2020	https://www.nurse-saitama.jp/station_top/station_fukiage/
36		埼玉県日高市	医療法人積仁会 あさひヶ丘訪問看護ステーション	042-989-7180	https://sekiinikai.or.jp/nursingrelated/station/
37		埼玉県川越市	株式会社すまいる・ランド なずな訪問看護ステーション	049-298-7261	
38		埼玉県熊谷市	熊谷生協訪問看護ステーション	048-524-0030	https://www.mcp-saitama-kaigo.com/office/kumagaya/
39		千葉県柏市	訪問看護ステーション ビュートソルフ柏	メールをいただければ折り返せるときに折り返しお電話します。 info@neighborhoodcare.jp	http://neighborhoodcare.jp/
40		千葉県中央区	訪問看護ステーションひとみ	043-291-2277	https://www.houkanhitomi.com/

日本財団・メットライフ生命支援事業
「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク 協力団体一覧

					公益財団法人 日本訪問看護財団 2022年2月1日現在
事業協力	COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト(在宅医療・介護の有志による)				
広報協力	公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人 全国訪問看護事業協会、日本在宅ケアアライアンス、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会				
■協力事業所 ※1 緊急配送や相談支援等にご協力を頂いています。					
No	地方	地域	事業所名	TEL	ホームページURL
41	関東	千葉県船橋市	ふたわ訪問看護ステーション	047-440-5111	
42		千葉県船橋市	セコム船橋本町訪問看護ステーション	047-495-5251	http://medical.secom.co.jp/
43		東京都江戸川区	ウィル訪問看護ステーション江戸川	03-5678-6522	https://www.wvl.co.jp/
44		東京都江東区	アイルビー訪問看護ステーション	03-5875-8626	http://hp.kaipoke.biz/e4f/100131/index_0007.html
45		東京都北区	あすか山訪問看護ステーション	03-5959-3121	https://www.ivnf.or.jp/asukayama/category/blog/
46		東京都渋谷区	おもて参道訪問看護ステーション	03-3486-4161	https://www.ivnf.or.jp/omote/
47		東京都豊島区	セコムとしま訪問看護ステーション	03-3947-5750	https://medical.secom.co.jp/
48		東京都武蔵野市	セコム吉祥寺訪問看護ステーション	0422-23-7177	https://medical.secom.co.jp/
49		東京都国立市	セコム国立訪問看護ステーション	042-580-6761	https://medical.secom.co.jp/
50		東京都目黒区	ナースステーション東京 目黒支店	03-6417-0561	https://www.zaitakucare.or.jp/
51		東京都調布市	調布市訪問看護ステーション協議会	042-499-7731	
52		神奈川県藤沢市	在宅看護センターLife&Com	0466-22-7670	https://life-and-com.jp/
53		神奈川県藤沢市	ナースケア湘南訪問看護ステーション	0466-23-4500	https://nursecare.co.jp
54		神奈川県相模原市南区	りあん	042-748-5422	https://info499420.wixsite.com/kansha
55	信越・中部	新潟県佐渡市	どんぐり訪問看護ステーション	0259-58-7422	https://www.facebook.com/donguri.visitingnursing_sado/
56		富山県富山市	光風会訪問看護ステーション	076-411-8112	http://koufukukai.jp/
57		富山県富山市	公益社団法人富山県看護協会 訪問看護ネットワークセンター	076-431-0230	http://www.toyama-houmon-kango.net/
58		石川県輪島市	訪問看護ステーションみなぎ	090-5681-6562	http://www.swkouwa.com/service20/
59		石川県羽咋市	合同会社愛笑 訪問看護ステーションあわら	0767-22-0105	https://awara-hakui.com/
60		山梨県甲府市	公益社団法人山梨県看護協会 ゆうき訪問看護ステーション	055-222-7448	https://www.yna.or.jp

日本財団・メットライフ生命支援事業
「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク 協力団体一覧

				公益財団法人 日本訪問看護財団 2022年2月1日現在		
事業協力	COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト(在宅医療・介護の有志による)					
広報協力	公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人 全国訪問看護事業協会、日本在宅ケアアライアンス、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会					
■協力事業所 ※1 緊急配送や相談支援等にご協力を頂いています。						
No	地方	地域	事業所名	TEL	ホームページURL	
61	信越・中部	長野県松本市	長野県訪問看護ステーション連絡協議会	0263-39-3955	http://shinano-houkan.com/	
62		岐阜県高山市	岐阜県看護協会立訪問看護ステーション高山	0577-35 2566	https://www.gifu-kango.or.jp/houmon-care/houmon-care.html	
63		岐阜県飛騨市	訪問看護ステーション古川	0577-73-7566	https://www.gifu-kango.or.jp/houmon-care/houmon-care.html	
64		岐阜県下呂市	訪問看護ステーション下呂	0576-23-0231	https://www.gifu-kango.or.jp/houmon-care/houmon-care.html	
65		岐阜県高山市	訪問看護ステーション荘川	0577-35-2566	https://www.gifu-kango.or.jp/houmon-care/houmon-care.html	
66		岐阜県高山市	訪問看護ステーション久々野	0577-35-2566	https://www.gifu-kango.or.jp/houmon-care/houmon-care.html	
67		岐阜県高山市	訪問看護ステーション上宝	0578-86-0066	https://www.gifu-kango.or.jp/houmon-care/houmon-care.html	
68		静岡県静岡市清水区	訪問看護ステーション エイム	054-355-0086		
69		愛知県名古屋市長区	セコム名古屋北訪問看護ステーション	052-910-7671		
70		愛知県豊田市	豊田地域医療センター在宅医療支援センター	0565-34-3143		
71	愛知県田原市	マミーズ訪問看護ステーション	0531-36-6512	https://tahirakango.com		
72	近畿	三重県桑名市	訪問看護ステーションれんげの里	0594-84-5222		
73		三重県津市	一般社団法人 三重県訪問看護ステーション協議会	059-273-5167	https://www.mie-nurse.or.jp/st-mie/	
74		滋賀県甲賀市水口町	地方独立行政法人 公立甲賀病訪問看護ステーション	0748-65-3160		
75		滋賀県甲賀市水口町	訪問看護ステーションさと水口	0748-65-3103	http://www.aoba-sato.com/	
76		京都府京都市	訪問看護ステーションひなた	075-203-7302		
77		大阪府池田市	フリーステーション訪問看護ステーション	072-750-6255	https://www.free-st.jp/	
78		大阪府豊中市	刀根山訪問看護ステーション	06-6853-5231		
79		大阪府大阪市	訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ	06-6678-2501	https://www.heartfree.or.jp/kango/kango.html	
80		大阪府和泉市	光明荘訪問看護ステーション	0725-57-8230	http://www.osi.or.jp/koumyou/	

日本財団・メットライフ生命支援事業

「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク 協力団体一覧

公益財団法人 日本訪問看護財団 2022年2月1日現在

事業協力	COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト(在宅医療・介護の有志による)	
広報協力	公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人 全国訪問看護事業協会、日本在宅ケアアライアンス、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会	

■協力事業所 ※1 緊急配送や相談支援等にご協力を頂いています。

No	地方	地域	事業所名	TEL	ホームページURL
81	近畿	大阪府吹田市	大阪府済生会吹田訪問看護ステーション	06-6318-5522	https://www.suita_saiseikai.or.jp/
82		大阪府大阪市東住吉区	葵訪問看護ステーション	06-6760-6820	http://comfort-aoi.co.jp/
83		大阪府大阪市住吉区	ぐり〜ん2訪問看護ステーション	06-6654-8963	https://www.green-glass.net
84		大阪府大阪市西区	多根訪問看護ステーション	06-6581-1651	https://home-nursing.tane.or.jp/
85		兵庫県神戸市須磨区	北須磨訪問看護・リハビリセンター	078-741-4001	https://kitasuma-homonkango.com/
86		兵庫県神戸市中央区	公益社団法人兵庫県看護協会 神戸訪問看護ステーション	078-341-1201	https://www.hna.or.jp/
87		兵庫県神戸市西区	おひさま訪問看護ステーション	078-995-9630	https://goodplanning.co.jp/ohisama/company/
88		兵庫県養父市	公立八鹿病院 南但訪問看護センター	079-662-6495	http://fukushi.hosp.yoka.hyogo.jp/
89		兵庫県神戸市須磨区	医療法人社団慈恵会 もみじ訪問看護ステーション	078-732-3715	https://momiji-suma.com/
90		兵庫県洲本市	ジャック訪問看護リハステーション	0799-28-0300	
91	中国・四国	奈良県奈良市	奈良市訪問看護ステーション連絡会 (事務局)奈良市在宅医療・介護連携支援センター	0742-33-5244	http://nara_med.or.jp/nara-city/
92		和歌山県紀の川市	訪問看護ステーション麒麟	0736-74-3116(代表)	http://www.kovokai.or.jp/
93		鳥取県鳥取市	公益社団法人鳥取県看護協会 鳥取県訪問看護支援センター	0857-24-1533	http://shien.tottori-kangokvokai.or.jp/
94		島根県益田市	訪問看護ステーション患風	0856-25-7571	
95		島根県出雲市	訪問看護ステーション彩雲	0853-25-8844	
96		岡山県岡山市中区	岡山訪問看護ステーション看護協会 Myステーション看護協会北長瀬	086-901-1373	
97		広島県呉市	ほっと・はあとステーションてのひら	0823-36-7284	
98		広島県広島市中区	にじのはな在宅看護センター	082-258-3339	http://nijinohana.com/
99		徳島県徳島市	徳島市医師会訪問看護ステーション	088-622-1193	https://www.tokushimashi-med.or.jp/h_kango_s.html
100		徳島県吉野川市	あおぞら内科訪問看護ステーション	0883-36-9227	https://www.aozora-c.com/

日本財団・メットライフ生命支援事業

「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク 協力団体一覧

公益財団法人 日本訪問看護財団 2022年2月1日現在

No	地方	地域	事業所名	TEL	ホームページURL
81	近畿	大阪府吹田市	大阪府済生会吹田訪問看護ステーション	06-6318-5522	https://www.suita_saiseikai.or.jp/
82		大阪府大阪市東住吉区	葵訪問看護ステーション	06-6760-6820	http://comfort-aoi.co.jp/
83		大阪府大阪市住吉区	ぐり〜ん2訪問看護ステーション	06-6654-8963	https://www.green-glass.net
84		大阪府大阪市西区	多根訪問看護ステーション	06-6581-1651	https://home-nursing.tane.or.jp/
85		兵庫県神戸市須磨区	北須磨訪問看護・リハビリセンター	078-741-4001	https://kitasuma-homonkango.com/
86		兵庫県神戸市中央区	公益社団法人兵庫県看護協会 神戸訪問看護ステーション	078-341-1201	https://www.hna.or.jp/
87		兵庫県神戸市西区	おひさま訪問看護ステーション	078-995-9630	https://goodplanning.co.jp/ohisama/company/
88		兵庫県養父市	公立八鹿病院 南但訪問看護センター	079-662-6495	http://fukushi.hosp.yoka.hyogo.jp/
89		兵庫県神戸市須磨区	医療法人社団慈恵会 もみじ訪問看護ステーション	078-732-3715	https://momiji-suma.com/
90		兵庫県洲本市	ジャック訪問看護リハステーション	0799-28-0300	
91	奈良県奈良市	奈良市訪問看護ステーション連絡会 (事務局)奈良市在宅医療・介護連携支援センター	0742-33-5244	http://nara.med.or.jp/nara-city/	
92	和歌山県紀の川市	訪問看護ステーション麒麟	0736-74-3116(代表)	http://www.kovokai.or.jp/	
93	中国・四国	鳥取県鳥取市	公益社団法人鳥取県看護協会 鳥取県訪問看護支援センター	0857-24-1533	http://shien.tottori-kangokyokai.or.jp/
94		島根県益田市	訪問看護ステーション恵風	0856-25-7571	
95		島根県出雲市	訪問看護ステーション彩雲	0853-25-8844	
96		岡山県岡山市中区	岡山訪問看護ステーション看護協会 Myステーション看護協会北長瀬	086-901-1373	
97		広島県呉市	ほっと・はあとステーションてのひら	0823-36-7284	
98		広島県広島市中区	にじのはな在宅看護センター	082-258-3339	http://niiinohana.com/
99		徳島県徳島市	徳島市医師会訪問看護ステーション	088-622-1193	https://www.tokushimashi-med.or.jp/h_kango_s-html
100		徳島県吉野川市	あおぞら内科訪問看護ステーション	0883-36-9227	https://www.aozora-g.com/

事業協力 COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト(在宅医療・介護の有志による)

広報協力 公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人 全国訪問看護事業協会、日本在宅ケアアライアンス、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

■協力事業所 ※1 緊急配送や相談支援等にご協力を頂いています。

日本財団・メットライフ生命支援事業

「感染防護具支援プロジェクト」ネットワーク 協力団体一覧

					公益財団法人 日本訪問看護財団 2022年2月1日現在
事業協力	COVID-19在宅医療・介護現場支援プロジェクト(在宅医療・介護の有志による)				
広報協力	公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人 全国訪問看護事業協会、日本在宅ケアアライアンス、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会				

■協力事業所 ※1 緊急配送や相談支援等にご協力を頂いています。

No	地方	地域	事業所名	TEL	ホームページURL
101	中国・四国	徳島県阿南市	公益社団法人徳島県看護協会 訪問看護ステーション阿南	0884-24-8772	https://tokushima-kangokukai.or.jp
102		香川県高松市	ゆりかごナースセンター	087-802-2237	1. https://www.facebook.com/rvyouyounet/
103		愛媛県松山市	在宅ケアセンターひなたぼっこ	089-993-6771	https://www.ivnf.or.jp/hinatabokko/
104		愛媛県松山市	愛媛県訪問看護協議会	090-1001-6697	http://ehimestkyougikai.sakura.ne.jp/
105		高知県高知市	一般社団法人高知県訪問看護連絡協議会	088-802-8115	https://www.kochi-houkan.com
106	九州・沖縄	福岡県福岡市南区	ウィル訪問看護ステーション福岡	092-982-3064	https://www.wyl.co.jp/
107		大分県大分市	けいわ訪問看護ステーション大分	097-547-7822	houkan@keiwakai.oita.jp
108		宮崎県宮崎市	認定特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎 訪問看護ステーションばりおん	0985-72-8787	http://www.npo-hhm.jp/
109		熊本県熊本市東区	たっく リハサポートセンター	096-389-1116	
110		沖縄県豊見城市	ウィル訪問看護ステーション豊見城	098-856-8150	https://www.wyl.co.jp/
111		沖縄県うるま市	訪問看護ステーション青空	098-979-3907	
112		沖縄県宮古島市	看護小規模多機能型居宅介護ゴン	0980-72-1771	http://dragon.net



令和2年度 日本財団支援事業
新型コロナウイルス感染防護対策支援
事業報告書

令和4（2022）年3月31日
発行・編集 公益財団法人 日本訪問看護財団
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
日本看護協会ビル5階
TEL.03-5778-7001 FAX.03-5778-7009
<https://www.jvnf.or.jp>